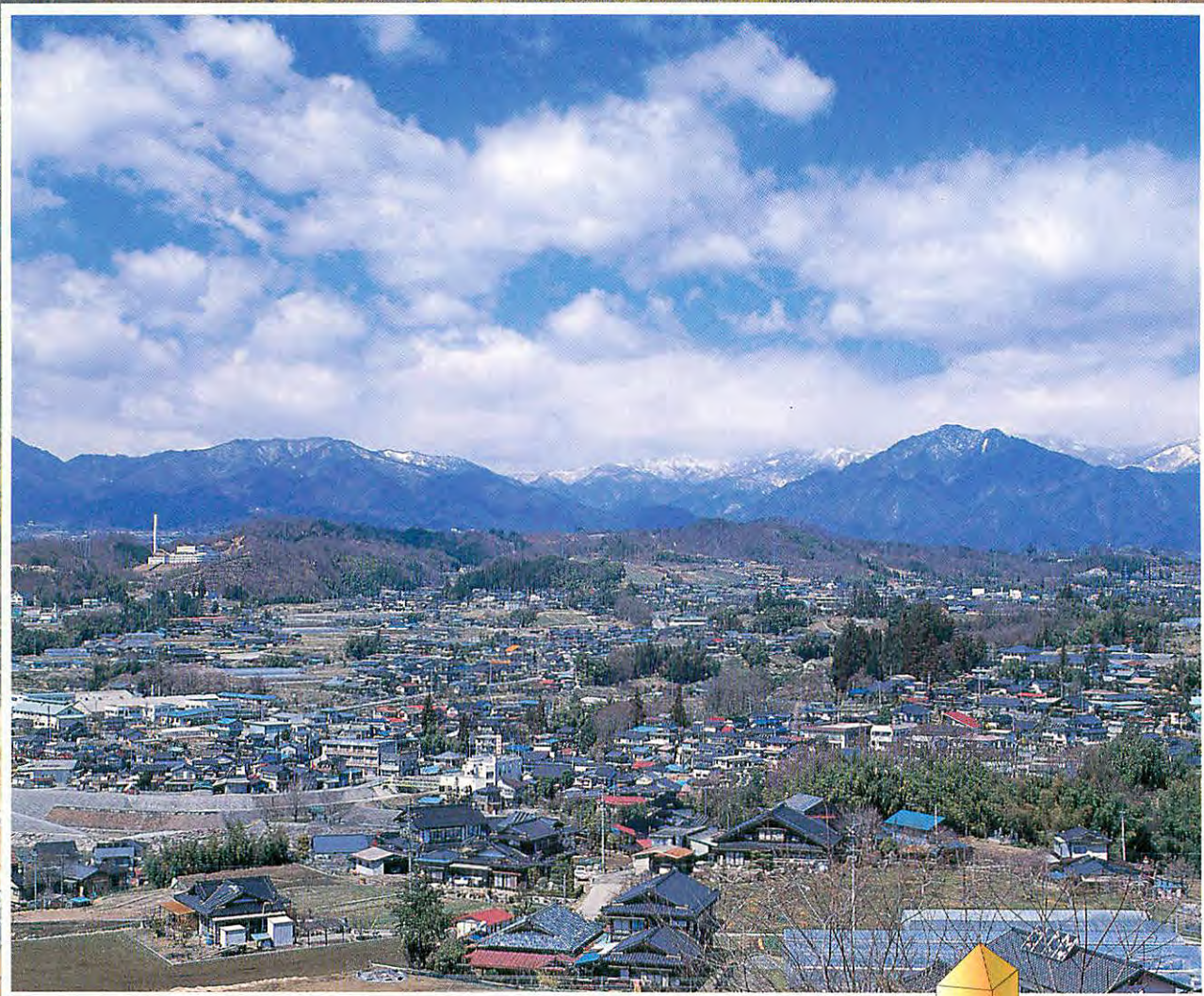




おか
**丘の
みちしるべ**

たつおかへ

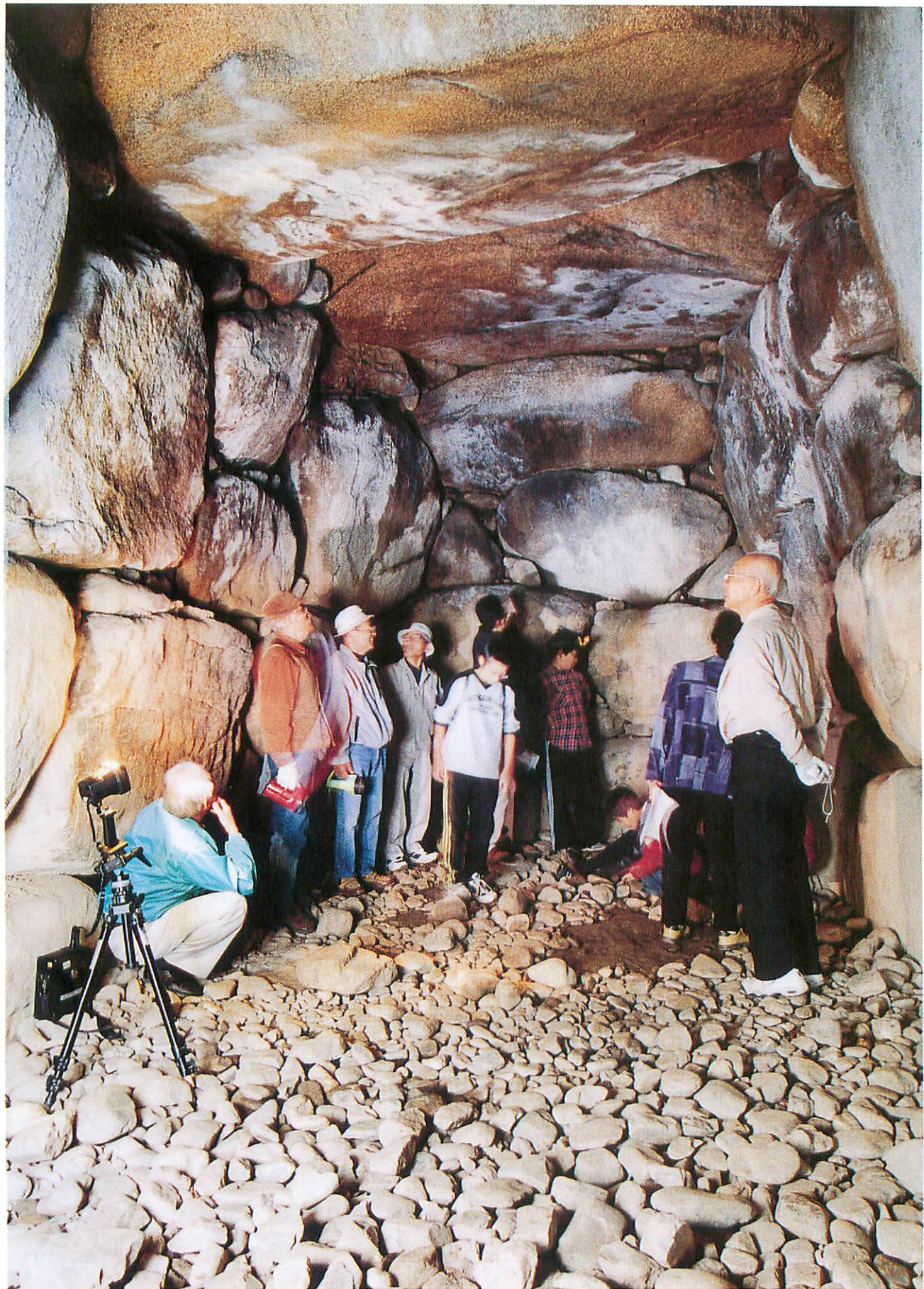
いいだへ

竜丘ふるさと教材

竜丘ふるさと教材『丘のみちしるべ』

目次

わたしたちの郷土「丘」のあらまし	2	III. 自然の豊かな段丘の里	44
I. 古くから受け継いできた宝	3	1. 丘の人々の暮らしを支えてきた川と井水路	44
1. ロマンと謎を語る古墳	3	2. 竜丘の地形と地質を探って里山を知る	47
コース1・上川路・桐林の古墳	5	3. 竜丘の野鳥を知って楽しむ	48
コース2・駄科・長野原の古墳	11	4. 「これはおもしろい生き物！」の今昔	50
2. 先祖の崇めと鎮守の森	13	5. 氷河期の妖精ギフチョウが飛び交う里	54
3. むかしの人々が残した絵馬など	18	6. 竜丘の四季に見られる生き物と草花	55
コース1・屋外で自由に見られるもの	18	7. ほくらが深した自慢の樹木	59
コース2・室内にあるもの	20	8. 里の自然を保護する人々	62
コース3・桐林のお宮・直会殿にあるもの	22	IV. 竜丘の企業や社会施設を調べよう	64
4. 城址を訪ねて	24	1. 発展する企業	64
5. 盛んだったむかしの産業のすがた	25	2. 人々に役立っている社会施設	67
6. 受け継がれてきた祭り行事	27	V. 郷土を学ばれたたち	69
7. 古い道を訪ねて人々の行き来を想う	29	1. 発見！ たつおか！	69
II. 教育や文化財を訪ね、調べて	31	2. 見つけたよ！ 竜丘なんでも一番！	75
1. 文化の中心だった学校のすがた	31	四季折々の散歩みち	77
2. 貴重な桐林人形のかしら	32	1. 鷲流峡～時又港散策コース	79
3. 歌碑などを訪ねる	33	2. 鈴岡公園～南原橋散策コース	83
4. 石造文化・石仏のおもしろさ	35	3. 万寿山公園～ふるさといきもの里コース	87
5. 昔の暮らしを知る館を訪ねて	39	4. ギフチョウ公園～メダカの生息池コース	91
6. 郷土の教育文化に尽くした人々	41	5. 天竜川親水公園～古墳群散策コース	95
		6. 高野眺望～ピオトップ散策コース	99
		索引	102



▲馬背塚古墳の東石室

1. はじめに

人は、直に肌で感じる自然や生活習慣を通して、人間として成長していきます。特に、少年期までの体験は大きな影響を与えています。

わたしたちは、人間形成をつくる環境のことを総称して「文化」と呼んでいいと思います。地域には自然、文化、生活習慣という地域固有の文化があります。わたしたちは、自分の育ったそれらの文化に、いつまでも温かさを感じ、愛着をもっています。

そのような文化を大切に、積極的に体に取り入れることは、とても必要なことです。

2. わたしたちの郷土 竜丘

白井原・桐林上段・上川路高野等の西側丘陵地帯は多種類の生きものが棲息し、地域の東方を流れる天竜川には多くの魚類が泳ぎ、また鶯流峡という景勝地などがあり、自然環境に恵まれています。特に、駄科・桐林・上川路の林野には『ギフチョウ』が棲息し、飯田市の天然記念物として指定を受け、環境庁より『ふるさといきものの里』に指定され、地域の誇りとして、その自然環境保全に努めています。また、地域内には価値ある史跡が多くあります。特に古墳は、その数、実に140基を数え、質量ともに飯伊地方随一といわれています。なかでも兼清塚は飯伊地方最古の前方後円墳です。馬背塚古墳は二つの大きな石室があって、訪れる人々は室内に入り昔びとに想いを寄せること

ができます。神社仏閣には、貴重なものが多く、なかでも開善寺の山門は国の重要文化財に、鐘楼は国の重要美術品に認定されています。大正時代から昭和初期に培われた『自由画教育』は全国的に有名になり、その作品が竜丘小学校に保存されていて、地域の誇りとしているばかりでなく、教育関係者等の関心も高く「竜丘小学校自由画考古室」を多くの人が訪れています。

このように竜丘の地域は、自然、歴史、文化に恵まれ、地域の人々は、子どものころから生活の中に取り入れ、親しみと誇りをもっています。

3. 変わりゆく郷土

竜丘は、飯田市の中央部に位置しており、南北2.9km、東西2.7km、周囲13.9km、広さは7.9km²、標高は365mから565mの間にあります。人口は、平成12年10月現在6,775人、世帯数2,079戸です。25年前には4,932人、1,198戸でしたから、大変な増加です。それは、文化や自然環境が住みよい地域であると共に、道路の整備、企業の進出、公共施設の整備がすすんできているからです。

地域の発展にともなって、環境のことや人々のつながりのことなど考えなくてはならない問題も起きてきています。

わたしたちは、地域の固有な文化を大切に、地域の発展に努めていきたいものです。

I. 古くから受け継いできた宝



▲塚原古墳群

1. ロマンと謎を語る古墳 ~こんなにたくさんの古墳があるの!~

竜丘には、140基もの古墳があったことが記録されています。しかし、開発によりだんだん消滅してしまい、現存する古墳は30基余です。

飯田下伊那地区の古墳数は、約680基を数えますが、この中で竜丘は古墳分布密度が最も高い地域といえます。

飯伊の古墳は、馬具の出土品が多く、馬の生産が集積にかかわっていた人達の墓と見られています。5世紀中頃から大和政権とのかわりを強く受けた地域集団の長が、それぞれほぼ同時代に築いたものと考えられています。

初期の前方後円墳は竪穴式石室です。6世紀になって横穴式石室が出現し後半になって

大規模な石室をもつ前方後円墳が築かれました。

竜丘の古墳の特徴は、前方後円墳です。飯伊の前方後円墳20数基のうち竜丘で9基を数えています。このうち御猿堂古墳、金山二子塚、馬背塚古墳、塚越古墳の4基は大きな横穴式石室をもっています。馬背塚古墳には二つの大きな石室があります。

また、出土した鏡の数は、飯伊出土の50数面のうち竜丘で22面を占めて、御猿堂古墳から出土したと伝えられる四仏四獣鏡は、国の重要文化財になっています。兼清塚古墳出土の二神二獣鏡、鍬塚古墳出土の短甲は飯田市美術館に展示されています。

竜丘の古墳の変遷

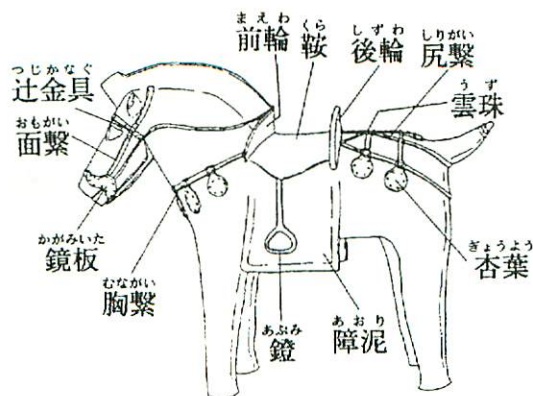
竜丘の前方後円墳の中で、今まで知られているうちで最も古いものは、桐林にある兼清塚古墳です。副葬品などから5世紀のものといわれています。このあとに続く5世紀に造られたと考えられる前方後円墳は、桐林の丸山古墳・大塚古墳・塚原二子塚・駄科の権現塚1号古墳があります。

この時代、大和王権が大阪湾岸に進出し、絶大な権力を有していました。応神・仁徳天皇の墓とされる超特大の古墳が造られ、そして、その頃日本各地にその勢力拡大の拠点がみられます。

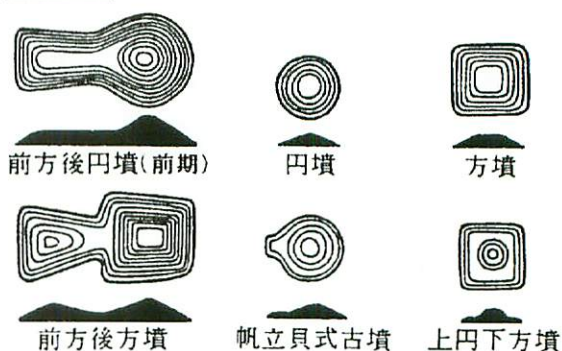
竜丘の古墳は、規模は小さいながらも、その形や副葬品などいろいろな点で、大阪湾岸の大古墳と共通するものがあり、大和政権による東国経営の拠点であったと考えられます。

6世紀になると、大和朝廷が確立する中で直接中央文化の影響を受けながら、上川路の御猿堂古墳・金山二子塚古墳など横穴式石室の古墳が造られ、副葬品にもたくさんの優れた

馬具の名称



古墳の形



た馬具などが見られるようになりました。これらの古墳は、県内で最も古い横穴式石室の古墳の一つといえます。

6世紀後半から7世紀にかけても、前方後円墳の築造は続き、上川路の馬背塚古墳・駄科の塚越1号古墳のように巨石を用いた横穴式古墳が造られました。これは、奈良県飛鳥にある石舞台古墳にみられる巨石古墳の特徴と共通するものがあります。

9基の前方後円墳の近くにある小型の古墳は、その前方後円墳と何らかの関係を持ち、それぞれに意味をもったものです。例えば、上川路の権現塚古墳・塚原の鏡塚古墳・駄科の神送塚古墳などは、中央と直接のつながりをみることのできる短甲などの武具が発見されています。

また、塚原の鏡塚古墳・鏡塚古墳・塚原3号古墳など、帆立貝型とよばれる形の古墳は、近畿地方にみられる大型古墳の周囲に隷属的な位置に造られた古墳の形で、大きな特徴の一つです。

(飯田市教育委員会博物館課埋蔵文化財係 小林正春氏)

コース1

上川路・桐林の古墳



① 御猿堂古墳 → ② 権現塚古墳 → ③ 宮ノ脇2号古墳 → ④ 馬背塚古墳 → ⑤ 金山二子塚古墳
 → ⑥ 黄金塚古墳 → ⑦ 鎧塚古墳 → ⑧ 塚原二子塚古墳 → ⑨ 内山塚古墳 → ⑩ 鏡塚古墳
 → ⑪ 塚原3号古墳 → ⑫ 蒜田古墳 → ⑬ 兼清塚古墳 → ⑭ 大塚古墳 → ⑮ 丸山古墳

① 御猿堂古墳

開善寺の西南約200mにある前方後円墳で、県の史跡指定を受けています。国道151号線から見ると墓石が並んでおり、上部はほとんどお墓になっています。

墳丘の長さは約66m、後円部の南側の中腹に横穴式石室の入り口があり、奥行き11m、高さ2m以上の大きな石室で、入り口は狭いが中に入ることができます。

四仏四獣鏡、勾玉・切子玉、環頭柄頭などの
 武具、轡・
 雲珠などの
 馬具、靱・盾
 のある埴輪など
 出土しています。



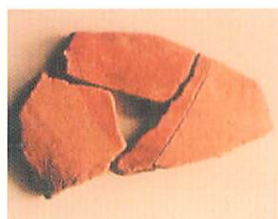
▲御猿堂古墳出土の四仏四獣鏡



▲御猿堂古墳後円部石室開口付近



▲御猿堂古墳出土の形象埴輪・靱



▲御猿堂古墳出土の形象埴輪・盾

② 権現塚古墳

上川路西部にある小規模な古墳。墳丘は削り取られたりして変形しています。昭和24年道路工事で東面^{けず}を削り取ったら、高さ1m、幅0.8mほどの石室が現れ、鏡・直刀・短^{ちよくとう}・馬具など出土したので、発掘を中止し埋^{たん}め戻したといわれています。鈴付鏡板は半分ほど無くなっているが、飯伊では他に例がないそうです。



◀権現塚古墳全景



▲権現塚古墳出土の鈴付鏡板(残片)



▲権現塚古墳出土の朱文鏡

③ 宮ノ脇2号古墳

馬背塚古墳の西100mほどの山の斜面に造られた古墳で、小さな横穴式石室の玄室が露^ろ出^{しゅつ}しています。



▲宮ノ脇2号古墳石室

④ 馬背塚古墳

開善寺裏の国道151号線を隔てた北の高台^{へだ}にある前方後円墳で、県の史跡指定を受けています。墳丘は相当変形していますが、長さ46m、後円部の高さは約6mです。



▲馬背塚古墳全景

この古墳の特徴は、前方部・後円部それぞれに大きな横穴式石室を持っています。特に東側の石室の規模は、飯伊地区では最大といわれ奥行きが12m、高さ3m以上もあり、全国の巨大古墳にも劣^{おと}らない巨石が使われています。

一つの古墳に二つの石室をもつ例は県内ではあまり無く、飯伊では松尾のおかん塚古墳のみです。石室の入り口は大きく開いており、

内部を見学することができます。出土品は、不明で全くありません。

造られたのは、古墳時代の終わりで、飯伊地区では最後のものといわれています。



▲石室見学で賑わう馬背塚古墳

⑤ 金山二子塚古墳

上川路金山地区にある前方後円墳で、墳丘は削られて宅地や畑や墓地になっていてたいへん変形しています。

後円部に横穴式の石室があります。^{せんだうぶ}羨道部は削られて無く、^{げんしつ}玄室だけが残っています。入り口は開いていますが、中には^{どしゃ}土砂が^{たいせき}堆積して入ることはできません。玄室の長さは3.6mほどで天井石4枚がのってて、壁の石には朱が^ぬ塗られていたといわれています。前方部にも横穴式石室があったそうです。

出土品には^{すず}鈴・^{さんかんれい}三環鈴などがあります。



⑥ 黄金塚古墳

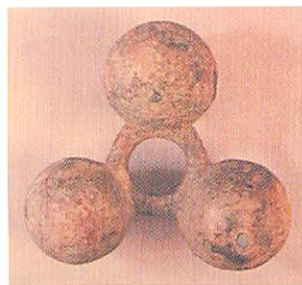
塚原の最南端、鎧塚の南約200mの雑木林のなかにある径20mほどの円墳。封土は大分削り取られています。明治15年発見したとい^{ないこうかもんきょう}う内行花文鏡が出土しています。



▲黄金塚古墳



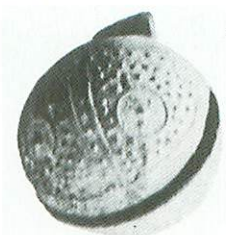
◀黄金塚古墳出土の内行花文鏡



▲金山二子塚古墳出土の三環鈴



鈴 ◆



◀金山二子塚古墳全景

⑦ 鎧塚古墳

塚原二子塚の南西約100mほどにあるあまり高くはないが、長さ58mもある古墳です。

竪穴式石室があったが、石室とともに頂部を削り取られたものといわれています。

ここから形の整った短甲が出土したので鎧塚と呼ばれています。



▲鎧塚古墳出土の短甲



▲桐林市民農園に隣接する鎧塚古墳

⑧ 塚原二子塚古墳

塚原古墳群の中心にある、長さ72mの大型前方後円墳で、築造は6世紀前半と推定され、



▲塚原二子塚古墳全景

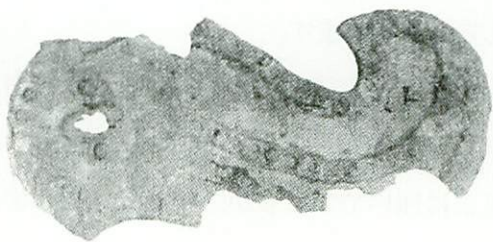
この古墳群の盟主と考えられています。石室等は確認されていません。出土品は少しの埴輪片のみです。

国道151号線からみえる優美な姿は、前方後円墳の形状がよくわかる点で県下でも数少ない例といえます。市の史跡に指定されています。

⑨ 内山塚古墳

塚原二子塚の北50mほどのところにある径30mほどの円墳。今は少しの盛り上がりが確認できる程度です。明治のはじめころまでは、横穴式石室があったといわれています。

剣・刀子ほか馬具の杏葉などが出土しています。



▲内山塚古墳出土の杏葉

⑩ 鏡塚古墳

塚原二子塚の西200m、国道151号線の東側にある径約30mほどの古墳です。封土の上に1.5mほどの大石がいくつもあることから、横穴式石室があったのではないかと推測されています。鏡が3面出土したので鏡塚と呼称されています。鏡の所在は不明です。



▲鏡塚古墳全景

⑪ 塚原3号古墳

鏡塚の西、国道151号線沿いにある帆立貝式古墳ではないかといわれる径25mほどの古墳です。土止めに使われている石垣の石は石室のもので、大きさから竪穴式石室であったものと推測されています。出土品は不明です。



▲塚原3号古墳

⑫ 蒜田古墳

塚原の西方の高台にある、方墳の可能性の高い径16mほどの古墳です。石室・出土品は不明です。竜丘では最古の古墳と言われています。ここから塚原全体を望むことができます。



▲蒜田古墳

⑬ 兼清塚古墳

大塚古墳の南西に隣接する、長さ63mの前方後円墳です。封土はそうとう削り取られていて、後円部に竪穴式と推測される石室があったといわれています。

出土品は多く、二神二獣鏡など鏡四面、勾玉・鉄鏃などがあります。

出土品から推定して飯伊地区では最も古い前方後円墳と考えられています。



▲兼清塚古墳



▲兼清塚古墳出土の二神二獣鏡



▲勾玉 1.ひすい製 2.ガラス製

⑭ 大塚古墳

桐林南平、国道151号交差点西約100m森
に覆われた、長さ73mの前方後円墳ですが、
前方部は削り取られ、後円部のみが残っています。
高さは9mほどあり、高岡古墳（座光
寺）・天神塚（上郷飯沼）・塚原二子塚に劣
らない大型の墳丘をもつ古墳と推測されてい
ます。石室に
ついては不明
です。水鳥埴
輪が出土して
います。



▲大塚古墳出土の水鳥埴輪の頭



▲大塚古墳

⑮ 丸山古墳

大塚古墳の東約200mのところにある、長
さ約60mと推測される前方後円墳ですが、前
方部は地ならしされて道路や宅地になり、後
円部のみが残っています。

石室については不明です。出土品は江戸時
代に甲が出土と伝えられていますが、他には
ありません。



▲丸山古墳

古・墳・豆・知・識

竜丘地区出土の馬具のいろいろ



鏡板



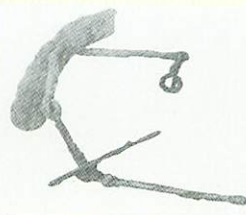
杏葉



馬鐸



轡



轡の残片



雲珠



鈴付鏡板残欠



金具



鈴



三環鈴



鏡板付轡

※「下伊那郡史」より

コース2

駄科・長野原の古墳



ひらつか つかごし ごんげんどう ばんしょうづか
 ①平塚古墳→②塚越1号古墳→③権現堂1号古墳→④番匠塚古墳
 ふたんづか ごしょやま
 ⑤二ツ塚1・2号古墳→⑥御所山古墳 ※御所山古墳は遠いので別個で行きましょう。

① 平塚古墳

鈴岡城址の南麓中段にある小規模の古墳です。出土品などは不明です。



▲平塚古墳

② 塚越1号古墳

駄科のお宮の北方約300m、駄科北平地籍にある長さ約60mの前方後円墳です。周囲の裾はかなり削り取られていますが、後円部に馬背塚東石室・おかん塚（松尾上溝）に次ぐ大規模な石室があり、入り口は狭いが中に入ることができます。元の羨道は10mほどの長いものであったといわれています。出土品は丸玉の他はありません。



▲塚越 1号古墳



▲塚越古墳の石室

③ 権現堂 1号古墳

駄科南平のほぼ中央にある、長さ60mの前方後円墳です。墳丘は西側が宅地に削られているが、東側は前方後円墳の姿を比較的良好に残しています。後円部の頂きにほこら祠があって、くまのこんげん まつ熊野権現が祀ってあり、権現堂という名はこれから起こったといわれています。後円部からは明治のはじめと大正11年の発掘で多くの遺品いひんが出土しています。その時の状況からむせきしつ無石室ではないかと考えられています。出土品ちよくとう えんとうはにわへんは直刀や円筒埴輪片などです。



▲権現堂 1号古墳

④ 番匠塚古墳

駄科薬師堂の南西約300mにある径38mの円墳です。南側・東側は宅地になり削り取られていますが、比較的原型を残しているといわれています。石室の有無、出土品は不明で未発掘ともいわれています。



▲番匠塚古墳

⑤ ニツ塚 1・2号古墳

長野原地区の南西、新川に臨む台地の端に長野原地区の南西、新川に臨む台地の端に円墳が二つ並んでいます。北側を1号、南側を2号といいます。1号は長さ27mほどありますが、盛り土はきわめて低くなっています。2号墳は径15mほどの饅頭まんじゅうの形になっています。石室、出土品は不明です。



▲ニツ塚 2号古墳

⑥ 御所山古墳

うすいばら白井原と新川の中間の御所山にある径約14mの小規模の古墳です。明治のはじめに発掘され勾玉・管玉・くだたま紡錘車・土師器・須恵器など多くの遺物がでています。



▲御所山古墳出土の瓶

2. 先祖の崇めと鎮守の森 ～神社・お寺を訪ねよう～

家庭と同じように、地域にも人々が集い、心を寄せ合うところがあります。それが信仰の対象として、昔から地域の中心的役割を果たしてきたのがお宮やお寺でした。

お宮は、大きな木々に囲まれていて「鎮守の森」といい、地域の守り神様が祀られていて、人々は春秋にお祭りをしてまとまっていたのです。とても大事な意味があるのです。

お寺も家々の先祖が祀られていますので、大事にされています。

お宮やお寺に宝物があるのは、人々の信仰が深く、寄進されたものが多いからです。

あれこれ、このようなことを考え思いながら参拝したいものです。

駄科薬師堂

駄科の薬師堂は村持ちで、今の建物は文政11年（1828）の建立です。この薬師堂は「阿羅多堂」と言われ、天文11年（1542）飯田城主小笠原定基が眼病を患い、平癒を願い領内に十二薬師を祀ったと言伝えられ、その4番目の札所です。

本尊は薬師如来です。その他多くの像が保存されています。毎年4月8日にはお釈迦様を祀り、甘茶がふるまわれています。また、12年に一度、薬師のご開帳の儀が営まれています。飯田地区の薬師堂は、ひらがなの「め」の字の形に点在しており、縁起によると眼病に効きめがあるとされています。

駄科薬師堂内には、十王信仰の十王像もあります。



▲駄科薬師堂

駄科諏訪神社

竜丘地区内唯一の諏訪神社です。

祭神は建御名方命で、諏訪に総本社があり、全国に五千ともいわれる諏訪神社が、地区内に一社だけということは不思議で、その成立も含め意味深いものがあります。



▲駄科諏訪神社

この諏訪神社には御柱の神事があります。その代わりといえるかわかりませんが、「甘酒祭り」があります。一説には神社の山（神社や村の持ち山）がなく、御柱の神事ができないため、祭りの振舞酒の意味ともいわれたり、伊賀良井の完成により石高が増したので、村内より米を集めどぶろくと甘酒にして皆で祝ったのが始まりではないかともいわれています。

他に獅子舞等の奉納^{ほうのう}も行われています。

昔は、敷地内には舞台付きの建物があり、駄科学校（小学校3年生くらいまでを教えた）としても使われていました。

こうりんざんねんつうじ 高林山念通寺

念通寺は寛永10年（1663）の建立であるといわれ、以前は字、母夕井^{あざ もたい}という場所であり禅宗の寺であったといわれています。

寛文10年（1670）に現在の場所に移り、以後浄土宗智恩院の末寺となりました。本尊は阿弥陀如来^{あみだにょらい}です。

伊那谷を代表する段丘地形の「念通寺断層面^{ねんつうじだんそうめん}」の最東端にあり、駄科はもちろん竜丘のほぼ全域や、松尾から竜東地域を見渡せる景勝^{けいしょう}の地にあります。



▲高林山念通寺

境内の後ろの山は弘法山^{こうぼう}と呼ばれ、多数の石仏（弘法様等）がありましたが、今は寺の石段の両側などに移されています。

石仏は、お薬師堂にいた北原得道尼^{とくどうに}の提案と、明治31年ころ流行した流行病^{はやりやまい}の治癒^{ちゆ}の弘法・観音信仰と重なり、地区民が弘法像や観音像を寄進したものです。

この念通寺では戦前、子どもたちを集めて日曜学校を開いて、生活や学習のうえでも地域内に大きな役割をしていました。

かなやましんじや 長野原金山神社

長野原中央に位置し、祭神は「金山荒神^{かじや}」で鍛冶屋の祀る金物の神様でもあり、また水の神様でもあります。建治元年（1275）に創建^{そうけん}されたといわれています。社殿は元和元年（1615）と嘉永元年（1848）に再建が行われたそうです。平成3年に現在の社殿^{しゃでん}に全面改築されました。樹齢800余年ともいわれる御神木は「桧^{ごしんぼく ひのき}」といわれています。

社宝には、飯田藩から献納^{いんどさらさ}の印度更紗の幌（戸帳^{とちよう}）があり、今でも例祭式典などで掲げられています。

奉額は関流門人の大野保造の算額と、長野原出身の十両力士長野里瀧次郎^{ながのさとたきじろう}の額があります。また、御神楽太鼓は大飢饉^{おかくらだいこ だいきん}があった天保5年（1834）に村の14戸が連署して寄贈したもので、今も残っています。



▲長野原金山神社

はちおうじしゃ 時又八王子社

祭神は建速須佐之男命、相殿は八柱皇子
神・伊雑皇大神・稲荷大明神を祭っています。

その他に十社（伊耶那岐命他9神）権現様
と安城垣外にあった白山社を昭和22年
(1947)に合祀して境内に祀っています。
勧請の時期は不明です。悪病退散の神（社）
として崇められています。

鳥居脇には、約150年を経た、この地方に
はあまり見られない大木の「高野槇」があり
ます。



◀時又八王子社

まつおさんちようせきし 松尾山長石寺

寺伝によると、寺の始まりは養老元年
(717)に「行基菩薩」という方が来て「聖観
世音菩薩」を彫り観音堂を建てたといわれて
います。建久3年（1192）にこの地方を治め
ていた小笠原長清が、美濃の国大井の合戦に
参戦する折り、この寺で勝利を祈願して出陣
し、翌年無事帰還しましたので、お礼にこの
寺を再興したといわれています。



▲松尾山長石寺

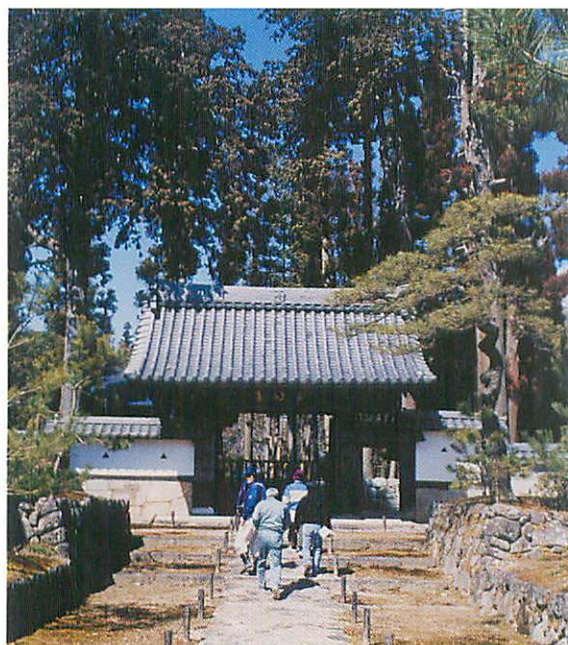
寺の称号の松尾山というのは、時又から今
の八幡町あたりまでを松尾山といっていて、
寺の山として年貢500石の扱いを受けていた
からだそうです。当時は、学僧や僧兵がいて、
僧坊が18もあって栄僧院と名付けられていた
そうです。現在でも時又地区に地名や屋号な
どに坊のつく名前が残っています。

寺の名前は小笠原長清の長と、京都から招
いた高僧石海大僧正の石をとり、長石寺と称
されたそうです。現在の建物は、明治3年
(1870)の建築で立川棟梁（寺社仏閣建築で
有名な大工）の作で、伽藍や鬼瓦は平成12年
に飯田市の文化財に指定されました。その他
仏像や白馬、梵鐘などがあり、また、木食寛正
碑や算額が奉納されています。古来より厄除け、
商売繁盛、五穀豊穰、家内安全、病氣平癒など、
生活や安全に結びついた祈禱のお寺です。

じょうしゅうざんかいぜんじ 畳秀山開善寺

臨済宗妙心寺派。本尊は聖観世音菩薩。一
般に建武2年（1335）小笠原貞宗が中国の
僧・清拙正澄を招いて創めたとされていまし
たが、寺の文書資料では、それより古く鎌倉
時代末期の創建であるとのこと。

伊那谷屈指の古刹で、昔は朱印地（時の治世者に許された領地）三十五石を拝領していました。度重なる火災により堂塔伽藍は消失し、現在の建物は江戸時代に再建されました。最初の門には、山岡鉄舟の書いた「霊明窟」の掲額があります。



▲置秀山開善寺

山門は、室町初期の遺構で「瑠璃閣」と呼ばれ、元禄8年（1695）老松が倒れて二階部分を破壊、今は階下の部分だけですが、国の重要文化財の指定を受け、昭和36年大規模な解体修理が行われています。

鐘楼「吼雲楼」は、国の重要美術品に認定されています。初代の鐘は、当地金山で铸造されたといわれており、織田軍の高遠攻めの際持ち去られ、現在、高遠の桂泉院にあります。境内に、苔生す「般若苑」、裏山の「飛来峯」、前庭の牡丹苑・藤棚等四季折々の顔をみせ、地元住民の憩いの場ともなっています。



▲開善寺の山門

古刹といわれる開善寺は、古い重要な遺産がたくさん残されています。平成5年6月に国指定の重要文化財に指定された「絹本着色八相涅槃図」は、同寺に保存されている涅槃図二面のうちの一つです。八相図では全国に八つあるものの一つで、非常に価値の高いものです。掛け軸の大きさは150×300cmで保存状態も良く、鎌倉時代の作品とは思えない鮮やかな色彩です。「涅槃図」というのは、お釈迦様が亡くなる時の様子を描いた絵で、「八相」というのは、一巾の絵の中にお釈迦様の生前と、亡くなるときと、亡くなったあと火葬にされて、やがて月の世界へ登っていくという八場面を表していることをいいます。

毎年2月15日に「涅槃会」が開かれています。



▲開善寺の鐘楼

はちまんしゃ
上川路八幡社

▲上川路八幡社

上川路の宮ノ前地区の高台に、大きな^{もみ}の木や^{ひのき}檜に囲まれて、74段の石段を上がると本殿があります。祭殿は^{ほんだわけのみこと}菅田別尊、相殿は^{たけみ}建御名方命が祀られています。勧請の時期は不明ですが、現在の社殿は昭和11年（1936）に再建されました。春と秋に行われているお祭りと、^{おおみそか}大晦日から元旦にかけて元旦祭が^{うじこ}地元の氏子を中心に行われています。

上川路にも人形の頭や手足があり、昔は、鳥居をくぐった最初の平にある^{なおりいしょ}直会所（元舞台）で上演されたと思われます。現在、人形の頭は飯田市美術博物館に展示され、手足等の一部は竜丘民俗資料館に保管されています。

はちまんしゃ
桐林八幡社

飯田城主小笠原秀政が慶長18年（1613）松本へ移封の際、当地へ^{いじょう}委譲されたと伝えられ、^{ほんだわけのみこと}菅田別尊（応神天皇）が祀られています。その座像は高さ1尺3寸余（40cm）^{いかんそくたい}衣冠束帯で胸絵が施されています。目尻が上がり丸顔の^{ほんでん}優美な作で、本殿同様江戸時代の始めに製作されたものです。

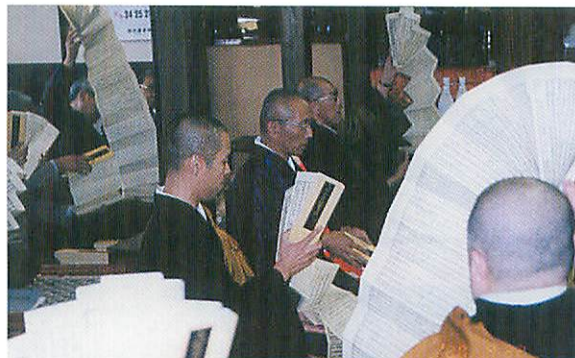
本殿は間口7尺（2.1m）奥行6尺（1.8m）の^{こうはいずかん}本格的な流れ造りで、向拝頭貫のかえる^{また}股には松と2羽の^す鳩が透かし彫りされ、^{ぞうず}象頭形の^{きばな}木鼻、本殿正面のかえる股の菊花・牡丹の彫りものは、^{しょうちよう}桃山式建築を象徴する優れた技法であって、当地方の神殿建築には珍しい貴重な文化財といわれています。



▲桐林八幡社

とうりんざんせんようじ
桐林山専養寺

開創の年代は定かではないが、^{いはい}位牌によれば享保15年（1730）とされ、本尊は聖観世音菩薩ですが薬師如来も祀られています。文久3年（1863）より^{にそう}尼僧が住職となり「^{せんようあん}専養庵」と呼ばれていましたが、昭和28年（1953）に曹洞宗「専養寺」となりました。毎年4月には^{しゅうようえだいはんにや}修養会大般若が行われ、桐林区民の寺として親しまれています。



▲専養寺の大般若会

3.むかしの人々が残した絵馬など～三つのコースを訪ねる～

昔はテレビも、ラジオも、新聞もなかったので、大勢の人に見てもらったり、知ってもらうために、人が集まるお寺やお宮などへ、字や絵を書いた額を飾りました。

それは、人々の祈願やそのお礼として奉納されたものでした。

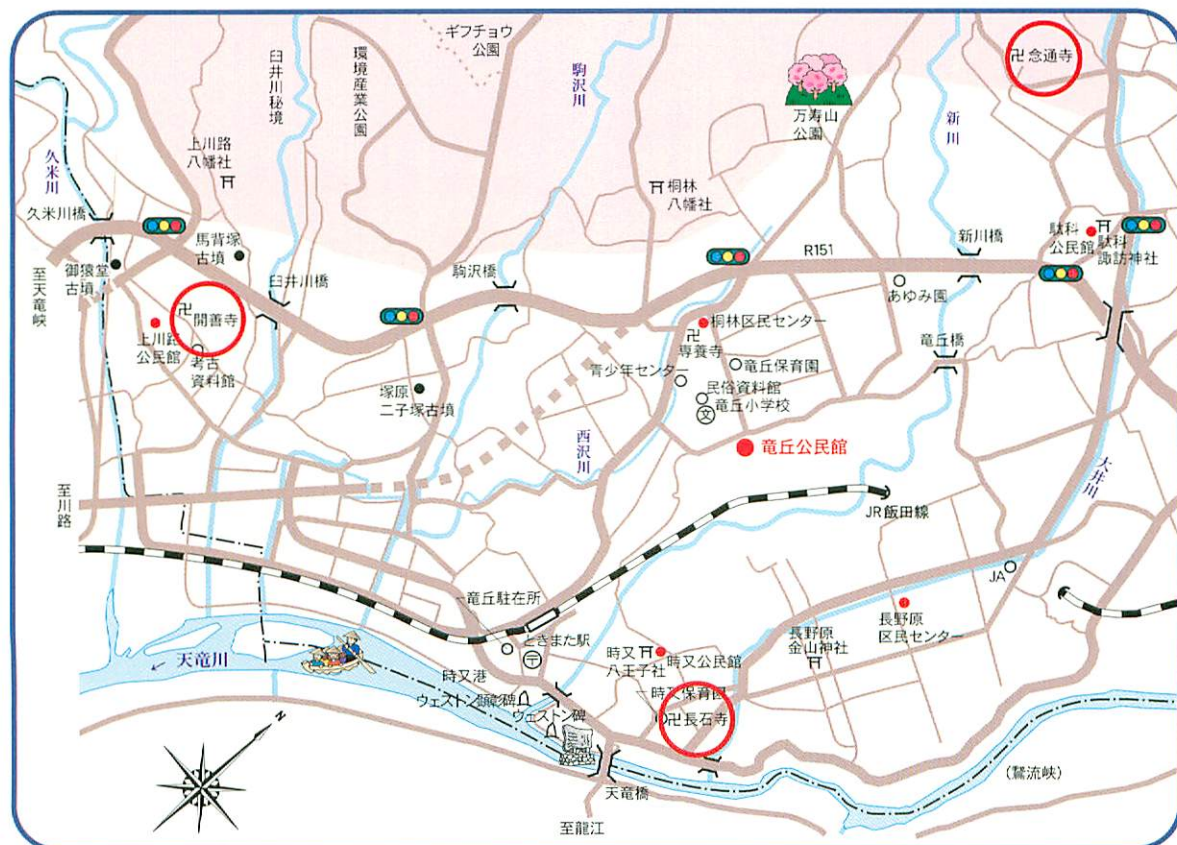
「奉額」^{ほうがく}とか「献額」^{けんがく}といって、大勢の仲間に掲げたり、ひとりだけで掲げたりしました。

このような額のことを「絵馬」^{えま}または「額絵馬」^{がくえま}といい、平安時代が起源とされています。

竜丘に残されている「額絵馬」は江戸時代以降のものです。

額絵馬は掲額する場所が寺社の軒下の壁か、本殿や本堂内部の壁面に掲げられているので、探訪する際には、事前にこのガイドブックの手引きにそって行動することをおすすめします。

コース1 屋外で自由にみられるもの



開善寺の俳句額→開善寺の三門の「靈明窟」額→長石寺俳句の額→念通寺の「須摩提淨」

開善寺の俳句額

開善寺の山門手前左側に古くて小さいお堂が建っています。通称「お稲荷さん」と呼ばれ、^{まりしそんてん}摩利支尊天、^{みそのだいみょうじん}御園大明神、^{いなりだいみょうじん}稲荷大明神がまつられています。この建物の右側に明治42年（1909）に奉獻された俳句の額があります。^{ふうか}風化されていてほとんど読めませんが、俳句を詠んだ人は88名おり、明治の終わり頃は俳句に熱心な人達が大勢いたことを物語っています。



▲開善寺の俳句額

開善寺の三門の「霊明窟」額

開善寺の参道正面を進むと最初にあるのが第一門で、その楼上にあるのが、「^{れいめいくつ}霊明窟」の額で、^{ひのきいた}62×180cmの桧板に筆太に見事な書体で書かれています。幕末から明治にかけて活躍した「^{やまおかてつしゅう}山岡鉄舟」（1835～1888）の書で、鉄舟の本名^{たかゆき}高歩の落款印もあります。霊明窟というのは開善寺本堂の名前で、人々の魂の集まる場所という意味ですが、有名な山岡鉄舟の額がなぜ開善寺にあるのかは明らかではありません。



▲「霊明窟」額

長石寺俳句の額



▲長石寺俳句の額

長石寺の本堂の右側面（東側）の軒下の高いところに俳句額が掲額されています。^{ほうのうはいくせい}「奉納俳句聖観世音尊前」という表題で、掲額の時期は昭和14年（1939）で48句が収められています。特筆すべきことは、時又の山田耕雲（1890～1975）が色彩豊かな俳画を書いていることです。

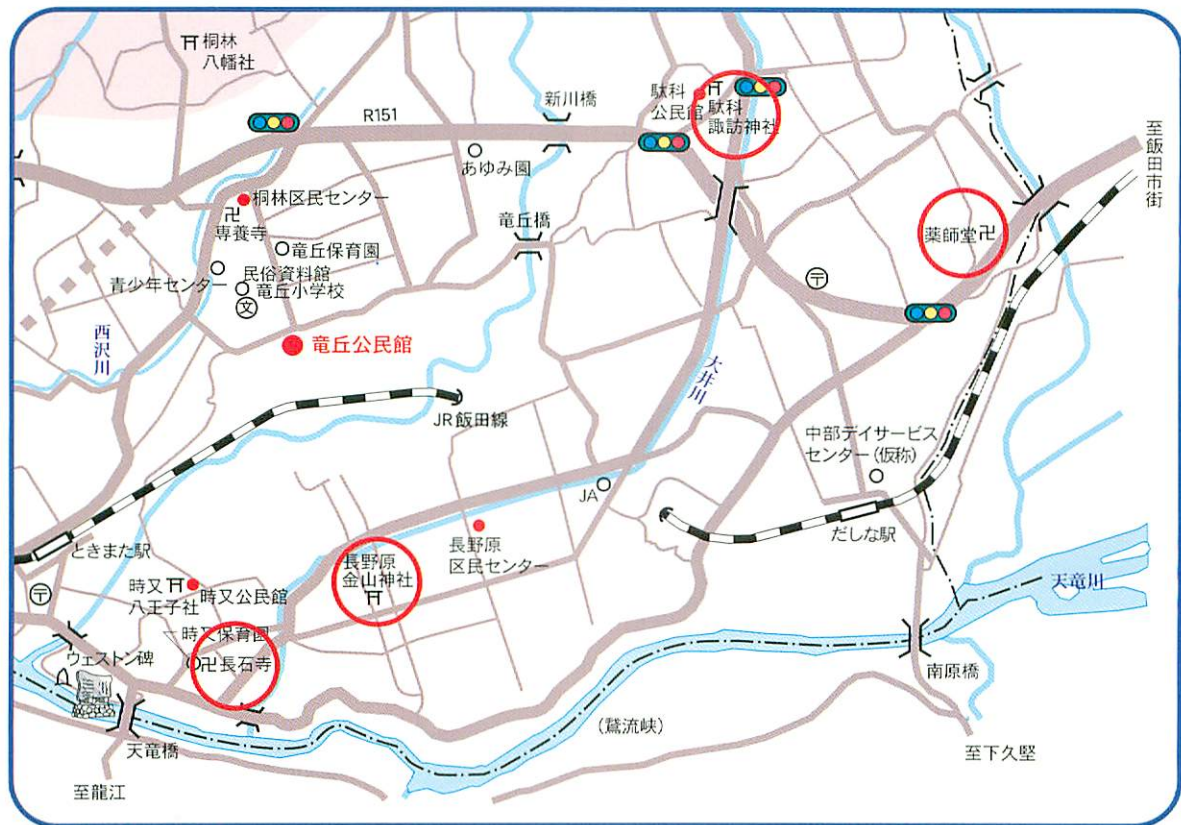
念通寺の「須摩提淨」額



▲念通寺の「須摩提淨」

念通寺は高台にあり、長い石段を登り切ったところに山門があります。本堂側から山門を見上げると「^{ほうろうかく}寶楼閣」という一風かわった緑のない額を見ることができます。本堂正面入口は「^{すまていじょう}須摩提淨」という豪華な額を拝見することができます。

室内にあるもの



やくしどう はいかいがく きのしたしすい ごえいかがく
 駄科薬師堂の俳諧額→駄科薬師堂の俳句の額→駄科薬師堂の木下紫水の御詠歌額
 しまたかまろ え まかなやまじんじゃ さんがく
 →駄科諏訪神社の島高麿の絵馬→長野原金山神社の算額→長石寺大野保造の算額

※見学は事前に
管理者へ連絡を
して行きましょう。

はいかいがく
駄科薬師堂の俳諧額

駄科薬師堂は通称「お薬師様」と呼ばれて
います。棟札によると再建は文政11年
(1828)で、俳諧額奉納は天保元年(1830)
3月で36句の俳諧が掲額されています。鈴岡
連と桐林連が競演しています。

「う鯛鰯鮭能鰻馬刀鱒い蛸」
鈴岡 連

「恋病ハ医者より親能ヒ加減」
桐林 連

前の句は「^{うた}唄いぶり酒の味までまずいたこ」と読みます。馬刀^{まて}というのは貝の名前です。

あとの句は「忍^{こい}病^{やま}は医者より親^{せき}の七^{しち}加減^{かげん}」と読^よみます。忍^{こい}愛^{あい}病^{びょう}は今も昔もかわりません。最後の一句で「長^{なが}居^いする爲^{ため}めとて止^とめた留^る守^{すい}居^い加^か那^な」、これが彌^{かい}文^{ぶん}といひ、反^{はん}対^{たい}か^らも読^よんでくだされい。



▲駄科薬師堂の俳諧額

駄科薬師堂の俳句の額

ぶんきゅう

文久4年（1864）に大がかりな句会がお薬師様で行われ、その入選作を掲額したのが残っています。75歳の島高麿が猫二匹の俳画を書いています。その頃は俳句熱が盛んで、お薬師様は文化交流の中心地でした。この額に71句の入選作が書かれており、地元駄科はもとより、桐林、時又、下伊那中から集まってきました。こうした催しは各地で行われ、寺社にその掲額が残されています。駄科薬師堂で行われたこのときの選者は「四時庵精知」という江戸から移住していた高名な俳句の宗匠が行いました。

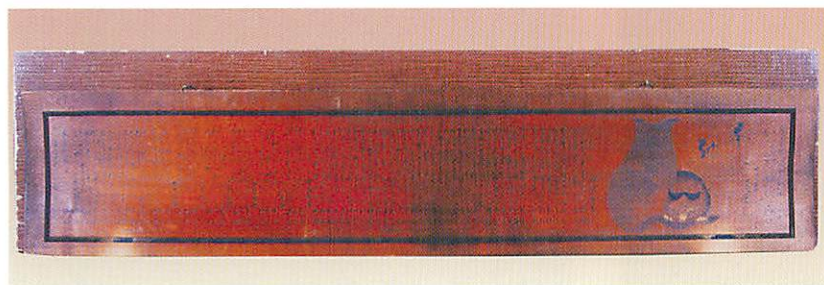
駄科薬師堂の木下紫水の御詠歌額

きのしたしすい

駄科薬師堂には、木下紫水（1882～1951）の書かれた御詠歌の掲額があります。この額の特筆すべきところは、「ねがへびと ついのすみかぞ…」となっている伊那十二薬師の四番札所の御詠歌が「ねがへびと いつのすみかぞ…」と書かれていることです。紫水先生の筆であることはわかります。なぜこう書いたか先生の胸中はわかりませんが、この額にある伊那八十八ヶ所第五十四番札所に関係があるかもしれません。

駄科諏訪神社の島高麿の絵馬

駄科のお宮の大広間の正面に向かって左側の壁に絵馬が二面掲額されています。書かれた年代は嘉永4年（1851）で書いた人が「高麿」です。島高麿という飯田藩主堀公の御抱絵師で63歳のときの絵です。絵の下に名前がたくさん書いてありますが、当時駄科に住んでいた54名の方たちが掲額したものです。高麿は明治4年（1871）80歳で亡くなっています。生まれは泰阜村です。



▲駄科薬師堂の俳句の額



▲駄科お薬師の木下紫水の御詠歌額



◀ 駄科諏訪神社の島高麿の絵馬

木下紫水書の俳句の額

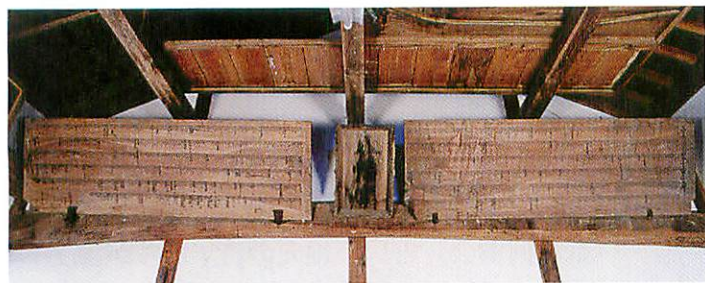
大正14年10月15日(1925)に神社昇格記念として、^{えいたいほうかくはいく}「永代奉額俳句」として大がかりな句会が選者を「十湖」として行われ、近隣の俳人の48句が入選掲額されました。この額の特筆することは、催主4名の連名の最後に「紫水書」とあることです。木下紫水の流れるような美しい書体の筆跡はみごとです。手の届く所に掲げてあるので、みんなで触ったためか読めない部分が多くなったのは残念なことです。



▲木下紫水書の俳句の額

にせんよしゃ
全国神社二千余社の額

^{けやき}厚い櫟の一枚板二面に^{わた}亘り、「大日本国中^{だいにほんこくじゅう}大小神社二千百二十二廟」として、明治16年(1883)当時の、全国の神社名を列記した額です。他に類例がなく、貴重な遺産として^{るいれい}長く保存したいものです。



▲全国神社二千余社の額

なかつた みゆき おきなしょうとく ふ
中田幸 翁頌徳之賦

^{のうちほう}昭和22年(1947)農地法の改正により地主は農地を解放しました。ことに神社地も民間に移行して現在があることに對して地主^{みゆき}「中田幸翁」の徳を偲^{しの}んで、後世の区会や氏子総代等が証として遺^{あかし}したものです。^{のこ}



▲中田幸翁頌徳之賦

わかがく
明治36年和歌額

明治36年9月(1903)に^{ほうしんわか}「奉綰和歌」(短^{たてまつ}歌を奉^{しきぎつだい}って板に彫ること)として、「四季雑題」に54首を45名の人が詠んでいます。選者は^{おうたどころ}「御歌所(宮内庁)参候大^{くないちよう}口^{さんこう}鮎^{のうじ}二先生」です。



▲明治36年和歌額

えま
竜丘最古の絵馬

竜丘に絵馬はたくさん残っていませんが、^{ぶんせい}文政4年(1821)に願主「^{がんしゅ}巳年女^{みとしおんな}」が「奉掛^{ほうかい}御寶前^{ごほうぜん}」として遺した額が絵馬としては竜丘

で一番古いものと考えられます。



▲竜丘最古の絵馬

4. 城址を訪ねて ～鈴岡城址～



▲公園で遊びを楽しむ子ら

鈴岡城址

駄科の西北部、標高490mに位置し、北方は急峻な毛賀沢の谷（深さ60m）を隔てて、同標高の台地上の松尾城址と相対しています。

鈴岡城の築城は、小笠原貞宗の第二子宗政が松尾から分家した頃（1350年頃）といわれています。

築城以来、松尾・鈴岡・深志の小笠原三家の間で、たびたび争いが起こり盛衰を重ねていましたが、天文23年（1554）、武田晴信（信玄）の伊那進攻により松尾城の支城となつて、天正18年（1590）廃城となりました。

この城址は、幾多の興亡の歴史を秘め、ほぼ昔の姿で保存されており、中世の南信濃における平山城の遺構を探るうえで貴重な城址となっています。昭和46年（1971）5月27日、長野県史跡として指定されました。

鈴岡城址碑

鈴岡城址本丸広場西南の隅、小高い盛土の上に、歴史を刻んだ立派な碑があります。この碑を書いた人は松本小笠原の流れをくむ小笠原長世で、その当時は貴族院議員で子爵海軍中将でした。この碑文は、北原阿智之介（衆議院議員・伊那史学会長）執筆によるものです。難解な漢文調で読みにくいですが、城址の歴史と経過が記されています。建立されたのは昭和6年4月（1931）です。



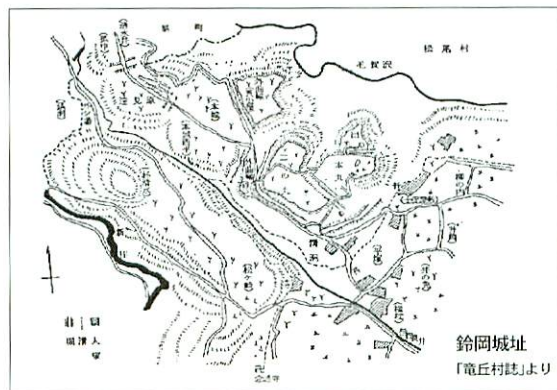
▲鈴岡城址碑

鈴岡公園

本丸と二の丸の一部は、明治44年頃は区有地として草ぼうぼうの共同墓地でしたが、「駄科同盟会」という地元の青年たちが勤勞奉仕で墓地を移転し、手作りで東屋を作り区

民各戸に呼びかけ献木してもらい公園をつくりました。そして、明治45年4月7日（1911）に鈴岡公園を開園し、現在も駄科区民の手によりつつじの手入れ、清掃等が行われ大切に守られています。

毎年5月には、区民参加のつつじ祭りが盛大に行われており、年間を通じて市民の憩いの場として利用されています。



鈴岡公園碑

鈴岡公園本丸広場北東に、「鈴岡公園」と書かれた自然石の碑があります。

この石は公園の南側、大井・伊賀良井のはずし場付近にあったもので、区有林から松材を切り出してコロにして並べ石をのせて、区民総出で公園の広場へ引き上げました。石碑を書いたのは、鈴岡小笠原に深い関係のある北九州小倉十五万石の元藩主、小笠原長幹という方です。建立は大正5年5月（1916）です。



▲鈴岡公園碑

5. 盛んだったむかしの産業のすがた

昔の人たちは、生計の中心を第一次産業においていました。それは、地域の気候や地形地質を活かして働いていたからです。

竜丘の主要な産業を拾ってみると、何ととっても「お米」が中心ですが、「お蚕」「水引」なども盛んでした。それを総称して、「風土産業」といいます。人々の働くようすをみて古い竜丘の姿を知ることとはとても大事なことです。小学校に隣接している「竜丘民俗資料館」を訪ねると、昔の道具が保存されているので調べることができます。

竜丘の養蚕

どうようしじんのぐちうじょう

童謡詩人野口雨情が大正12年（1923）4月に竜丘へ来たとき「伊那の龍丘」と題して、次のような詩を作っています。

…伊那の龍丘 桃の花盛り

はるごは 春蚕まかせうか 籠口チ編もか

けご 春蚕毛子になった 日和もよいし

まぶし 簇たたいて 桑摘み唄よ…（原文）

当時の竜丘のようすを実によくとらえた詩です。厳しい労働の中でものどかな自然環境で人々が働く姿をとらえています。



▲お蚕さま

蚕を飼って繭を作り製糸会社に売って生計を立てるのを「養蚕家」といいました。どこの農家でも蚕を飼ったので地域内には桑畑が多く、農家は家人の寝場所がないほど家いっばいに蚕を飼いました。ひとときも桑を絶やすことができないので、雨が降っても桑摘みという重労働があったのです。

養蚕に使う道具は、ほとんどが手作りで、養蚕家の冬仕事で作ったのです。それらの道具は、竜丘民俗資料館に保存されており、当時の様子を知ることができます。

繭からとる製品は、生糸・絹織物として、大変良質で貴重なものでした。特に大正期には外国にまで輸出されていて養蚕家の経営がうるおっていました。

地区内の養蚕戸数は、明治23年は160戸、明治41年は485戸、昭和6年には509戸で最も盛んでした。収繭量は、昭和5年（1930）が最高で80,704貫（約302 t）《一貫=3.75 kg》で、一戸当たり平均160貫（600kg）を生産していました。また、桑畑面積は全耕地80%をしめていたそうです。

今のJAみなみ信州竜丘支所（長野原）は、明治のころ「竜西館」という飯田下伊那でも最大の個人経営の製糸工場でした。大正期には、繭から糸をとる女工さんが300人以上もいたそうです。

後に竜丘製糸組合、竜丘農業協同組合と変遷をしてきました。

また、時又には天竜社の製糸工場（現在の

飯田帝通）がありました。

村の中に製糸工場があるということは、いかに養蚕業が隆盛だったかを物語っています。多くの農家の母屋のわきに、「長屋」といって大きな二階建ての建物が見受けられるのは、養蚕の盛んだった様子を現わしています。



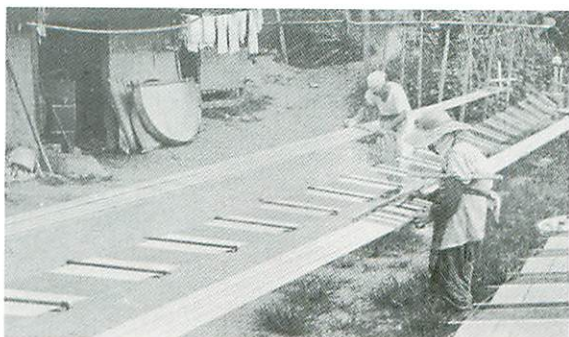
▲かつての養蚕の様子

みずひき 水引の仕事

昭和30年代までは、農家の前庭や土手を背にした平地の日当たりのよい場所に「水引」ののり付けをする作業場が竜丘の所々に見られました。

水引は、元結の材料として飯田下伊那地方では古くから盛んに行われていました。主に農家の副業として生産されていました。

和紙の原料として楮・三桠の栽培も盛んでした。



▲水引ののり付け作業

「田んぼ」は語る

米作りは、主食として人々の生活を支える大事な仕事でした。だから農家にとれば、きつい労働であっても頑張ってやってきました。春早くから始まり「田おこし」「代かき」「田植え」「草取り」「稲刈り」「脱穀」と、秋まで田んぼに出て働き続けました。今の米作りと違って、機械ではなくすべて人手でやっていました。「田おこし」や「代かき」など、家によっては牛や馬を使っているところもありました。作った米は、自分の家で食べる分だけ残して供出していたのです。

田んぼは、農家にとれば大事な働き場所であるのでとても大切にされていました。きびしい中でも大事な労働なので、地域も家々も米作りの生活を中心にして、祭りや祝い事が進められていたほどです。昔の米作りのようすを知るには、竜丘民俗資料館へ行って農業の道具を調べることをおすすめします。



▲なつかしい農機具のいろいろ

6. 受け継がれてきた祭りと行事

いくつになっても、時代がどんなに変わっても、古くから地域に伝わる「祭りや行事」に触れたりすると、わくわくして楽しくなってきます。それは、人々が心を開いて接し合うことができるからなのです。ここに地域の伝統的な行事を拾ってみました。

この他にもいろいろありますので、「丘の語部たち」を読んだり、古老を訪ねて調べると楽しいです。

おん火

子どもたちが正月の門松を集めてきて燃やす行事です。その火で焼いた餅を食べると病気になるというわれています。

地域によって、準備ややり方は違いますが昔は12月の吉日、区有林へ行って松を取ってきて準備を始めます。正月3日には、田んぼや広場の中央に飾り付けた竹を立て、5日に門松を集めてきて竹竿に巻き付けます。7日

の未明に点火します。

今は数が少なくなりましたが、それでも地区内20個所以上のところで一斉に燃え上がり、竹のはぜる音が響くと寒さを忘れてしまいます。



▲おん火の飾り立て



▲おん火（駄科下平地区）

お日待ちまつり

長野原地区に伝わる古くからの祭りで、1月31日の夜から始めて、2月1日の日の出を迎えるまで一夜を明かす行事です。約300年前の、長野原の戸数が十二・三戸だったころから始まったといわれています。

お日様の恵みに感謝して、豊作を祈願することの意味を持っています。昔は、夜食としてお粥をすすってお日様の昇るのを待ったそうです。今は、1月の終わりの日曜日に行い、子どもたちはむすびや菓子を食べ、大人は四方山話をしたり宴会をして、夜9時には終えています。



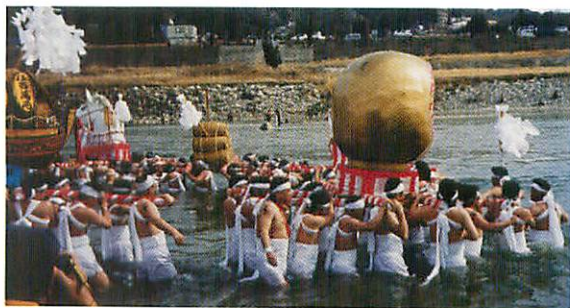
▲お日待ちを楽しむ子どもたち



▲お日待ちまつりのようす

初午はだか祭り

昔から、2月の最初の午の日に長石寺の観音菩薩に養蚕や馬の安泰を祈る祭りでした。最近では、午の日に近い日曜日に行っています。祭神である白馬のみこしを男たちが裸で担ぎ、天竜川の水で身を清めています。この祭りが来ると、天竜の水も緩み、伊那谷に春の訪れが告げられてきます。



▲初午はだか祭り

甘酒祭り

駄科の諏訪神社の春祭りで、かつては4月13日でしたが、今は、4月の第2日曜日に行う大変賑やかな楽しいお祭りです。伊賀良井の完成のときに甘酒を奉じて祝ったところから始まったといわれています。

諏訪神社のお祭りには、南平の青獅子、下平の白獅子、北平の屋台囃子が出て舞が奉納されています。

この獅子舞は、飯田のお練り祭りにも出場しています。



▲駄科下平の獅子舞



▲甘酒祭り（昭和278年頃）

とう なが
灯ろう流し

8月のお盆に天竜川のほとりに祭壇^{さいだん}を設け、長石寺に集められた灯ろうを^{しょうりょう}精霊^{しやうりやう}とともに、僧の読経^{どきやう}に合わせて送るという行事です。その時、天竜川の河原で大規模な煙火が夜空を彩り、万を数える人々が夏の一夜を楽しんでいます。飯田の三大祭りの一つです。



▲夜空を彩る煙火

こう
お講のまつり

地区のお宮に「秋葉大権現」^{あきはだいこんげん}「金比羅大権現」^{こんぴら}「御嶽山」^{おんたけさん}「戸隠社」^{とがくしや}「伊勢宮」^{いせぐう}「富士塔」^{ふじとう}などの石碑を見かけます。これは、地域で同じ信仰をもつ人が遠くにある神社に参拝するために建てたもので、その人々のまとまりを「お講」といい、「戸隠講」とか「秋葉講」とか「富士講」とか、また「念仏講」と呼んでいるのです。そのうちの「秋葉講」を例にして、どのようにやっているか調べてみます。

あきはこう
秋葉講

秋葉講は、地域の人々が幾戸かで年に一度一緒に静岡県にある「秋葉神社」に参拝に行く仲間の集まりです。今、時又^{ときまた}に20戸の仲間がいて、みんなで一緒に参拝できないので、代表2人くらいが5月の良い日に代参して、お札をいただいてきます。そして代参者の家に皆が寄って「お札開き」というお祭りをします。

昔の講の人々は、約百kmある道のりを歩いて行ったそうです。

御神徳^{ごりやく}は、火の幸を恵み悪火を鎮め^{しややくしやうびやう}、諸厄諸病^{しよやくしよびやう}を祓い除き、火防開運をもたらすといわれます。



▲樹林八幡社境内の秋葉山石碑

たず
7. 古い道を訪ねて人々の行き来を想う ～竜丘の幹線道路の移り変わり～

地域の盛衰・消長^{せいすい しやうちやう}は、道路の開設^{かいせつ}によって大きく変わってきました。

竜丘の現在の幹線道路は、国道151号線ですが、それがどのように移り変わってきたか、古い道を訪ねてみましょう。

かんせんどうろ
竜丘の幹線道路の移り変わり

■江戸時代終わりが明治はじめまでは下条街道と南山街道が幹線道路でした。

下条街道は、飯田愛宕坂一下茶屋一八幡原一八幡様一毛賀



▲駄科岡島隆さん宅横 道標

旧道―毛賀沢を渡って駄科の旧道牧島屋―石橋屋（関島隆さん宅、ここで南山街道が分かれており、右下条、左くわんおん道の道標があります）―塩澤義男さん宅南から一直線に新川を渡って桐林五反田（中島徳治さん宅）―小学校前―原田―かずらや―塚原―元



▲上川路小林元さん宅横 道標

道洞―開善寺前（小林元さん宅横に 左山田河内 にいの 右くめ の道標がある）から久米川を渡って下川路・下条に至っていました。

南山街道は、石橋屋から長野原―時又観音様―時又の渡しから龍江・泰阜に至っていました。

■明治9年に国・県・里道の区別が決まり、下条街道は県道^{かなざし}金刺街道（静岡県引佐郡^{いなさ}金指町まで）となりました。このとき、地区内のルートが大幅に変更され、駄科―長野原―時又観音様―時又―下川路島ルートとなっていました。

■明治20年仮定の県道として改良計画が決まり、金刺街道から遠州街道（静岡県引佐郡金指町まで）に名前が変わり大改修工事が行われました。竜丘地区は明治27年に完成しています。（ほぼ現在の県道米川飯田線のルート）新野までの完成は大正2年までかかりました。長野原の踏切の名前は現在も遠州街道となっています。



▲長野原の踏切

■大正9年遠州街道は、終点が（愛知県北設楽郡東栄町本郷）に変更したので、県道飯田本郷線に名前がかわりました。

■昭和28年の政令96号により2級国道151号（別称豊飯国道）に認定されました。

■国道151号線は、昭和30年代 ホッキをさけるため長野原の中心を通過して時又駅付近へでの計画の改良工事が、新しい毛賀沢橋と駄科の堀割の間で行われていましたが、これが完成した頃、36災豪雨の水害があつてルートが見直され、現在の駄科堀割―駄科南平―桐林―上川路ルートに変更され工事が進められました。

■昭和40年国道1・2級が廃止され一般国道151号になりました。

駄科鍋屋さんから上川路久米川橋までのバイパスルートが完成したのは昭和44年でした。現在の国道151号です。

そして駄科―長野原ホッキ―時又―川路の国道は、県道米川飯田線に変更されました。

このように道が変わってくると、地域の子が大きく変わるのはおどろくばかりです。

II. 教育や文化財を訪ね、調べて

1. 文化の中心だった学校のすがた

竜丘は、古墳の多さから見ても、先史時代から、飯田・下伊那の中心地であったと察せられます。また古刹等に残された貴重な文化財、文化遺産も多く、「文化村竜丘」の名を冠されてきました。

教育では江戸時代すでに多くの「寺子屋」を設けています。

大正期、農村では珍しい「白樺」等の文学活動が盛んになり、学校では「自由画教育」など全国に先駆けた教育が行われて来ました。

竜丘の学校 百年の歩み

竜丘は、教育面でも先進的な地域でありました。すでに江戸時代には、多くの寺子屋教育が行われていました。寛政5年（1793）桐林の岡村隆伯りゅうはくによる寺子屋では、筆子（生徒）100人を数えていたという記録があり、1800年代には30に近い寺子屋の様子が竜丘村誌に見られます。

明治政府が「封建的身分的差別を排除し、市民平等、教育の機会均等、義務教育制度の確立」を明示したので、竜丘ではいち早く学校設置に取り組み、明治5年（1872）5月上川路は開善寺へ仮校舎を設け、桐林は専養庵せんようあんへ、下川路は中条舞台を支校として、同年8月には駄科は清水屋を仮校舎としてそれぞれ発足しました。専養小校・勸善小校・自然小校（時又・長野原）・進歩小校等の変遷ののち、明治40年（1907）文字通り竜丘統一の小学校ができ、校舎も立派な建物ができました。昭和11年建設された「講堂兼雨天体操場」は、建坪212坪余という広さで、木造ではあま

り類を見ない堂々とした建物でした。

校舎新築に「開校式の歌」を作っています。それが県歌「信濃の国」の作詞者浅井冽というのも驚きです。

竜丘小学校の自由画

竜丘小学校には、大正時代の自由画が大切に保存されています。当時、図画教師であった木下紫水むしやは、お手本の模写が主体であった図画教育に、「子どもの目でとらえた自然をのびのびと描く」という山本鼎かなえが提唱する「自由画運動」をいち早く竜丘小学校に取り入れました。これを強力にバックアップしたのが校長下平芳太郎で、これを村をあげて支援しました。その当時の竜丘の文化水準の高さが伺うかがわれます。



▲竜丘小学校の自由画

大正9年(1920)4月「日本児童自由画展覧会」に多くの優秀作品を送り出した竜丘小学校の児童の作品を見て、上田出身の彫刻家石井鶴三は「此度竜丘の出品を見て少なからず驚かされました。天才というものがこんなにも多いものかと。全村^{こぞ}挙って天才です。」と言ったそうです。

保存されていたとはいえ、その保存状態が悪かった自由画の作品を北原更一教諭(昭和59年竜丘小赴任)が整備しました。その後、美術・児童画等に造詣の深い熊本高工・上^{くまもとたかのり} ^{かみ} ^{しょういちろう} 笙^{れいめい} 一郎両氏による画集「自由画の黎明」(信州・竜丘小学校作品集)が刊行されて多くの人々に知らせることができました。

てんどうかん キリスト伝道館

明治32年(1899)より飯田・下伊那に根を下ろしたキリスト教活動は、竜丘でも小林洋吉、小島良造らにより熱心な布教活動が行われました。大正13年(1924)には駄科の清水屋二階を伝道館として発足させ、教会活動が行われました。戦後まだ世の中が荒ただしい昭和28年(1953)の10月、長野原に竜丘キリスト伝道館が建てられ単立型伝道館として盛んな活動が行われてきています。



▲キリスト伝道館

2. 貴重な桐林人形のかしら

江戸時代後期から明治時代の初期にかけて、伊那谷では人形芝居がたいへん盛り上がりを見せていました。県内で確認されている人形座は31箇所あるそうですが、そのうち伊那谷には28箇所もあったそうです。桐林人形は、そのうちの一つでした。

人形芝居は、産土神(うぶすながみ)への奉納芸として、あるいは娯楽芸として上演されていました。桐林人形には、いま、かしらや衣装の多くが残されています。しかし、上演を記した文書が未だ見つかっていないので、謎の人形座の一つになっています。

上川路と時又安城垣外にも人形のかしらがあるそうです。

桐林のかしら50点は桐林区民センターの旧土蔵に収められていました。今は建て替えられた区民センターの一部分に土蔵造りの部屋を造り収納されています。かしらと衣装は茶箱用の木箱にぎっしりと収められています。木箱の一つには、蓋の表に「多ちゃく」「人形装束箱」と書かれ、蓋の裏には「安永六酉

年(1777年)七月吉日」の年号も印されています。

長い年月収納されていたため髪がいたんでいるものがありますが、傷や汚れのひどいものは少ないです。胴串に手が滑らないように刻みをいれたものが15あり、実際はかなり遣われたことが察せられます。

髪は数個を除いてほとんど植毛で江戸時代の作り方を備えており、胴串もほとんどがソロバン状で古い時代のものと言われています。

多くの衣装などを含め人形一式は、桐林区により大切に保管されていて、夏の日、かしら及び衣装は、他の古文書等の貴重品とともに虫干しを行い、その折一般公開も行っています。

桐林人形のかしらは、平成12年7月飯田市美術博物館にて「伊那谷の人形芝居のかしら2」として、広く一般公開されました。

またこのうちの3つのかしらは、フランスのシャルルヴィル・メジエール市で行われたフェスティバルにも参加されました。



◀ 桐林人形のかしら：娘

3. 歌碑などを訪ねる

石にことばを彫って後世に残す。これは、日本に古くから伝わっている、人類の知恵が生み出した文化です。

その地域のゆかりの深い場所で、それに接するとたまらない感慨かんがいと感情におそわれます。しかも、それが人通りの少ない小道であったり、木々や草に覆われた場所であったりすると心が引きつけられ楽しくなり、昔人と話をしている心になります。

木下右治の碑

竜丘中学校校長を最後に教職を去り、婦人文庫、短歌など指導し、校長在任中から初代の竜丘公民館長を務めていた木下右治の歌碑が2つあります。

昭和51年の秋、開善寺境内にお弟子たちが先生を敬慕して歌碑を建立しました。

ほうじょう 方丈の 庭に黄ばめる 苔の上に
あられ 霞にわかに 音なく降りぬ

時又の木下和彦（右治子息）宅前庭に、昭和45年11月3日に飯田かざこし会が、「木下

先生に短歌の指導を受けて10年。この記念に之を建てる」という歌碑があります。

曇る空の いづべの光 映らふや
夕べの天龍の 川面あかるく



▲木下右治の碑（開善寺）



▲木下右治の碑（時又）

市村威人の碑（開善寺境内）

山本出身の郷土史研究家で、下伊那郡史などを編集していた市村威人の歌碑です。

「^{ぜんじしゅうしよく}禅寺秋色」

貞宗か ^{いてふの梢} 黄はみて
御堂 ^{いらかに} 夕日 ^{かがやく}

市村威人

^{ひのとせ} 昭和丁酉三拾二年
拾一月三日
開山三百歳
寺曆編纂上梓を迎え

^{こうえつ} 校閲を終えて



▲市村威人の碑

野口雨情の碑（竜丘小学校校庭）

「伊那の龍丘」

伊那の龍丘 桃の花盛り
春蚕掃きませうか 籠口チ編もか
春蚕毛子になった 日和もよいし
簇たたいて 桑摘み唄よ



野口雨情の碑

大正12年4月12、13日、中山晋平とともに竜丘へ来村したときの作品です。

昭和56年3月28日に野口雨情詩碑建立委員会が建てました。

小林八十吉 碑

小林八十吉の長野原ほっきの住居跡に、妻古登と並べて詠われた碑があります。

こぶしさく ^{もいわ} 藻岩の美ねゆ ^み 見はるか ^す 寿
野をこえて石狩のうみは ^{ひかれり} 光連里

八十吉

足こしのよわりしいまも夫とあて
いたわ ^り 里あへる幸せおも ^ふ 布

古登

平成三年二月 子供一同 建之
石は木曾御岳のものだそうです。



▲小林八十吉歌碑

下田直樹の碑

時又の旧北原医院裏に花崗岩の自然石で造られた高さ155cm、巾90cmの碑があります。

これは下田直樹の人柄と業績をたたえて、

^{てんがく} 篆額「^{とくはこならず}徳不孤」 ^{しょうざんいしやく} 正三位子爵 ^{たにかんじょう} 谷干城

と書かれています。

下田直樹は天保11年（1840）時又に生まれ、国学や漢詩を学び、尊皇の大儀を唱えて江戸と京都を往来して活躍した人でした。



▲下田直樹の碑



▲斉藤操校長頌徳碑

しょうとくひ 斉藤操校長頌徳碑

明治17年～29年（1884～1896）、桐林学校長・竜丘尋常高等小学校長として勤務中病死され、教え子たちが先生の徳を慕い、明治36年（1902）5月、竜丘小学校校庭に建てたものです。

現在は、学校の体育館入口にあります。

慈愛に満ち、個性を尊重した教育は、後の校長下平芳太郎をはじめ、多くの人材を育成しました。

せきぞう せきぶつ 4. 石造文化・石仏のおもしろさ

石仏とは、民間信仰により石に仏様の形を刻んだものとか、庚申や秋葉大権現などの文字を彫り込んだものをいいます。お地蔵様や観音菩薩、不動明王など像容で表したものと、馬頭観世音とか十三仏、庚申、蚕玉様などの文字で表した供養塔などがあります。病気を治したり、旅の安全、災難予防、豊作などを祈願したり霊を慰めるために造られたものです。

昔の人々の信心により造られた石仏が地区内にたくさんあるので、その一部を紹介します。

駄科地区

新井原明星学園入口東50mの道端に観音菩薩（文化8年、1825）庚申塔（安永5年、1776）など数基まわってあります。昔、ここが駄科から伊賀良へ通じる主要な道であったことを示しています。この近くには聖観音（寛延3年、1750）1基があります。

松ヶ崎念通寺山峠と近くの駄科共同墓地に馬頭観音塔（安永9年、1780）などが十数基あり、観音様の頭に馬の顔をのせたものもあります。



▲駄科松ヶ崎の石仏群

念通寺にある弘法様と観音様は、明治30年代駄科薬師堂庵主北原得道尼の発意により、近郷近在の多くの寄進者から弘法大師88基、^{こうぼうだいし}観音菩薩33基、大日如来など十三仏15基が寄進され、念通寺裏山へ安置されて多くの参詣を得ていましたが、昭和50年代石仏の盗難を恐れて、念通寺石段周辺に移設されました。石仏の1基ごとに寄進者の名前が刻まれているので、先祖の名前を探してみるのも面白いでしょう。石段の上り口にある江戸時代の名僧徳本上人の筆による南無阿弥陀仏の名号塔は、元は松ヶ崎の峠にあったもので、弘法様などと同じ時期に移設されました。

駄科諏訪神社境内には、富士塔（宝暦4年、1754）三峯大権現（文化13年、1816）御嶽山、^{こまいぬ}青麻三光宮、狛犬などがあります。

北平十王堂入口と塚越古墳上には^{きのえねとう}甲子塔（享和4年、1804）念仏供養塔（寛政6年、1794）経典供養塔（天保3年、1832）などがあり、これらは北平のあちこちにあったものをまとめたものだそうです。

下平の旧道には、秋葉大権現・^{こんびら}金毘羅大権現の大きな石塔（文化10年、1813）があって、明治の初め頃までは地区の者が、^{じょうやとう}常夜灯に^{とうみょう}毎夜灯明をともしたそうです。

お薬師堂には、十三仏塔（天保4年、1833）木喰上人の「南無…」のお題目塔などがあります。蚕玉大神は、元は城陸山にあったのが^{じょうろくやま}南原橋の架け替えで掘割となったため、ここに移転されました。昔、養蚕は生計をたてるための大事な仕事でしたので、蚕が病気になるようにとのお祈りと、また、お蚕様に感謝の気持ちから供養塔を建てたのです。

旧道の下平と南平の境、大井端には天明の^{ききん ゆきだお}飢饉で行倒れとなった死者の霊をまつた石碑があります。

（丘の語部たち166P）

このすぐ北、関島さん宅角に道標が建っています。



▲天明の慰霊碑



▲念通寺の石仏

長野原地区

金山神社には、富士塔（安永9年、1780）、秋葉山大権現・金毘羅大権現（文化11年、1814）御嶽山、氏大神、養蚕神などがあります。



▲長野原金山神社の石像

時又地区

五万堂坂松下さん宅南崖上に観音菩薩像、三界萬霊塔、地藏様や六十六部供養塔（安永6年、1777）などがあります。昔は、願かけやお礼参りで賑わったとのこと。す。丘の語部たち-111P）また、平賀さん宅付近には、馬頭観音塔が多くみられます。

長石寺の石仏は、境内の一隅にまとめられていて、南無庚申供養塔（元禄8年、1695）、大悲観世音（享保14年、1729）、馬頭大士塔、もくじきしょうにん みようごうとう木食聖人の名号塔、



▲長石寺境内 木食聖人の石碑

大黒天などがまつられています。

八王子社境内には、御嶽山、富士塔、秋葉山大神、秋葉山大権現・金毘羅山大権現、荒神などがあります。

時又駅の上、山田さん宅の三叉路に観

音像や馬頭観音が数基並んでいます。ここには南無阿弥陀仏と彫られた道標があります。昔は、ここが交通の要所であったことをうかがわせます。



▲時又駅上山田光男さん宅三叉路の馬頭観音

島の集会所にもたくさんありましたが、治水対策事業で、仮移転されています。

上川路地区

がんだうばら金山元道洞増田さん宅近くに馬頭観音と観音像が数基あり、古いものは明和元年（1764）安永4年（1775）などです。



▲上川路金山にある道標

お薬師堂には観音像、地藏像、青面金剛像、庚申供養塔（宝永元年、1704）などがあります。

開善寺には三界萬霊塔（元禄8年、1695）のほか、水害のため川路の正清寺から移転した地藏像などがまつられています。

宮ノ前塚平利久郎さん宅裏のコンクリート壁の上に馬頭観音塔が3基安置されています。ここも古い道であったことを物語っています。

八幡社境内には、秋葉山大権現・金毘羅山大権現（文化11年、1814）、富士塔、甲子塔、蚕玉霊神などが並んでいます。

国道信号の西100mほどのコンクリートの擁壁上に道祖神と彫った石塔があります。これは竜丘地区では珍しい道祖神の一つです。



▲上川路R151端の道祖神

高野久米川橋そばに馬頭観音塔3基、筒井さん宅近くに馬頭観音3～4基があります。これらは、昔ここが、隣村への主要な道であったことを物語っています。

高野の通称弘法様には、南無観世音菩薩塔やくよけこうぼうたいし（文政7年1824）、南無大師遍照金剛塔へんしょうこんごう、庚申塔3基などが並べられています。

桐林地区

小学校グラウンド東に大小の庚申塔がまつられた庚申塚があります。地区の仲間内で庚申の年に庚申塔を建て無病息災、家内安全などを願ったものです。昔は、庚申の日には帝釈たいしゃく天に悪行を告げる悪い虫が体に取りつかない

ように夜中も寝ないで宴席を続ける風習があり、ここの供養塔の前でお祭りをしたそうです。（丘の語部たち-148P）年号の古いものから元禄14年（1701）、元文5年（1740）、安永5年（1776）、寛政12年（1800）、などがあります。



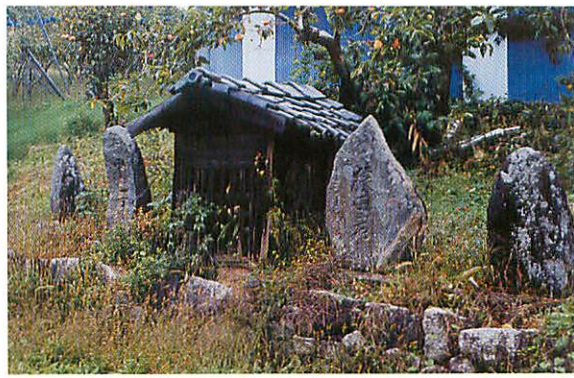
▲桐林 小学校東側庚申塚の石仏群

桐林のお宮の境内には、神様や神社名を刻んだ石塔がたくさん並んでいます。古いものから富士塔（安永4年、1775）、象頭山ぞうずさん（文化13年、1816）、御嶽山（元治元年、1864）などで、一番新しいものは榎原神宮遥拝所かしはら ようはいじょ（明治37年、1904）です。はじめからここに建てられたものばかりでなく、他所から移されてきたものがあるそうです。異体字を使い彫られているため読むことが難しいものがあります。

安城公民館、小池公民館、南平公民館には秋葉山大権現・牛頭天王ごずてんのう・金比羅大権現、蚕玉大神、秋葉山・金比羅山、秋葉神社、甲子などの大きな石塔が並んでいます。1807年～1923年に建立されたもので、この年代は民間信仰の講が小さな集落ごとに盛んであったことを物語っています。



▲桐林 小池公民館の石碑



▲桐林 古瀬高島さん近くの石仏群

このような石塔は古瀬、久保田、久保尻、上北地区や万寿山等にもあります。駒嶽神社、津島神社、知立神社、高津神社、諏訪大明神、天満宮、三峰神社など神社名を表したいろいろの石塔があります。

古瀬の高島さんの道上に観音菩薩像(明和5年、1768)、猿田彦・甲子・庚申(安永4年、1775)などの庚申塔、馬頭観音、蚕玉神が祀られています。



▲小祠の中の観音像

その他、地区内の古い道筋に、馬頭観音塔が2～3基まとまって建っている場所が数カ所あります。いずれも江戸時代末期から明治大正にかけてのもので、当時は馬が大事にされていたからです。

上北の水割に道標があります。「此方 伊賀良飯田、此方 時又、此方 川路近道」と記されています。近くに馬頭観音が2基並んでいます。

以上竜丘地区内の主だった石仏・神の石造文化財を紹介しましたが、このほか五輪塔、石祠などいろいろな石造物がたくさんありますので、調べてみるとおもしろいでしょう。

5. 昔の暮らしを知る館を訪ねて

地域には、人々に学習を提供したり支援する施設がいろいろあります。

竜丘の地域にさらに多くの施設が整うと良いと思います。新しい公民館も地域住民の学習の場として、多くの皆さんの活用が期待されています。

訪れて調べたりするときには、電話をかけて用件を事前に頼んでおくのがよいでしょう。

飯田市考古資料館

この建物には、昭和45年(1970)より始まった中央自動車道の建設に伴う埋蔵文化財

発掘調査によって出土した、先土器時代から歴史時代にわたる各期各様の遺物が主に整理保存されています。

それに、飯田市が調査発掘した出土品も加えて、収蔵展示されています。

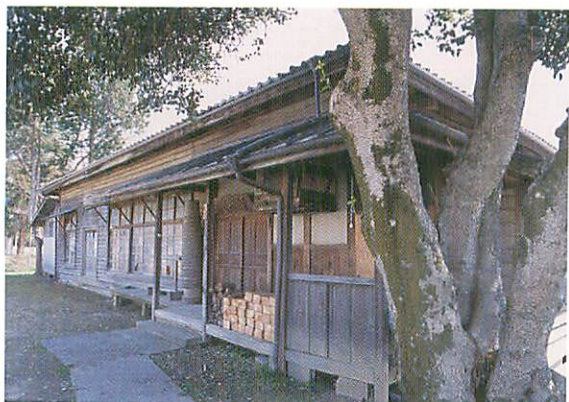
玄関前の開善寺庭園には、5月ころボタンの花が咲き乱れ、また^{ふじだな}藤棚の花がみごとで、ここを訪れる人々を楽しませています。



▲飯田市考古資料館

みんぞくしりょうかん 竜丘民俗資料館

竜丘小学校の敷地内（元小学校「記念館」という）にあります。公民館文化部が昭和46年（1971）に地域内の家庭から収集したものを民俗資料保存委員会が保存、管理しています。



▲竜丘民俗資料館外観

多数の農機具や生活用具などがあり、近代の歴史を学ぶことができる材料としてたいへん大切なものであり親しみがもてます。特に、

竜丘地区で盛んであった養蚕の道具などはたいへん貴重なものです。見てみると往時の生活をしのぶことができます。

民俗資料保存委員会では、これらの資料を整理し、テーマを決めて公民館の展示コーナーなどで公開しています。



▲竜丘民俗資料館内部

こうこしつ 竜丘小学校自由画考古室

竜丘小学校には素晴らしい一室があります。この部屋には、大正期に自由画教育が推進された当時の子どもの絵が保管展示されています。また、地区内の古墳や、遺跡から出た多数の貴重な出土品も保管されています。貴重な石器・土器・馬具・鏡・装飾品などもあります。誰でも訪れて勉強ができます。



▲竜丘小学校自由画考古室

6. 郷土の教育文化に^つ尽くした人々

私たちの郷土竜丘は、先人の人々のたいへんな苦労や努力によって開発され、発展してきました。

私たちは、そうした人々のおかげで今日生活しているのです。

活躍した人々を拾い上げると、とても多くの人がありますが、ここでは、とくに地域の教育文化の面で人々に大きな影響を与えたと思われる人を選んでみました。さらに、いろいろな方面で活躍された方を、皆さんで調べてみることは、とても良いことだと思います。

もり たへい
森 多平 (1840~1909)



上川路に生まれ、開善寺の和尚や継父によって古い中国の学問を学びました。19歳の時、志を立て江戸に上りました。日本の将来のあり

方を一生懸命に考え、有名な板垣退助等の仲間に入り「自由民権運動」に加わり活躍しました。この考え方を郷土に広め、明治14年(1881)には地元で「深山自由新聞」を発行して活躍しました。

明治の新しい政治のあり方をいつも農民の立場に立って考えて活躍したのです。こうした考え方は、新しい国づくりや郷土を考えるのに大事なこととして受け継がれています。

しもだいらよしたろう
下平芳太郎 (1872~1961)



明治37年(1904)から昭和4年(1929)までの25年間、竜丘小学校の校長先生を務めていました。竜丘の地

域の特徴を生かし、新しい教育を打ち立てました。特に先生たちの教育のやり方を尊重して子どもたちを育てました。大正から昭和の始めにかけて自由教育を熱心に行い、全国的に有名な童話作家・詩人・学者などを積極的に招き勉強したことは、村の人たちにも強い影響を与えました。

なかでも「自由画教育」を木下紫水先生を中心に押し進め、「全国自由画展覧会」を開き、全国から多くの人が集まり有名になりました。

『下平芳太郎校長と自由教育』(竜丘史学会平成8年刊)を参考にしてください。

きのしたしすい
木下紫水 (1882~1951)



駄科に生まれ、師範学校に学んだあと、大正元年(1912)に竜丘小学校の先生になり、27年間村の学校の教育を熱心に行いました。

特に山本鼎(上田市出身)の提唱する「自由画教育」を実践し、素晴らしい教育を

すすめ、全国に竜丘小学校を有名にしました。

紫水の教育は、ただ絵を描かせることではなく、絵を描くことを通して、子どもたちの豊かな感性を育てることに力を注いだのです。そのことは、人間教育のもととなることであって、今の竜丘の教育にも生きていることなのです。

学校を辞めてからは、仏教会、日曜学校、婦人会等の講師に頼まれ、社会福祉関係の仕事や弱者へのよき相談相手として活躍されました。

齊藤保定 (1776~1858)



▲齊藤保定の墓

長野原に生まれ、江戸時代に関孝和などが盛んにした数学（和算）を勉強して、飯田・下伊那地方に広め、人々に学問の素晴らしさを

教えました。その弟子に大野保造（長野原）がいました。金山神社や長石寺などに奉額してある算額から知ることができます。

『下伊那の和算』（北沢 武 著 南信州新聞社 平成10年刊）で学ぶことができます。

こばやしやうきち

小林洋吉 (1873~1937)



長野原に生まれて、温厚な人柄と学問熱心な探求心で、多くの方から尊敬されていました。

若いころ同志と力をあわせ、「下伊那青年の会」を結成し、月刊総合雑誌「伊那青年」編集発行人として活躍していたようです。

特に、精神性を尊び、青年層の文化活動を盛り上げました。

村の学務委員となって学校教育に対して、よき理解者となり、当時の下平芳太郎校長を助け自由教育を進めたともいわれています。

敬虔なクリスチャンとして、社会教育に、また宗教活動に幅広く活躍もしました。

長野原「たまりや」の小林洋吉の墓石の裏には、「我らは皆信仰を抱きて死ねり」と書いてあります。

おかむらにいち

岡村二一 (1901~1978)



▲岡村二一夫婦

桐林に生まれて、ジャーナリストとなり、東京タイムス社を創立し活躍しました。短歌や自由詩を作り、また雑誌を創刊しました。

若いころ青年活動に頭角を現し、大正10年（1921）には、竜丘青年会が郡の青年会の主役をするほど活躍しました。特に、当時小学校の自由教育を実践する若い教師等と在村青年数人が加わり「ポプラ」の会を結成して、文学活動を華々しく展開していたといわれています。

中田 幸^{みゆき} (1873~1947)



桐林に生まれ、駄科の念通寺で「日曜学校」という修養会を結成して、人々に生き方を考えることを勧めました。

駄科・桐林北部また

長野原や時又、時には松尾や下久堅からも参加があって、毎回数十人、多いときは生徒が百人を越え廊下に溢れていたそうです。

飯田で下伊那郡下の「日曜学校大会」が開かれましたが、この日曜学校は開校が早かったこと、人数も多かったこと、指導者が整っていたことなどあって、他の模範とされていました。

特に、念通寺の下平諦音上人^{ていおんしやうにん}（在職50年）にも及び、学徳高く正僧正の位をもっており、名僧と仰がれていました）や木下紫水と一緒に、地域の子どもたちに教育を勧めました。

中田は、農業大学を卒業後、県外で教師をしており、退職してから村に帰って村農会長や村会議員を務めました。自宅の二階で「朝学」を開いて、青年たちに漢文や農事のことについて熱心に指導しました。

父大三郎（1848~1928）は、竜丘村第1期村長を務め、桐林学校創立（1886）のとき、学校へ敷地650坪を寄附しました。これが、今の竜丘小学校の元をなしています。

地域にある重要文化財を一覧にすると

国指定

重要文化財	開善寺山門	昭和27. 3. 29
重要文化財	画文帯四仏四獣鏡	昭和28. 3. 31
重要文化財	絹本着色八相涅槃図	平成 5. 6. 10
重要美術品	開善寺の鐘楼	昭和23. 10. 1

県指定文化財

県史跡	御猿堂古墳	昭和44. 7. 3
県史跡	馬背塚古墳	昭和44. 7. 3
県史跡	鈴岡城址	昭和46. 5. 27

市指定文化財

市史跡	塚原二子塚古墳	昭和43. 11. 19
文化財	長石寺本堂	平成12. 11. 22



▲絹本着色八相涅槃図の一部

だんきゅう



中田美穂氏 提供

44



▲大井川（伊賀良井）

新 川

源流は笠松山で河川延長は6.6kmです。この川は、「太郎井・飛岩井・中溝井・新井原井」など多くの用水井の取水源となっています。また、大正4年（1915）に竜丘電気利用組合が新川発電所を設け、出力35kwの供給を開始し昭和32年（1957）に廃止となるまで地区の生活をうるおしました。

これは、産業組合法に基づく発電事業では日本で最初のことでした。



▲新川 発電所跡

西沢川

桐林の中央部を流れる小さな河川で、延長は2kmです。駒沢川と合流します。

駒沢川

河川延長は3.8kmです。駄科臼井地籍を源流とし、桐林を横断して時又島地区で久米川に合流します。竜丘地区内に源流をもつ小河川です。

臼井川

三日市場を源流とし河川延長は3.8kmです。上流には美しいしぶきをあげている「黄金の滝」があります。この辺りは浸食により奇岩、怪岩があり、通称「臼井川秘境」と呼ばれています。この付近に「座頭の手」「乳房岩」と愛染神社があります。

「向井・前田井」の取水源でもあり、久米川に合流します。



▲臼井川

茂都計川

河川延長は7.8kmです。切れ込みが深く、溪谷美が素晴らしい「源氏ヶ滝」等があり、久米川と合流します。「樋ヶ入井・下井」の取水源です。

久米川

河川延長は9.7kmです。三穂・川路・伊賀良・竜丘4地区の境界点があります。久米川は茂都計川、臼井川を合流して天竜川に注ぎます。大正11年（1922）に竜丘電気利用組合が建設した、出力35kwの久米川発電所がありました。



▲久米川と茂都計川の合流点

竜西一貫水路

上伊那郡中川村から飯田市川路までの23.9 km、受益面積1,035haです。昭和16年（1941）に工事着工され、竜丘地区に通水したのが昭和38年（1963）12月16日です。これにより、竜丘の水利用がたいへん便利になりました。



▲駄科寺下の竜西一貫水路

天竜川

「暴れ天竜」の名の通り幾多の記録に残る大災害を起こしています。時又港は江戸時代には、一本の橋もなく「渡し船」や「いかだ」を使っていました。明治、大正、昭和の始めころまで通船の中心地として栄えていましたが、鉄道の発達で様変わりしてきました。

南原橋

JR駄科駅より徒歩5分の天竜川にかかった下久堅南原に渡る橋が南原橋です。明治2年（1869）に黒瀬ヶ淵に架設されたのが初代の橋で、その後、場所、橋の形式も変わり現在は12代目で昭和51年（1976）3月に竣工しており、高さは約50mあります。

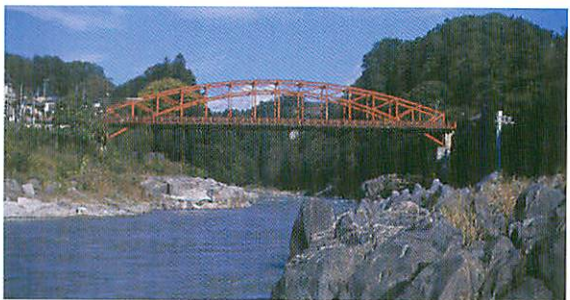
その優美な姿は鷲流峡の景観を一層引き立てています。



▲南原橋

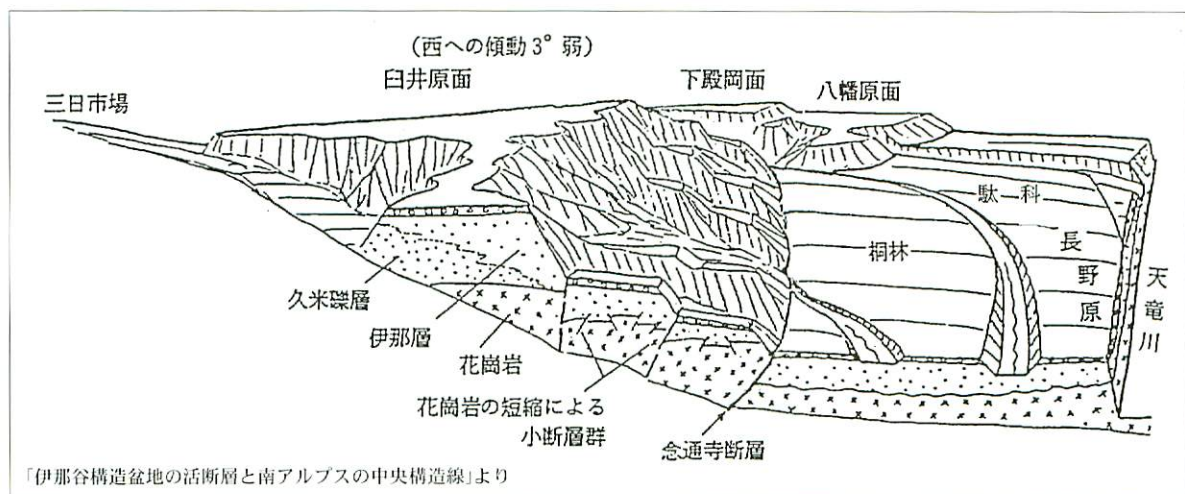
天竜橋

江戸時代より「渡し船」や「いかだ」を使っていた時又・今田間に待望の橋が架かったのは明治30年です。当時は有料でしたが、第2号橋より無料になりました。今の天竜橋は第3号橋で、昭和10年（1935）11月9日に開通しました。これも近々架け替えの計画があります。



▲天竜橋

2. 竜丘の地形と地質を^{さぐ}って里山を知る



竜丘はどんな土地の形（地形）をしているのでしょうか？歩いて調べてみましょう。

まず天竜橋から時又駅へ歩いて行くと、竜丘郵便局までは平らで歩きやすいですが、郵便局から駅までは坂になっています。駅の付近は少し平らですが、線路をはさんで西側はまた坂になっています。そこから学校の方へ行くと、細い急な坂道で曲がりくねっています。

学校の回りは平らな土地が続いています。この平らな土地を「前ノ原」と言います。

ここから竜丘橋の方へ行くと、新川にかかる竜丘橋が一番低い所で、そこからはまた上り坂になっています。その坂を上りきるとまた開けた平らな土地が続いています。そこは駄一の南平と長野原です。

大昔、長野原と前ノ原は本当はつながった広い平らな土地だったのですが、新川がその真ん中を流れて地面をけずってしまったので（川の浸食）二つに別れたような地形になっ

てしまいました。

学校から学友林の方へ向かい国道を越えると少しずつ上り坂になります。

ところが桐林の八幡社の辺りに来ると急に「山」という感じがしてきます。平らな所から急に山、何か秘密がありそうです。

左に川をみながら学友林の前を通り、さらに歩いて行くと、竜丘選果場あたりから急な上り坂になります。右に上がる道をズンズン登っていくと果樹園や畑が一面に広がる広い平らな所に出ます。（そこには『鬼ヶ久保』の水溜の看板が立っています。）その平らな所を「白井原」と言います。白井原はここから伊賀良の三日市場の運動公園通りへ続いています。

今までの道を振り返ってみますと、竜丘は天竜川から白井原まで平地→坂→平地→坂→平地というように段々になっていると言えます。これを「^{だんきゅう}段丘」と言います。

うすいばら
臼井原はどうやってできたのでしょうか？

さっき桐林八幡社から急に山になるといいました。もう少し詳しく調べてみましょう。

桐林の信号から新川さる橋の方に行く通学路があります。思い出してください。家に帰るとき、道路の右側は平らな地形です。でも、左側は急に山になっています。皆さんがよく行く万寿山もその中の一つです。その山の上は臼井原になっています。

さて、竜丘は、まだ人が住んでいない大昔、木曽山脈から天竜川までは比較的ゆるやかな傾斜地でした。ところが東側にある南アルプスの方から、ある時伊那谷の方に強い押す力

がかかりました。その力の影響で天竜川に続く傾斜面に割れ目ができて地面が持ち上がったりしました。地面が断ち切られて上下や水平にくいちがいがあったのです。これを「断層」と言います。

天竜川に向かってなだらかに下がっていた地形が、断層ができることで持ち上がって臼井原ができました。この断層は、念通寺のあたりを中心に通っているので、「念通寺断層」と呼ばれています。上川路宮の前あたりから松尾の八幡あたりまで続いている大きな断層です。鈴岡公園の下毛賀沢でこの断層の様子を観察することができます。

3. 竜丘の野鳥を知って楽しむ

竜丘には、川や断層が作る崖に豊かな広葉樹林があり、様々な山の鳥が人家の近くにも住んでいます。また、東を流れる天竜川は天竜奥三河国定公園となって自然が保護されているので、カモなどの水鳥もたくさん集まってきます。畑や果樹園もあり、自然が入り組んでいるので、人家の近くからでも様々な鳥が見られるところです。

山の鳥

竜丘に多いタカの仲間は、トビです。

トビは飛んでいるときに、尾の形が「三味線のぼち」の形をしていることで他のタカの仲間と区別できます。昆虫や魚などさまざまなものを食べ、水面に浮かぶ死魚も食べるため掃除屋とも言われます。「ピーヒョロロ」と鳴きます。

臼井や高野の山には、オオタカも住んでいます。オオタカは絶滅を危惧されて日本版レ

ッドデータブックに記載されている鳥です。この鳥がいるということは、竜丘には豊かな雑木林があるという証拠です。伝書鳩がタカに取られることもあるといいます。数の少ない鳥ですが、見ることもできるかもしれません。

サシバ、ノスリ、チョウゲンボウ、ハヤブサも見られます。



▲オオタカ



▲ノスリ

じんか 人家近くにやってくる山の鳥

人家の近くでも、山の鳥がやってくるので、いろいろな鳥が見られます。山の鳥で人家付近でもよく見られるのは、シジュウカラなどの仲間です。シジュウカラは春に、郵便箱の中などにも巣を作ることがあります。また、冬になると、ヒガラやヤマガラ、ギーギーと鳴くコゲラ（キツツキ）などが一つの群を作ります。あまり人を恐れないので、静かに近寄って観察することも容易です。

エナガやキジバト、カッコウ、イカルも繁殖しています。キツツキの仲間のアカゲラ、アオゲラもいます。

夏の夜には、フクロウやヨタカの鳴き声も聞こえます。鳴き声をまねするカケスは、きれいな鳥です。キジバト、サンショウクイ、ヒヨドリも繁殖しています。オオルリやコサメビタキ、サンコウチョウは数が減っています。

冬は、庭先へも餌をおいておくとやってきます。リンゴなどの果物を枝の先に刺しておくと、目の回りの白いメジロやヒヨドリが、やってくるでしょう。



▲オナガ



▲シジュウカラ



▲モズ



▲ホオジロ

そうげん 畑や草原の鳥

スズメより少し大きな鳥が100羽以上群をなしていたら、きっとムクドリです。ムクドリには田舎者という意味もあり、自然豊かな田舎の鳥です。コムクドリもいます。

オナガという尾の長い姿の美しい鳥も群を作ります。十数年ほど前から伊那谷にも住み着き、これからのすみかの拡大が注目されています。

天竜峡付近にはカラスのねぐらがあります。冬になると朝は天竜川沿いに北へ何十キロと飛び、夕方に帰ってきます。下伊那の天竜川の回りに住むカラスのねぐらはここだけです。数を数えれば下伊那の天竜川のカラスを数えることができるわけです。カラスには声のきれいなハシブトガラスと、声の濁ったハシボソガラスがいます。

カエルやトカゲなどの昆虫を捕まえて木の枝先に刺しておく習性のある、モズ、チゴモズ、アカモズもいます。

地域でヒトトやシトト等と呼ばれているのは、ホオジロです。ヒバリは減ってきていて、見ることが少なくなっています。

ツバメが毎年やってきて巣を掛ける家もあります。天竜川の橋の下にはイワツバメが見られます。

人家近くの畑には、他にも、カワラヒワ、コジュケイ、キジが繁殖しています。また冬にはルリビタキが見られます。



▲ムクドリ



▲マガモ

川の鳥～野鳥のすみか～

天竜川は、竜丘のところで鷺流峡という深く狭い谷になっています。南原橋から下流の天竜川周辺は、景観が美しく、天竜奥三河国定公園に指定されています。国定公園内は自然保護区になっていて狩猟が禁止されています。上流のカモやサギの仲間たちは漁師や猟犬に追われるので、冬になると時又の天竜川下流にはたくさんの冬鳥が集まります。マガモ、コガモ、シロサギ、アオサギ、水の中に潜っては顔を出すカイツブリ等が見られます。イカルチドリやイソシギ、カルガモは繁殖しています。

V字になって天竜川の上を飛んでいる鳥はカワウです。カワセミの美しい姿や、ヤマセミの水中へのダイビングも見られることもあります。

カワガラスも繁殖しています。

石の上にキセキレイやハクセキレイ、セグロセキレイが尾を上下に振っている姿も見られます。

オオヨシキリも川原の草の中で「ギョギョシギョギョシ」と大きな声で鳴いています。

このように、鷺流峡とその下流の天竜川は、野鳥のとてもよい観察場所なのです。

チョロまつ松の話

天竜橋の欄干には「長老松（ちよろまつ）」という盆栽のような松が生えています。

これは時又の長石寺の松の種を鳥が運んでいき、橋の欄干で芽を出したものだといわれています。毎年、時又の初午はだか祭りのときに、御水をかけて清めています。



4. 「これはおもしろい生き物！」の今昔

竜丘は天竜川の流れる標高365mから、560mの臼井原、高野の台地まで200mの標高差を持つなだらかな段丘からなり、里山と平地との連続の中にあります。近年宅地化が進み、緑の地帯が少なくなってきましたが、大きな川をもちグリーンベルト地帯としての里山を持つ竜丘地区は生きものにとっては住みよい土地です。

長い歴史の中で、馬と養蚕の盛んな土地であったので、ことに生きものは大切に扱われる土地柄でした。蚕のことは「おかいこさま」と呼んで大変大切に扱われました。第二次大戦のあと、D・D・T、ホリドール等新しい薬品による害虫退治で、多くの生きものが姿を消しました。それから、また生きものを大切に扱う時代が来て、昔の生きものたちがぼつぼつ戻って来るようになりました。

1990年代になって昔のように竜丘は生きた標本箱のようになってきたのです。

昔の標本箱をのぞいてみて、今の生きものの仲間と比較してみましょう。

べぼう〈クマバチ〉

竜丘ではクマバチのことを「べぼう」と呼びます。藤の房や、どうだんの花の咲く頃現れる3cm位の黒くて眼の大きな蜂です。空中で止まっているように見える（ホバリングという）のは雄で、雌の通るのを待っているのです。雄は頭の眼と眼の間に黄色の三角形の短毛があります。雄は刺し^きません。この他に竜丘にいる蜂では、アカバチ、シリクロ、キイバチ、フナゾコバチ、アシナガバチ、ミツバチ、ツチバチ、スガラなどを見かけます。

あおのきちょっか〈マツモムシ〉

「水馬」とかいて、アメンボウと読みます。田や池の水の上をぴょんぴょんと長い足で飛んでいく細長い体の黒い虫です。大きいのも小さいのも丸いのもいます。つかま^{あめ}えると飴くさいのでアメンボウの名前をもらいましたが、竜丘では「おんまちょっか」と呼びます。マツモムシは水の中にいるときはいつでも背中を下にして足を上にして生活しているので、「あおのきちょっか」と呼ばれて来ました。

竜丘にいる水生昆虫は、タイコウチ、ミズカマキリ、コオイムシ、ミズスマシ、ゲンゴロウ、ガムシなどです。ゲンゴロウのことを「とおくろ」とも呼びます。タガメ、フウセンムシはもう見あたりません。



▲マツモムシ

ぞうむし〈カブトムシ〉

カブトムシのことを竜丘では「ぞうむし」と呼びます。長いツノが象の長い鼻に似ているのでそう呼ばれました。カブトムシというクワガタ全体の呼び名でした。クワガタのそれぞれの呼び名は次の通りです。じゅうばこ→ミヤマクワガタ、よしつね→コクワガタ、かとう→ノコギリクワガタ、おたま→メス全部を呼ぶ。「のこぎり」と呼ばれていたのは近頃姿を見せなくなりました。図鑑によれば、“ノコギリクワガタ 小型”という説明がありました。「かじわら」というコクワガタに似たのも見られなくなりました。



▲カブトムシ

こぜえみ〈ニイニゼミ〉

ニイニゼミのことを竜丘では「こぜえみ」といいます。「おおぜみ」というのはアブラゼミのことです。5月に鳴きはじめるハルゼミは「まつぜみ」と呼びました。上川路^{こうや}高野、桐林クリーンセンター裏山、駄科臼井の松山、鈴岡公園などが生息地です。気温が19℃以上で、陽が当たって無風のときに鳴きます。その他「おおしんつく」はホウシゼミ、「かなかな」はヒグラシのことです。ミンミンゼミは普通ですが、クマゼミは数が少なくなりました。エゾハルゼミ、チッチゼミは竜丘ではまだ記録がありません。

てんじんさま〈ショウリョウバッタ〉

ショウリョウバッタのことを竜丘では「てんじんさま」と呼びます。天竜川原や白井原など^{かほんか}禾本科植物のある野原ではよく見かける^{ちよくしゆく}直翅目の仲間では一番大きなバッタです。エンマコオロギ、ミツカドコオロギ、キリギリス、ウマオイ（すいっちゃん）、スズムシ、イナゴ、トノサマバッタ、オンブバッタ、カマキリ、ケラ（おけら）などたくさん戻って来ましたが、スズムシは少なくなりました。大合唱をするアオマツムシは昭和55年以降に竜丘へ入って来ましたが、クツワムシは竜丘には昔からいません。



▲ショウリョウバッタ

はっこめっこ〈ウスバカゲロウ幼虫〉

お宮やお寺の縁の下にある「^{ありじごく}蟻地獄」の中にひそんでいて落ちたアリを大きな^{はさみ}鋏でつかまえて、食べてしまうのが、「はっこめっこ」です。ウスバカゲロウの幼虫で、外に出すとうしろの方に歩くのが特徴。この他虫の仲間では、カメムシ、オサムシの仲間を「へくさむし」といいます。一時絶滅したと思われていたハンミョウが千代の山の中で発見されたのが昭和58年で、それから各地の山道へ出現するようになりました。竜丘では^{こうや}高野、^{うすいばら}白井原、^{まつがさき}松ヶ崎などでお目にかかれます。人の前へ前へ

と飛んで、人の来る方へ顔を向けて待っているので「みちおしえ」と呼ばれています。

すうめのさかおけ〈イラガ〉

伊那谷で見られる蝶は高山蝶を含めて138種といわれています。竜丘でごく普通に見られるのは88種類で、注意して探せば100種まで見られます。見られなくなった蝶もあれば、^{だんちせい}暖地性の蝶も定着して来ました。

「すうめのさかおけ」とは、「^{すずめ}雀の^{さかおけ}酒桶」という意味で、イラガの^{さなぎ}蛹が入っている^{こうしつ}硬質の^{まゆ}繭です。梅や柿の木の枝に1cm位の^{らんけい}卵形で^{しまうま}繭馬に似た^{もよう}模様の卵を作ります。昔の人は雀がお酒を入れておく^{おけ}桶だと考えたのです。中から^う羽化して出て来るのがイラガです。卵を^ふ産んで^か孵化して幼虫になると体中トゲのある青虫になり、そのトゲにさわって刺されるとものすごく痛くてはれます。イラガは「^が蛾」ですが、「^{ちょう}蝶」も含めて「^{りんしもく}鱗翅目」という仲間で、虫の中では一番種類が多いといわれています。この仲間ではやはり「ギフチョウ」が竜丘の蝶です。^{きしょう}稀少な文化財です。



▲イラガの繭



▲イラガの成虫

うきす〈メダカ〉

メダカのことを「うきす」といいました。昔はどこの小川にも田んぼにもいましたが、竜丘では数カ所に限定されて棲息しています。体中真っ黒な「くまかじか」は見当たらなくなり、背中に斑点のある「てんりゅうかじか」は今もいますが数が少なくなりました。新川水系しんがわすいけいだけに見られる「むつ」はたんぱく淡白でおいしい川魚ですが、個体数が少なくなりました。天竜川に流れ込む竜丘の川は6筋すじあり、いろいろな魚や貝がいます。ウナギ、あい（アユ）、コイ、フナ、ナマズ、ドジョウ、モロコ、がごた（ヨシノボリ）、ずこんぼ（カマツカ）、あかうお（ウグイ）、シジミ、かーにら（カワニナ）、つぼ（タニシ）などですが、竜西一貫水路が出来てから、貝も魚も昔と変わって来ました。

やまつかじ〈ヤマカガシ〉

ヤマカガシのことを「やまつかじ」と竜丘では呼びます。昔は蛇へびといえば「やまつかじ」というほどたくさんいました。毒蛇どくへびではないということで、子どもたちの遊び道具でしたが、毒蛇だといわれるようになってから急に個体数が減って、見かけることが少なくなりました。

「青大将」あおだいしょうのことを「あおろじ」といい、家の天井に住みついたのは大切に扱われました。シマヘビ、くそむし（マムシ）、ひやつかじ、きのしへび、ぢもぐり、などが竜丘で

見られます。

おたまっこ〈オタマジャクシ〉

オタマジャクシのことを竜丘では「おたまっこ」と呼びます。昔はどの地区でも山沿いの田んぼには「ひきたがえる」の長い卵のヒモをみたものですが、竜丘で蛙合戦かえるがっせんの場所はなくなりました。トノサマガエル、アマガエル、ヤマアカガエル（食用がえる）が竜丘に定住ていじゅうしています。「いぼがえる」は個体数が少なくなりましたが、開善寺の池には生息しています。「イモリ」も一緒に蓮はすの葉の下にいます。シュレーゲルアオガエルはだいぶ増えて来ましたが、モリアオガエルは竜丘では確認されていません。

ひとと〈ホオジロ〉

ホオジロは「ひとと」と呼ばれ、「獲とるとおかいこさまがくさるから殺してはいけない」といわれました。キセキレイは「せきりん」といって、石垣の穴に巣をつくります。この鳥は巣や卵をとると「親の死に目に合えない」と、とってはいけないことを教わりました。どちらも大切な益鳥です。カラス、モズ、スズメ、シジュウカラ、ホオジロ、ヒヨドリ、ツバメ、ハト、キジ、ヒバリ、などは巣を見かけます。「ひとと」は高い木の梢で「いっぴつけいじょう つかまつりそうろう」と早口に鳴くと教わりました。

ひょうがき ようせい 5. 氷河期の妖精ギフチョウが飛び交う里



▲ギフチョウ

駄科、桐林、上川路の丘陵地帯には、里に春が訪れる4月の風のない晴れた日の午前、小刻みに翅を震わせながら、可憐な姿で飛んでいる蝶がいます。

これが、氷河時代から生き残っているといわれる「ギフチョウ」です。ギフチョウは小型で、黄色と黒の縞模様（しま模様）に、後翅に赤・青・だいたい色の美しい紋をつけています。その姿は、地域の街路灯にデザインされているので、多くの人が目に触れ、知っているでしょう。

成虫は、サクラ、ツツジ、スミレ、カタクリなどの蜜を吸って、雑木林をその棲み家に使っています。卵は、幼虫の食草であるウマノスズクサ科のヒメカンアオイなどの葉裏に10卵ほど産み付けられます。幼虫は、産卵から2週間ほどで黒い毛虫となり、カイコと同じで4回脱皮（さなぎ）して約30日で蛹になります。蛹は、落葉の中で翌年の春までの約10ヶ月間を、暑さ寒さに耐えて過ごしているのです。

このような生態（せいだい）で、ギフチョウが遠い昔から今日まで生き続けているのは、竜丘の地域の自然環境が蝶にとって最適だったからです。ギフチョウが棲む自然こそ、私たち人間にとっても大事な自然ですので、いつまでも保護し受け継いでいかなければなりません。

いま、自然環境の汚染や開発によって、ギフチョウが絶滅（ぜつめつ）の危機（きき）に遭遇（そうぐう）しつつあります。何としてもギフチョウを私たちの地域で守っていきたいということで、竜丘小学校、竜丘老人クラブ、飯田昆虫友の会など多くのみなさんが、食草の移植やパトロール、ギフチョウ公園の設置などの活動をして保護活動を積極的に進めています。平成元年4月27日、全国119ヶ所の内の1ヶ所として環境庁より「ふるさといきものの里」の指定を受けました。

平成2年（1990）には、地域ぐるみの保護活動が認められ、「第5回ムトス飯田賞」を受賞しました。

毎年4月中旬の日曜日には、飯田昆虫友の会が「飛んでいるギフチョウを見る会」を開いており、地域内だけでなく、遠く県内外から多くの人が訪れます。



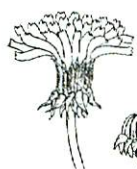
◀ギフチョウ観察会

6. 竜丘の四季に見られる生き物と草花

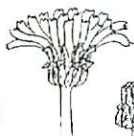
春

つくし たんぽぽ ふきのとう
すみれ しゅんらん かわいいな
わらび ぜんまい ののひるつんで
よもぎのくさもち たべたいな
つばな いたどり すいこんぼ
すい葉もたべて おいしいよ
レンゲの花で くびかざり

ちょうちょ ちょうちょ なの花とまれ
すじぐろしろちょう ひらひらまうよ
もんしろちょうを さがしてみよう
ちょうちょのなかまは たくさんいるな
あげはちょうに たてはちょう
じゃのめちょうに しじみちょう
せせりちょうは いそがしい



西洋たんぽぽ



関東たんぽぽ



白花たんぽぽ

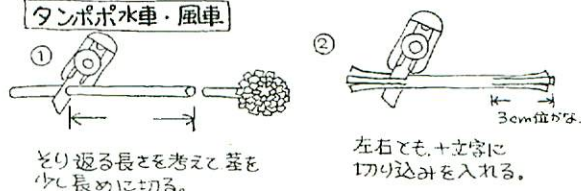
たんぽぽでメガネを作ろう

竜丘には西洋たんぽぽと関東たんぽぽ、それに少ないですが白花たんぽぽがあります。たんぽぽの花の軸は、とても長くなり中には1m近くものびるものもあります。軸の長さ調べをしてみましょう。花の軸を裂いてメガネにすることもできます。両側を細かく裂いて風車や水車にすることもできます。

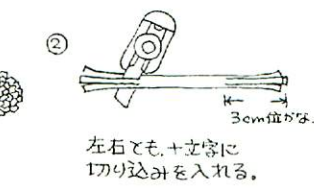
口を小さく割って吹くと、笛にもなります。

自・然・と・遊・ぼ・う

たんぽぽ水車・風車



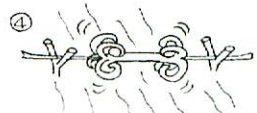
とり返る長さを考えと茎を少し長めに切る。



左右とも、+字に1切り込みを入れる。

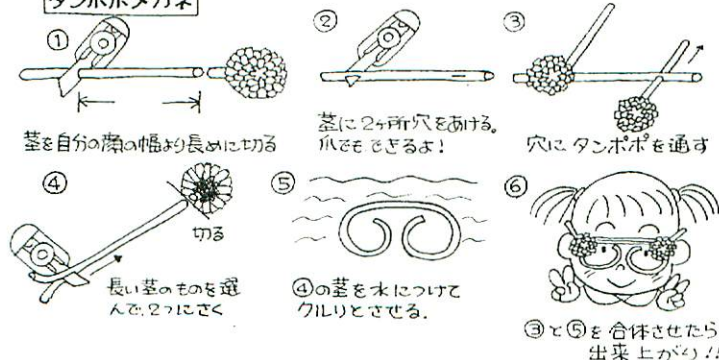


左右とも、切り口を水につける。すると、クルリと回り始める！



ふた又の枝を2本、川に立って細い枝を差し、③のせるとクルクル回るよ！

たんぽぽメガネ

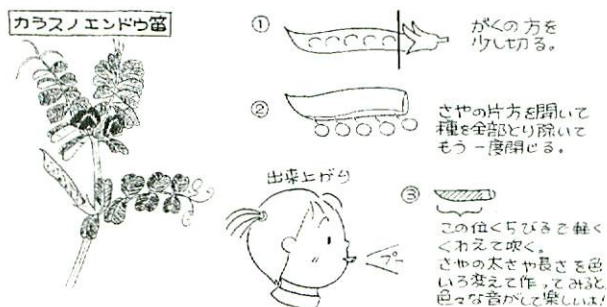


枝の両端をかるく
持って吹けば「風車」!

カラスノエンドウで作る^{ふえ}笛

カラスノエンドウの実の、片方を少し切り取って割って吹くと笛になります。

しびーといいます。



夏

おたまじゃくしは かえるの子
ひきたがえるは 大きいよ
とのさまがえる あまがえる
ないて降る降る 夏の雨

ふな こい どじょうは 川のなか
もろこやめだかは 沼のなか
しじみは きれいな 川のなか
みんなで さがそう 今もいるはず

ざりがに さわがに 石のした
丘に上がって あわをふく
げんごろうは 水のなか
あめんぼうに みずすまし
すいすいすいと 水のうえ
あおだいしょうに やまかがし

とかげやむかでも 草むらに
いもりは山の 水たまり
くわがたむしや かぶとむし
とりにいこうよ 朝早く
どちらが強いかな すもうとれ

いにいにいぜみに あぶらぜみ
暑い^{さか}盛りは うるさいが
つくつくぼうしや ひぐらしが
なければ暑さを 忘れさす

ほたるは 夜空の お姫さま
天の川から とんできた

朝顔の花やツツジの花の空気であほう

朝顔の花をとって、指で○を作ったところ
にはさみ、たたくと鉄砲のように鳴ります。



秋

いととんぼ はぐろとんぼは 川のふち
しおからとんぼは 池が好き
赤とんぼは 空高く
おにやんまは 大きいな

こがねむしは 金持ちだ

たまむし かなぶん きれいだな

てんとうむしも きれいだな

いなご ばったは 高とび名人

しょうりょうばったは 天神さまだ

きりぎりすは 楽器の名手

こおろぎ うまおい まけずになけよ

おけらはどこに いるかいな

こわいぞかまきり じょうろぐも

山にはきのこが たくさんあるよ

いくち はつたけ おしょうにん

くりたけごはんに しょうかな

どんぐりころころ くりひろい

あけび ようぞめ ばらいちご

薬草せんぶり われもこう

えのころ草でテングの鼻

エノコログサのほを取って、つめの先でくきを二つにさいて半分ほどに広げ、はなの下につけると「テングの鼻」ができます。

エノコログサは、ネコジャラシといいます。

えのころ草のテングの鼻



ドングリ遊び

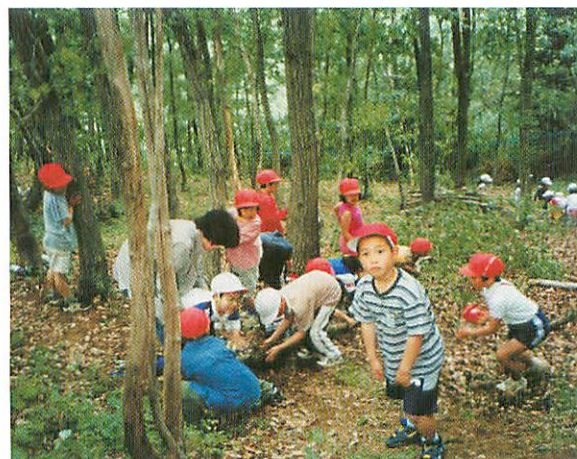
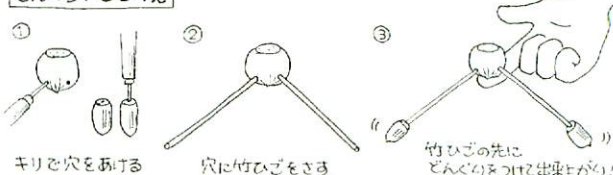
竜丘にはたくさんのドングリの木がありますが、コナラ、ミズナラ、クヌギが主です。環境産業公園にはその回りで拾ったドングリの林を作ってあります。紅葉の始まった時期に、森へ行ってドングリ拾いをして3種類のドングリを見つけましょう。

クヌギは、大きな丸形のドングリです。コナラとミズナラは細長いのですが、ちょっと太めがコナラ、細めがミズナラです。

縄文時代の日本人の主食はドングリで、食料やお酒にしていたようです。ドングリはコナラもミズナラも^{あく}灰汁ぬきをすれば食べることができます。

ドングリは他にも、ヤジロベエにしたりコマを作って遊ぶのもおもしろいです。

どんぐりやじろべえ



▲ドングリを拾う子どもたち

コナラ
(1.5cmくらい)



ミズナラ
(2~3cm)



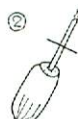
どんぐりごま

①



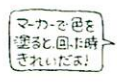
キリで中心に
穴をあける

②



穴にようじをさして、バラ
ンヌの長い棒に切る

クヌギ
(2~3cm)



マカ-を色を
塗ると、回す時
きれいだぞ!



出来上がり

ヒガンバナの首かざり

秋の彼岸ころ、真っ赤な花を咲かせるヒガンバナには、きつね花、しびと花、まんじゅしゃげなど、たくさん名前がついています。

花のさいた花の軸を番号のように片方の皮をのこして左と右におりながら花首のところまで2つにさいて、両はしをからませると、首かざりができます。

ヒガンバナの首かざり



②



茎の皮をのこしながら、左右交互に折って、
花首のところまで、2つにさく

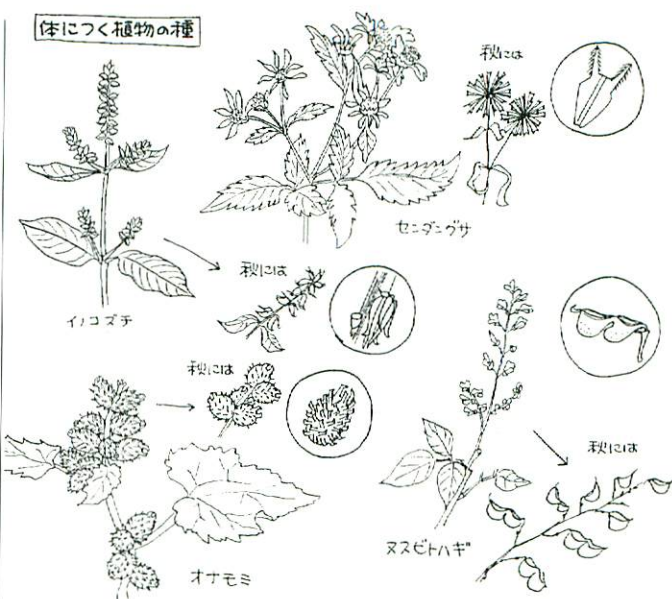
2本の端と端をからませて
重なるようにして、出来上がり!

からだ 体につく植物の種

秋になると、たくさんの種類の体につく種がみつかります。見つけてみよう。

イノコズチ、センダングサ、オナモミ、メナキンミズヒキ、チヂミザサ(べたべたくつつく)他にも色々見つけてみよう。

体につく植物の種



冬

虫や草花 冬ごもり

雪の下で ねむってる

ふきんとうは 早起きだ

むくどり ホオジロ えささがし

知ってるかな、春と秋の七草

春の七草

せり、なずな、

ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、

すずな、すずしろ

秋の七草

すすき、はぎ、

おみなえし、ききょう、なでしこ、

くず、ふじばかま

7. ぼくらが探した^{じ ま ん}自慢^{じ ゅ も く}の樹木

大きな木に様々な思い出を持っている人も多いことでしょう。木の周りで遊んだり、落ち葉を拾ったり、木に登ったり。また、風が吹いて大きな音を立てているのを聞いたことがあるかもしれません。

その木に触れたり、その木陰^{こかげ}で一息つくとき、何故^{なぜ}かほっとします。大きな木は私たちの姿をじっと見つめていてくれる母なる木でもあります。何も語らない木のことを少しでも考えてもらおうきっかけになったらと思います。

小学校の桜

小学校の体育館の南西側の畑の端に大きな桜があります。昔の学校坂の右側にあたる所です。樹の高さは約19m、^{むねだかしゅうい}胸高周囲2.7mです。また、春一番最初に花を付けるのもこの桜です。

小学校のエノキとギンモクセイ

竜丘小学校のプールの横、竜丘民俗資料館のわきに大きなエノキがあります。

^{じゅこう}胸高周囲2.6m、^{すいていじゅれい}樹高16.1mで、推定樹齢は150年と思われます。

エノキの横に、寄り添うようにしてあるのが、ギンモクセイです。たいへん立派で堂々とした木です。^{しゅうい}根もとの周囲は2.3mあり、

地上1.5m付近で3本に分かれています。その1本の周囲は1.4mあり、他の2本も同じくらいの太さです。樹高9.6mで、推定樹齢は120年と思われます。秋になると花が咲きギンモクセイ独特のほのかな香りがあたりに立ちこめます。

万寿山のソメイヨシノ



▲万寿山桜祭り

いまから60余年ほど前に、桐林の共和会のみなさんによって桜が植えられました。全部で150本ほどあります。

春になると見事な花を付け、竜丘地区の人々をはじめ、近隣の人たちもお花見に出かけてきて楽しんでいます。



▲小学校のエノキとギンモクセイ

上川路八幡社のモミ

上川路八幡神社の上の右脇に、モミの巨木があります。木の大きさは胸高周囲4.3m、樹高40mです。推定樹齢は300年以上といわれています。

飯田市内としては、山本の七久里神社、川路八区の諏訪神社、龍江^{おしな}尾科の秋葉神社のモミと比べても、ひときわ大きいみごとな木です。



▲八幡社のモミ

開善寺の大イチョウ

開善寺本堂の西、約40mほどの所にイチョウの木があります。木の大きさは、胸高周囲6.5m、樹高25mで、推定樹齢は400年といわれています。

イチョウは雌雄異株^{しゆういかぶ}で、この樹は雌木^{めぎ}です。若木の時、根元から伐採されたためでしょうか、幹が根元から5本に分岐^{ぶんき}していて、飯田市内では、正永寺のイチョウにつぐ木です。

植えられた年代は定かではありませんが、



▲開善寺の大イチョウ

開善寺は由緒ある古い名刹だけに、根元の様子などから、室町時代中国から日本にもたらされた年代（500～600年前）に近い樹齢かも知れません。

また、本堂の東にあるメタセコイヤも立派で樹高約33mで、胸高周囲2.9mです。この木は昭和35年頃植えられたものです。

金山神社のヒノキ

長野原金山神社に、神木として大切に保護されてきた大きなヒノキがあります。胸高周囲5.1m、樹高18mで、推定樹齢は300年といわれています。

この木は珍しく、途中6mほどの所から幹が4本に分かれ、大空^{ほうき}に箒のように枝を広げていてみごとな木となっています。



▲金山神社のヒノキ

駒つなぎの桜

鶯流峡の右岸中程の崖下に、約270年前に発見された「湯之瀬の湯」と呼ばれる鉱泉がありました。その近くに「駒つなぎの桜」という枝垂れ桜^{しだ}があります。樹齢は約400～500年くらいといわれており、この桜が当時の面影を今に伝えています。



▲胸つなぎの桜

時又のオオモミジ

時又駅の上段にある墓地内に、立派なモミジがあります。

胸高周囲2.0m、樹高6mで、推定樹齢300年ほどと思われます。

国内の最大のものでも胸高周囲1.8m、樹高15mであるといわれています。このモミジは、墓地という環境にあるだけに、樹高こそ低いですが、みごとな大木です。



▲時又のオオモミジ

時又八王子社のコウヤマキ・スギ

時又の八王子社の境内の鳥居の左脇に、コウヤマキの大樹があります。胸高周囲2.4m、樹高20mで、推定樹齢は約150年です。

飯田市内では珍しいみごとな名木で、樹の脇に、この樹の由来について次のような説明板があります。「嘉永年間、当区の畑屋伊原平一翁が木曾へ御伝馬使役を命ぜられ出勤しその帰りに、弁当箱に入れて持ち帰った木」…と。

また、境内にはたいへん背の高いスギがあります。高さ30m、胸高周囲3.0m、推定樹齢150年といわれています。



▲八王子社のコウヤマキ

今村東一郎さん宅の松

時又の長石寺の下にある今村さん宅の庭木の松は、“竜丘なんでも一番”で「一番古い木」にあげられている黒松です。樹高約15m、胸高周囲2.6m、樹齢はおよそ600年といわれています。



▲今村東一郎さん宅の松

8. 里の自然を保護する人々

竜丘の自然は、この50年あまりのうちに大きく変わってきました。この地に永く住みついていた植物や動物が消えていくのを知ると寂しい思いでいっぱいです。

もし、それが人間によって消えているとすれば、やがて、自然から仕返しを受けるかも知れません。

私たちの地域には、多くの自然を大切にしている人々がいます。

そんな姿を丘の里から探してみましよう。

しのぶえん
信夫園

上川路の高野の温暖な丘陵地に、山から自然に湧水わきみずが出ている水田地帯があります。この休耕田を使って、水棲生物すいせいせいぶつが棲息できる場所にしようと取り組んできた人がいます。上川路の井口正三さんです。

平成7年4月、荒れていた農地の草刈りからはじめて、土手作り、水路の補修等に取り組み、8月に初めて水を入れました。すると、マツモムシ、ミズスマシ、アメンボウなどがどこからか次々にやってきました。そして、ゲンゴロウ、ミズカマキリ、イモリ、タイコウチなどもやってきて種類が増えたそうです。

2年目には上久堅からメダカ80匹をもらってきて池に放ちました。住みよい環境だったのでしょうか、次第に繁殖して、今では数え切れないほどになっているそうです。また、ヒヨドリバナ、イヌノヒゲ、ミズオオバコ、シラスゲなどの水辺の珍しい植物も顔を見せてきたそうです。

そしてここを信夫園と名づけました。

環境をよくしてやると生き物は、喜んでやってくるものだと、井口さんは言っています。それから、5年6年と経つにつれ、この信夫園は、多種類の水棲生物で賑わっています。

また、訪れる人も多くなりました。池は、生物と仲良くできる人たちが来るのを待っています。



▲信夫園

す
ホタルの棲む川

時又駅の近くでホテルをかわいがっている
酒向伸幸さんがいます。今から30年ほど前か
ら、ホテルのえさになるカワニナが棲めるよ
うにして、ホテルを増やすことに大変努力を
してきました。毎年6月になるとホテルが飛

び交うようになりました。個人の力で始めてきましたが、「虫に学ぶ地域環境講座」の人たちが酒向さんに学びながらお手伝いをするようになりました。そうして、ホタルが時又駅から新川にかけて飛び交うようになったのです。

もう1ヶ所、昔のようにホタルの棲める川を再現させたいと努力している人たちがいます。

駄科のお宮のところに「ホタルの住む川」と書いた看板が出ているのを見た人もいでしょう。それは、駄科地区育成会と駄科区の人たちが平成10年から始めた活動です。

まず、ホタルの餌になるカワニナを川に放流しました。水が汚れていたり、棲める草や石がなくてはなりません。カワニナが棲めるようにすることから始めたそうです。

やっと、3年目にカワニナが繁殖していることが確認されました。そこに、ホタルがやってきてくれればしめたものです。それには、何といても川の水をきれいにしなければなりません。いま、初夏の夜、美しい光を放ちながら乱舞する情景を夢見て、一生懸命地域をあげて取り組んでいます。



▲駄科諏訪神社横・ホタルの棲める川づくり

メダカが泳ぐ池

桐林の「匠の里KOA」の近くにメダカの棲む自然の池があります。メダカが、陽の光を受けて元気よく泳いでいる様子を見ることができます。昔は、地域のいろいろなところでこうした場所があったのでしょうか。

ここは、塩沢勘一さんがおよそ80年以上も前から、メダカの棲める自然を大切に守ってきたからで、竜丘の固有種が唯一棲んでいる大変貴重なところですよ。

いつでも自由に観察させてもらうことができますが、持ち主の塩沢さんにお断りして観察しましょう。



▲メダカが泳ぐ池

道路を飾る花いっぱい運動

竜丘の地域内を歩くと、道路端に整った街路樹や花などが植えてあることに気づきます。道を通りながら、私たちに季節の潤いを与えてくれています。

国道151号線のサンヒルズ入口の信号を西に上って、桐林運動場へ行く広い道路の左側に、ハナミズキとキンモクセイが交互に植えてあります。秋になると紅葉とモクセイの香

りが自然の中に漂^{ただよ}っています。これは、桐林地区の壮年会の皆さんが植えたものです。

また、桐林・駄科の国道の歩道に、日々草・ベコニヤ・マリーゴールドなどがプランターに植えられ、四季折々に花を咲かせています。これは、商工会議所竜丘支部の皆さんが、毎年続けているものです。

駄科では、北平地区のマネージメント推進会のグループの皆さんが、道路に面した田んぼの土手にツツジやサツキを植えて地域を明るくしようとしています。

上川路区では、ボタンの里委員会という組織を作って、各家の庭先や道路にボタンを植

え、地域いっばいに花を咲かせようと運動を展開しています。

長野原地域でも、それぞれの道路に花や樹木を植えて、その花の名前をつけた呼び名にしようと計画しています。



▲道路を飾る花々

IV. 竜丘^{きぎょう}の企業や社会施設を調べよう

最近、地域内に大きな工場や会社が多くなってきました。皆さんの家族の方も勤めにいっているかと思います。地域に役立つ社会施設が整ってくることは、地域の発展には欠かすことはできません。地域全体から見ても生活に潤いと活気をもたらします。

地区の文化祭の時に企業の製品が展示されています。それらを見たり、工場の中を見学させてもらって学習しよう。

1. 発展^{はってん}する企業

(従業員40人以上の企業)

■カルニュー光学工業株式会社

時又の八王子社の北側にあり、昭和19年(1944)竜丘に疎開^{けんびきょう}してきて顕微鏡^{けんびきょう}レンズなどを作ってきた古い会社です。現在は、分光^{ぶんこう}計^{けい}・屈折^{くっせつ}計^{けい}などの新しい光学関係の製品を製

造しており、働いている人は40人です。

建物は、田舎の小学校を思わせるような親しみがあります。会社の広場は、地域の人たちが借りてスポーツなどをさせてもらっています。

あさひまつ

■旭松食品株式会社

駄科駅の東に広い敷地をもって、凍豆腐、即席生タイプみそ汁、カップスープ等を生産している日本でも有数の食品会社です。従業員も多く、現在は全社で約1,000人余いるそうです。

以前は松尾の明にあった本社工場を、昭和37年（1962）にこの地に移転して大きくなりました。

今ではここに本店、工場、研究所があり、本社は大阪へ移しています。毎日、大きなトラックが原料や製品を輸送しています。



▲旭松食品(株)

■オムロン飯田株式会社

桐林運動場の近くにある大きく明るい建物で、自動車電装部品を中心に医療機器やOA関連機器などを製作しています。

約350人の人々が働いています。

以前は伊賀良中村にありましたが、昭和60年（1985）に竜丘のこの地に移ってきました。

町なかと違って空気がきれいなので、精度の高い機械を作るのにとても良い環境といっています。

■KOA株式会社

国道151号線のサンヒルズ入口の信号を西に上っていくと整った竹林が目に入ります。この竹林も雑木林も、この会社の社員の手で作られたものだそうです。この環境の中に抵抗器専門の生産工場があります。

昭和15年（1940）に伊那市で誕生した古い会社ですが、この地に工場をつくったのは平成4年です。

“ものづくり”に精通した^{たくみ}匠のような技術者を育てたいという願いで「^{たくみ}匠の^{さと}里」と名付けています。現在の匠の里の従業員は300名余で、竜丘では大きな工場の一つです。

■株式会社^{てんりゅう}天竜

長野原の中央に広い敷地をもっていて、釣竿のほかゴルフシャフトなどを作っている従業員95名程の会社です。

以前あった「日本建工」という会社の跡地に、鼎から平成3年に移転してきました。

■株式会社マルヒ

国道151号線のサンヒルズ入口の信号を西へ300m程上った右側に平成11年に上久堅から移転してきた会社で、ロボット等の^{くどうそうちよう}駆動装置用のステップモーター、DCモーターなどを従業員約80名で組立生産している会社です。

■飯田^{ていつう}帝通株式会社

時又駅の西側にある会社で、今は60名の従業員が軽電気機械器具を製造しています。ここは、昭和13年（1938）に広い桑畑や水田を用地としてできた製糸^{せいし}工場天竜社があったところへ、昭和33年（1958）に進出してきました。会社の敷地内には、下原第1号古墳があり、大切に保存されています。

■長野原機器株式会社

長野原地区の南東にあり、従業員40名の会社でエンコーダーなどの精密機器の組み立てをしています。昭和47年に設立された会社です。

環境産業公園

天竜川の治水対策事業で、時又の島地区と、上川路の一部を埋め立てるために、桐林の山が一つなくなるほど土を採りました。その平らになったところを環境産業公園として整備しました。

この公園内には、環境について学ぶセンターを作ることも考えられています。

今のところは、第一期（約4ha）として平成11年から利用開始されていますが、残されている約3haの土地は第二期として、平成14年から利用できるように考えられているそうです。

第一期で整備されたところへは、まわりに豊かな森林があるので、自然環境^{いた}を傷めないようにという地元の要望と、飯田市の「環境

文化都市」というスローガンや願いから、平成12年4月に普通の工場と違った次のような二つの工場ができました。

株式会社アース・グリーン・マネジメント

ペットボトルを再生（リサイクル）するための工場で、ペットボトルを粉砕しペレットにして出荷しています。そのペレットはシャツやシートや文具用品^{ざいりょう}の材料になります。

ペットボトルは、燃やしてはいけないゴミの代表です。それを再生することにより大気や地中を汚したりすることがなくなるという仕組みを大事にしています。もちろん、工場から煙や音など環境を悪くすることのない仕組みになっているそうです。

エコトピア飯田株式会社

この工場は、新聞古紙を断熱吸音材に加工しています。

この断熱吸音材は、熱や音を通さない省エネルギー型の建築材です。こうしたものを新聞古紙のみを原料として製造するのは、日本で初めてだそうです。これからの住宅にとって、多くの利用が見込まれるものだそうです。



▲環境産業公園

2. 人々に^{やくだ}役立っている社会施設

地域は、道路の開発、人口の増加などによって次第に姿を変えています。それを地域発展といひましょうか、変貌といひましょうか。大事なことは、その地域の固有なものは、消滅しないようにしたいものです。固有なものを生かし、人々が健康で豊かな生活を営むことができるように願うものです。そのような見方から施設を中心として地域環境を考えていきたいものです。

桐林クリーンセンター

一市三町二ヶ村で構成する飯田衛生施設組合が事業主体になって、昭和61年（1986）に着工して3カ年の歳月と約20億円を費やして建設した焼却場は、平成元年から稼働しています。現在、広域連合によって、より安全な焼却炉の建設が平成14年の完成を目指して進められています。環境・公害に配慮した最新式焼却炉で、文字通りクリーンな施設を目指しています。完成後は飯田・下伊那の広い地域から焼却ゴミが持ち込まれることになっています。

サンヒルズいいだ

飯田勤労者総合福祉センターとして、平成元年12月にオープンしました。「サンヒルズ」の愛称で親しまれています。

敷地面積は5,000㎡、建物面積は2,000㎡で静かな環境にあるこの施設は、勤労者を中心に働く人々の生活の相談や、講習会や研修会も行い、また、グループ活動の場として会場を提供するなど、地域の人々の生活や文化の向上に役立っています。

なかにある25mの温水プールは、クリーンセンターの余熱を利用しています。

桐林運動場

クリーンセンターのとなりに、平成元年5月にオープンしました。13,000㎡の広さをもつ運動場は、早起き野球、夜間ソフトボール、女性ソフトボール、少年野球などの練習や大会などに使用されています。

また、周囲には昭和54年（1979）に整備された市営墓地公園もあり、サツキ、ハギ、アジサイなど25種の樹木が植栽されて、墓地公園にふさわしい環境が保たれています。



▲桐林運動場

飯田市竜丘青少年センター

小学校の下段にある建物で、昭和63年（1988）に地域の子どものための場所として開設されました。ここは、竜丘電気利用組合事務所→竜丘公民館、竜丘図書館、竜丘青年会の集会施設として使われていたところです。

二階が「竜丘児童センター」となっており、学校の授業が終えたあとの児童を預かり、健全な遊びや仲間づくりを学ぶことを願いとし

て運営されています。平成12年4月現在で48名（38世帯）の子どもが在籍しています。

一階には柔道場があり、青少年クラブの柔道や空手道を学ぶ人たちの練習や試合に使われています。また、隣の二部屋は、地域の青年会の活動の部屋として使われています。

福祉施設 明星学園

駄科新井原地籍にある障害者の方々の学習や仕事の世話をする学園施設です。

昭和36年（1961）に創設し50名の定員で発足しましたが、次第に施設を整え、障害の重い人たちを含め現在110名程と多くなっています。幅広く一貫した指導訓練や楽しい生活の場を提供しています。

地域とのつながりも深く、7月の明星学園祭には、緑ヶ丘中学校の生徒、竜丘・伊賀良両小学校の児童、保育園の園児、また、福祉関係や地域の皆さんなどボランティアの方たちも積極的に参加して、和やかで楽しいお祭りをしています。

また、学園の皆さんは、竜丘市民運動会や地区文化祭にも参加して交流を深めています。



▲福祉施設 明星学園

新竜丘公民館（飯田市生涯学習センター）



▲竜丘公民館外観

小学校に隣接する「前ノ原」地籍が適地ということで、多くの地権者の理解と協力をいただき、平成13年3月に竣工しました。

以前あった公民館（時又）は駐車場が狭く、施設も老朽化したため、早くから新しい公民館の建設を望む声があり、実現したものです。

敷地面積は約7,000㎡、延べ床面積は1,700㎡です。環境に配慮した設備を整え、約100台分の駐車場を用意しました。

何よりも竜丘の特色を生かした施設として、「ふるさと学習室」「情報展示コーナー」「大ホール」などユニークなものがあり、地域の人々の交流や様々な学習ができるようになっています。建設総工費は約5億円です。

竜丘郵便局

明治34年（1901）時又郵便扱所として設置され、明治39年（1906）に「竜丘郵便局」と改称されました。当時は、長石寺の坂を下りてきたところにありました。

大正5年（1916）に電話交換台が設置され電話加入台数は18台でした。昭和25年（1950）でも57台と、今に比べるとたいへん少なかったのです。

今の場所に移ったのは昭和42年（1967）で、電話交換はしていませんが、郵便、小包、金融と幅広く扱っています。

駄科郵便局は、平成3年5月に開設され盛んに利用されています。

J R飯田線 時又・駄科駅

無人化が進んで、今は寂しい駅舎となっていますが、昭和40年代には駅長をはじめ駅員も3～4人おり、乗降客も多く大事な交通機関として利用されていました。手荷物や小荷物も取り扱っていました。

駄科駅は昭和2年（1927）、時又駅は昭和3年（1928）に開設されました。

昭和19年（1944）4月1日に伊那電気鉄道により、国鉄飯田線となりました。それ以前は、上川路の地籍に「開善寺前」と呼ぶ駅がありました。

近年では、天竜川の治水対策事業によって、飯田線の線路が天竜川の堤防側に移設され、平成13年4月から運用されています。国県道の発達と鉄道^{すいたい}の衰退について、歴史を振り返ることも大事なことです。



◀ J R飯田線 時又駅

V. 郷土を学ぶわたしたち

1. 発見！ たつおか！

竜丘小学校では、『発見！ たつおか！』というテーマのもと、各学級で郷土を学ぶ学習が盛んに行われています。竜丘に生まれ育っていく子どもたちにとって、自分たちの郷土をさまざまな角度から調べていく学習は、とても貴重な体験です。

ここでは、平成11年度に「古墳」と「新川」を題材にして活動していった6年生の姿を紹介します。

6年1組 竜丘の古墳調べ

活動はこうして始まった

5月、竜丘地区巡り遠足を実施しました。

古墳や川を中心に地区を歩いた子どもたちは、特に古墳に強い関心を示しました。

ある子どもは、こんな願いをもちました。

「竜丘にある古墳を、全部見に行きたい。」

「もっといっぱい古墳の勉強をしたい。」

この願いがきっかけとなって、活動はスタートしました。

活動の方向はこうして決まった

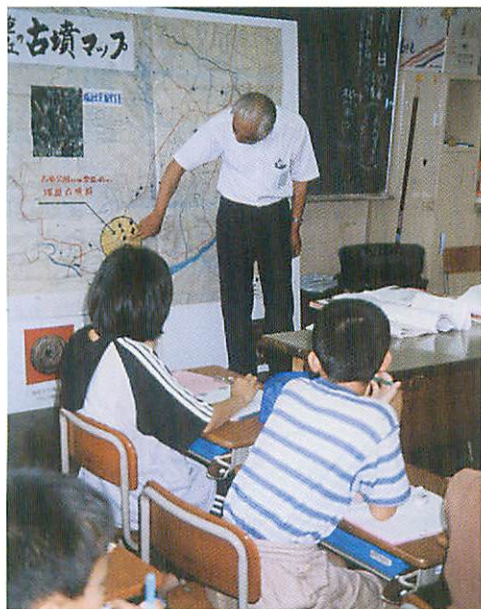
7月、「竜丘古墳を考える会」の会長さんを教室に招いて、古墳についての学習会を行いました。

会長さんから、竜丘の古墳の数や場所や調査方法を教えていただき、活動の計画ができました。

25基の古墳を調べる

7月から12月にかけて、子どもたちは現存する古墳の中で、形がきちんに残っているものを中心に、調査を行いました。

大きさを計測したり、特徴を調べたり、近くに住む方のインタビューをしたり写真やビデオに記録したりと、工夫した活動が展開されていきました。



▲会長さんのお話を聞く子どもたち

子どもたちの感想

僕たちは、塚越1号古墳を調査しました。見たときは、草ぼうぼうで調査できるか心配でした。草の中をどんどん進んでいくと、なんと石室がありました。こんなに感動したのは久しぶりでした。中は広かった。どんな人の古墳なのか知りたくなりました。

子どもたちの調べた25基の古墳

No.	古墳の名前	地区
1	御所山古墳	駄科
2	平塚古墳	駄科
3	塚越1号古墳	駄科
4	番匠塚古墳	駄科
5	権現堂1号古墳	駄科
6	前林古墳	桐林
7	前の原古墳	桐林
8	丸山古墳	桐林
9	梶垣外古墳	桐林
10	大塚古墳	桐林
11	兼清塚古墳	桐林
12	蒜田古墳	桐林
13	塚原二子塚古墳	桐林
14	内山塚古墳	桐林
15	塚原3号古墳	桐林
16	鏡塚古墳	桐林
17	鎧塚古墳	桐林
18	黄金塚古墳	桐林
19	二ツ塚1号古墳	長野原
20	二ツ塚2号古墳	長野原
21	下原1号古墳	時又
22	金山二子塚古墳	上川路
23	馬脊塚古墳	上川路
24	御猿堂古墳	上川路
25	権現3号古墳	上川路

今日、第2回目の古墳調べをしました。今回は、先生がいなくて、ちょっと不安だったけど、頑張ろうと思いました。権現堂1号古墳は、遠くから見てみると結構小さかったので、そんなになんか思っていたけれど、測ってみたら回りは156m、高さは15mもありました。さすがに大きくて大変でした。でも子どもたちだけでできてうれしかったです。



▲馬背塚古墳の広さにびっくり

活動はこのようにまとめていった

3学期（1～3月）は、古墳調べのまとめを行いました。

まずは、「竜丘の古墳調べ」という本を作りました。ひとつひとつの古墳についてまとめたり、地図を作ったり、感想文を書いたりして32ページの冊子を作り上げました。

次に、パソコンでホームページを作成してインターネットで発信しました。

アクセスの方法は、

<http://www.iidanet.or.jp/its/school/61kofun/>

で竜丘小のホームページがでます。

そこから「竜丘の古墳」を見つけてください。

活動を終えて子どもたちの感じたこと

竜丘のいろいろなところに古墳があってびっくりした。いつも知らずに通りすぎていたなんて…。

身近にたくさんの古墳があることがわかった。



▲平塚古墳を調査中の子どもたち

自分の住んでいる地区に古墳がたくさんあって、歴史のある場所なんだなあと思いました。

古墳がきれいなまま残っていて、よかったです。



▲下原1号古墳を調べる子どもたち

クラスみんなで、協力して頑張って古墳を調べられたことがとてもうれしかった。

古墳調べをして、たくさんのことが勉強できたような気がしました。竜丘の古墳を大事にしたいです。



▲権現堂古墳全景

古墳調べをしていくうちに、古墳の大切さがわかりました。初めのうちは、ただ調べているだけだったけど、だんだん数少ない古墳がどんな方法で作られたのか？どのくらい時間を費やして作られたのか？誰がまつられているのか？疑問がわいてきて、もっと詳しく調べたくなりました。

しかし正しい答えは見つけれませんでした。

だから、わたしたちが今できる『古墳を大切にする！』ということを守っていきたいと思います。

6年2組 新川探検隊

活動のきっかけ

自分たちの住む竜丘の、どんなことを調べたいか話し合っていく中で、普段から新川へ遊びに行っていた子どもたちから、「新川探検をしてみたい！」という意見が出され、「やってみよう。」という多くの子どもたちの希望で始まりました。

活動してきたこと

第1回探検 9月13日（木）

探検隊の子どもたちの先導で、竜丘橋より新川沿いに上り、国道を過ぎた辺りで水着に着替えて川に入りました。

深みで泳いだり、魚を捕まえたり、さらに上流へとさかのぼっていきました。

大きな堤防の下には深い淵があり、そこへのダイビングも楽しみました。

子どもたちの感想から

○新川で泳げて楽しかったけど、もう少し水がきれいだったらいいな。

○ゴミがたくさんあって、おどろいた。

○魚がいて良かった。捕まえたい。

○もっともっと上流まで行ってみたい。



▲えん堤下で水遊び

第2回探検 11月6日(土)

9月に遊んだ辺りのゴミ拾いをしました。たくさんのゴミで、ゴミ袋5袋にもなりました。

とくに多かったのが空缶とビニール類で、ズボンを濡らしながら必死になって拾いましたが拾いきれませんでした。

自由時間には猿橋までさかのぼり、ダムを作ったり水切りをしたりして遊びました。

夏より水が澄んでいて驚きました。



▲探検の様子

第3回探検 12月4日(土)

11月に拾いきれなかった上流のゴミ拾いをしました。12月の新川の水は冷たく、日陰には氷も張っていました。

11月に拾ったところには、あまりゴミはなく新たに捨てられてはいないことがわかりました。今回も空缶とビニール類が多かったです。

第4回探検 1月29日(土)

竜丘橋から下流へは、まだ行った子どもはいませんでした。そこで係の子どもたちが下見をした結果、何とか行けそうだということになり真冬の川下りとなりました。

川の中を歩く子、川岸を歩く子、みんな未知の世界への探検という感じでした。

本当に天竜川まで着けるのか心配しながら道なき道を進んでいきました。

歩くこと1時間半、ようやく39人全員が天竜川との合流地点までたどり着くことができました。

下流にもゴミは多かったですが、歩くのが精一杯で拾うことはできませんでした。

しかし、念願の天竜川まで到達でき、子どもたちは満足そうでした。

ある子どもの作文から

ぼくにとって新川は、いやなことを忘れさせてくれるというか、うまく言えないけど、心の落ち着く所、そしていつまでもあきない所です。

少しはコンクリートとかでいろいろされているけど、あれだけ自然の残っている川は、そうないと思う。

魚が泳ぎ、水もきれいだ。

魚取り、深いところへの飛び込み、水切り、泳ぐ、釣り……いろいろなことができるし、新しい発見もできる川です。

ただ、少しゴミが捨ててあるので、ゴミを拾えばもっといい川になると思う。



▲川遊びの様子

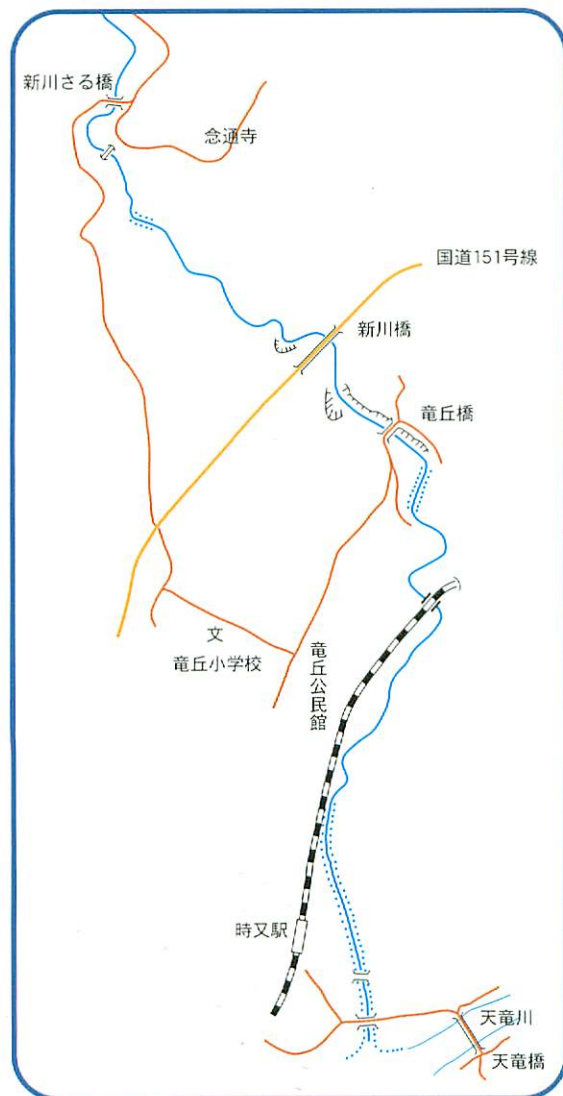
活動のまとめ

新川のことを学校みんなに紹介して、後輩たちにも新川に関心を持ってもらおうということで、新川の地図と楽しく遊べたところを模型にしました。ゴミ問題のことも模造紙にまとめて展示しました。

卒業するまで、クラスの多くの子どもたちが、新川に遊びに行っていました。

新川探検隊～新川を歩いてみよう～

自分たちの新川マップを作ってみよう。



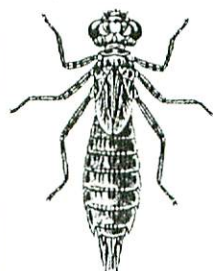
探検してどんなことが見つかったかな？

今度はちょっと水の中を探ってみよう。

どんな生き物が棲んでいるかな。

【水生昆虫】…違いを観察してみましょう。

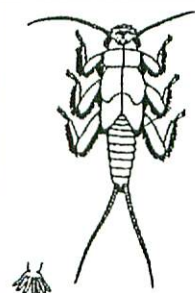
トンボのなかま



トンボの幼虫の特徴

1. ヤゴと呼ばれています。
2. ヤゴには様々な形のものがあります。ヤゴの期間も30日のものから、6・7年のものもあります。これは、食べもの・すみか・かくれ場所がちがうからです。
3. えらも、直腸えらと尾えらといわれる2つの型があります。

カワゲラのなかま



カワゲラの幼虫の特徴

1. あしのつめが2本。
2. 尾が2本。
3. えらはふさ状か指状で、あしのつけねや肛門、あごの下などにある。(えらのない種類もある)
4. 前胸・中胸・後胸の区別がはっきりしている。

カゲロウのなかま



カゲロウの幼虫の特徴

1. ふつう尾が3本。(まれに2本の種類もある。)
2. つめが1本。
3. えらは毛状か葉状で、5～7対。腹部の横についている。
4. 前胸と中胸は、はっきりしているが、後胸は背面から、はっきりわからない。

身近な地域の自然に接して、気づいたことや、興味をもったことを調べてみましょう。

お家の人や、先生に聞いてみるのも良いでしょう。

2. 見つけたよ！竜丘なんでも一番！

「竜丘のギネスブックを作りたいなー」そんな子どもたちの声を少しだけ実現してみました。

まず子どもたちに、何の一番が知りたいかアンケート調査をしました。そして出された多くの項目について、平成12年7月に全校児童の家庭から情報を集めました。

こうして、子どもたちが選んだ『竜丘なんでも一番！』を作りました。しかし、ここにのせたものはまだまだ不十分なもので、もっと別の情報をお持ちの方もいらっしゃると思います。

是非、いろいろなご意見をお寄せください。そうして、この『竜丘なんでも一番！』をもっともっと充実させていきましょう。

人 物

Q：一番東西南北に住んでいる人

東…小川 潤さん（駄科918-10）

西…筒井 光男さん（上川路779）

南…木下 育夫さん（上川路1070）

北…田中 耕平さん（駄科1844-3）

Q：一番標高の高い所に住んでいる人

関島 大二さん（駄科と下殿岡との境）

Q：一番成功した人

株式会社ヤクルト創業者 代田 稔博士

代田 稔さんは、明治32年（1899）飯田市駄科に生まれました。

東京帝国大学で微生物の研究をして、昭和5年（1930）にヤクルト菌の培養に成功しました。その後、ヤクルトの製造販売を開始し、世界中にヤクルトを広めました。

昭和57年（1982）、82歳で死去されました。

Q：一番長生きしている人

原 八代さん（桐林）

原さんは、明治30年（1897）12月14日

生まれの103歳です。

飯田市の長寿番付の3番目の方です。

Q：一番竜丘の古いことに詳しい人

中田 美穂さん（桐林）

Q：一番地区の運動会で活躍する人

橋爪 辰彦さん（時又）

Q：一番家族の人数の多い小学生

鈴川 裕太君（5年生）・翼君（2年生）

駄科に住んでいる鈴川君の家族は9人。

おじいさん、おばあさん、お父さん、お母さん、5人の男の子 だそうです。

Q：一番長い名前の小学生

宮下 秀一郎君（6年生）

みやしたしゅういちろう で11字です。

場 所

Q：一番標高の高いところ

上川路

高野の三角点

標高565.4m

高野の三角点 ▶



Q：一番標高の低いところ

天竜川 標高365m

Q：一番自然の残っているところ

白井川秘境 ※(本文45頁 参照)

Q：一番大きな建物

竜丘小学校

Q：一番長い橋

新川橋 128m



▲新川橋

Q：一番カブトムシのとれるところ

鈴岡公園

Q：一番高い建造物

桐林クリーンセンターの煙突 59m

生物

Q：一番高い木

八幡神社(上川路)のモミ 高さ40m

※(本文60頁 参照)

Q：一番太い木

開善寺(上川路)のイチヨウ 周囲6.5m

※(本文60頁 参照)

Q：一番古い木

今村東一郎さん(時又)宅の黒松

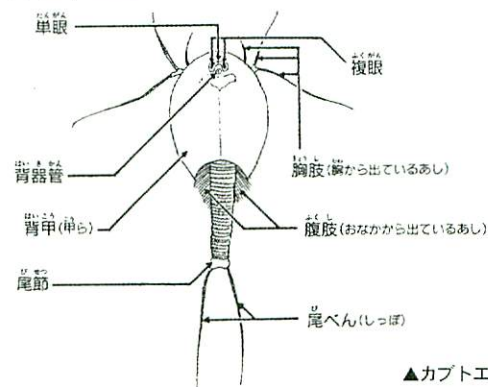
樹齢およそ600年 ※(本文61頁 参照)

Q：一番有名な生物

ギフチョウ ※(本文54頁 参照)

Q：一番珍しい生物

カブトエビ



▲カブトエビ

その他

Q：一番有名なお祭り

初午はだか祭り

Q：多い名字ベスト5 (平成12年4月1日現在)

第1位 下 平 107軒

第2位 中 島 57軒

第3位 今 村 56軒

第4位 熊 谷 54軒

第5位 小 林 51軒

Q：今一番、一生懸命取り組んでいること

新竜丘公民館の建設



▲建設中の新竜丘公民館(平成12年11月)

し き お り お り 四季折々の散歩みち

～自然散策コース～ コースをえらんで遊んでみよう

移りゆく四季折々の表情

竜丘の自然は東に天竜川、それに注ぐ毛賀沢川、大井川、新川、西沢川と駒沢川、臼井川、茂都計川と久米川それぞれの間に、竜丘の名のごとく丘からできあがっています。

鈴岡公園から上川路の高野まで続く緑の里山、黄金色にかがやく豊かな田畑、人々の住む美しい家なみ、これらが様々な文化を育んできました。

今残っている140基を数える古墳群や、鎌倉時代に建造された開善寺等の歴史と、大正時代の自由画教育等に見られるように自由を尊ぶ精神等が引き継がれています。

この歴史と文化の里「竜丘」、自然環境と共生する「竜丘」を多くの人たちに知ってもらい、今残っている里山の自然と歴史、文化を将来に伝え残したいと思います。

生き生きとした自然、歴史、文化を、自分の足と、目で確かめながら、健康づくりを兼ねて歩いてみませんか！

竜丘の四季折々の散歩コースを紹介します。

自然保護憲章

自然をとうとび 自然を愛し
自然に親しみ 自然に学び
自然の調和を損なわないようにしましょう
美しい自然
大切な自然を長く子孫に伝えよう

散策にあたっての注意

- 車には十分に気をつけて、必ず横断歩道を渡りましょう。
- 時間にゆとりをもってあるきましょう。【日没を計算にいれましょう。】
- 途中で休憩を入れるなどして、体の負担を気遣いましょう。
- 季節によって、服装・雨具に気をつかいましょう。
- 文化財は貴重なものです。大切にしましょう。
- 道がわからない時は、まわりの人にたずねましょう。
- 家族の方には、散策の予定を知らせておくようにしましょう。
- 草花を採取するのはやめましょう。
- 単独や、子どもたちだけで山間のコースに向かうのはやめましょう。
- 自分でだしたゴミは、必ず持ち帰りましょう。



※出発前に竜丘公民館にお立ち寄りくだされば、各コースのアドバイスをいたします。

驚流峡～時又港散策コース



1. 鷺流峡～時又港散策コース（距離6.5km）

1コース（6.5km）

鷺流峡を眼下に見ながら、長野原、時又を散策します

竜丘公民館

(0.5km)



竜丘橋

(0.7km)



JA竜丘支所

(0.7km)



JR遠州街道踏切

(0.8km)



鷺流峡(ほっきバス停)

(0.6km)



長野原金山神社

(0.2km)



ニツ塚古墳

(0.5km)



五万堂坂

(0.4km)



時又八王子社

(0.25km)



長石寺

(0.3km)



天竜橋

(0.1km)



ウエストーン碑

(0.2km)



時又港

(0.4km)



JR時又駅

(0.8km)



竜丘公民館

(ゴール)

みどころ

● 久保尻の石神



▲久保尻の石神

● 竜丘変電所

昭和40年に作られ、竜丘、上久堅、下久堅、松尾の一部に配電しています。



▲竜丘変電所

JR 遠州街道踏切 とトンネル入口



▲長野原トンネル入口

竜丘橋と新川展望

(本文45・47頁参照)

この橋を渡る道は竜丘中央線と呼ばれている道で、明治の中頃に造られた幹線道路でした。今でも通学路として駄科、長野原の人達に使われています。

新川は子どもたちの川遊びの場所として親しまれています。

坂の途中から新川の上流域や下流域が一望でき川の様子かわかります。

新川西側の原さん宅の脇に大座井の取水口が見えます。北沢さん宅脇から、古い下条街道が南に真っ直ぐ続きます。

JA みなみ信州竜丘支所

(本文26頁参照)

JAみなみ信州竜丘支所は、大野製糸竜丘産業組合から竜丘農業協同組合を経て、現在に至っています。



▲JAみなみ信州竜丘支所

鷺流峡展望

(本文2・50頁参照)



▲鷺流峡

県道米川飯田線で駄科から時又までの天竜川沿いを通称「ほっき」といいます。

(もとは国道151号線)

南原橋から時又まで約1kmの深い溪谷の一角を鷺流峡といい、この間の眺めは素晴らしいところです。

● 駒つなぎの桜 (本文60頁参照)

ほっきの中程の道下に、4月初旬に淡いピンクの花が咲く枝垂れ桜があります。

● 湯之瀬の湯 (本文60頁参照)

鷺流峡右岸中程の崖下に約270年前に発見された湯之瀬の湯と呼ばれる鉱泉がありました。前沢さん隣の小林八十吉住居跡に歌碑があります。

● 湯之瀬の上にある 長野原団地と長野原機器



▲市営長野原団地

長野原金山神社

(本文14・37頁参照)

長野原の中央に檜の御神木があり、遠くからも見られます。祭神は金山荒神で鍛冶屋の祀る金物の神様といわれています。その他いろいろな石碑があります。

大野保造の算額が奉額されており、師匠の斉藤保定の墓が社の近くににあります。



▲金山神社の石仏とお稲荷様

● 大井川 (本文40頁参照)

金山神社から二ツ塚に向かう途中、大井川を横断します。この付近に昔のままの石積の姿が見られます。

二ツ塚

(本文12・70頁参照)

金山神社から西に200m進んだところにあります。長野原では比較的原形を保っている円墳です。



▲二ツ塚古墳2号から1号を望む

五万堂坂

(本文37頁参照)

長野原と時又の境界付近の坂道は五万堂坂と呼ばれています。護摩堂があったので名付けられたと言われています。この坂付近には馬頭観音像などがあります。



▲五万堂坂付近のお地藏様と石仏



● カルニュー光学 (本文64頁参照)



▲カルニュー光学

時又八王子社

(本文15頁参照)

境内に杉やコウヤマキの大木があり、この社は、悪病退散の神社として崇められています。



▲境内の十社小祠

● 旧竜丘公民館・竜丘支所



▲旧竜丘公民館・竜丘支所

長石寺

(本文15・37頁参照)

3月初旬の初午はだか祭り、8月の盆の灯ろう流しなどの祭事が行われています。境内の北側に多くの石仏が見られます。最近、佛足石、佛手石の足形手形が作られました。



▲長石寺本堂



▲境内北側の石仏群

● 時又 保育園

長石寺の境内にあります。



▲時又保育園

● 大東の松 (本文61頁参照)

長石寺の山門を下った所の今村さん宅に竜丘で一番古いと言われる黒松があります。さらに坂を下った県道沿いの角は、旧郵便局があったところです。

天 竜 橋

(本文46頁参照)

昭和10年(1935)に架けられた橋です。欄干に長老松という盆栽のような不思議な松があります。この橋は、まもなく架替の計画があります。

ウ エ ス ト ン 碑

新川が天竜川と合流する所の公園に碑が建立されています。明治42年(1909)英国人ウエストーン牧師が時又港から舟下りをして、この景勝地を世界に紹介しました。当時の時又港と天竜舟下りをしのんで昭和40年5月に建立されました。



▲ウエストーン碑

● 紙屋大隅の屋敷跡



▲紙屋大隅の屋敷跡の石碑

時 又 港

時又港は、豪快天竜舟下りの港として賑わっています。

ここにはウエストンのレリーフと天竜川の激流と題した顕彰碑が平成5年4月(1994年)に建立されています。



▲時又港



▲時又港の標高と入口看板▲

竜 丘 郵 便 局

(本文68頁参照)

昭和42年に現在の場所に移って竜丘地区の郵便、小包、金融を扱っています。



▲竜丘郵便局

J R 時 又 駅

(本文47・69頁参照)

昭和3年に開設された駅で現在は無人駅となっています。



▲JR時又駅

● ホタルのいる川 (本文62頁参照)

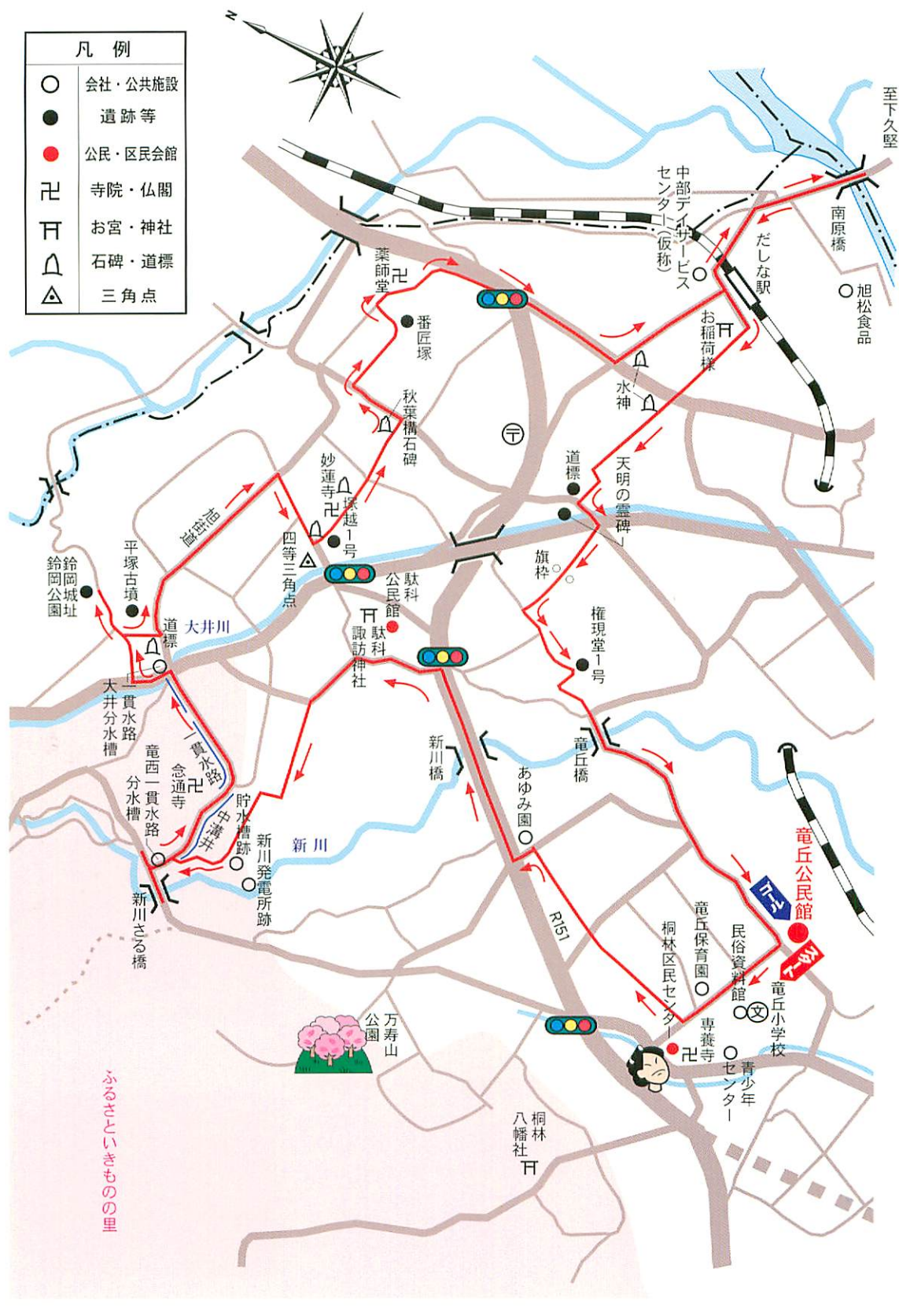
時又駅から小学校の通学路の付近井水にホタルの餌のカワニナがあるので、夏になるとホタルが飛び交います。



▲ホタルの舞う場所

鈴岡公園～南原橋(駄科一周)散策コース

凡 例	
○	会社・公共施設
●	遺跡等
●	公民・区民会館
卍	寺院・仏閣
卍	お宮・神社
△	石碑・道標
△	三角点



ふるさといきもの里

2. 鈴岡公園～南原橋散策コース（距離7.4km）

2コース（7.4km）

竜丘公民館

(1.4km)



駄科諏訪神社

(0.2km)



新川発電所跡

(0.2km)



竜西一貫水路分水槽

(0.3km)



念通寺

(0.8km)



鈴岡公園

(0.5km)



塚越1号古墳

(0.8km)



薬師堂

(0.9km)



南原橋

(0.5km)



JR駄科駅

(0.5km)



道標

(0.5km)



権現堂1号古墳

(0.3km)



竜丘橋

(0.5km)



竜丘公民館

(ゴール)

水路沿いを歩き自然を満喫、たくさんの石碑に出逢えます

数多くの石仏のある念通寺の高台と、鈴岡公園から眺望できる南原橋までの駄科地域を散策するコースです。

みどころ

● あゆみ園

新川橋の手前に、社会福祉法人あゆみ園があります。障害者の方たちの通称授産施設です。

駄科諏訪神社

(本文13・21・36頁参照)

諏訪神社には御柱の神事がなく、かわりに甘酒祭りが行われていました。正面の石垣に、この石垣を築造した年号が刻まれていて【写真1】昔の村人の思いが伝わってきます。拝殿の周りの釘隠しや、屋根の棟に松皮三階菱の紋【写真2】がついています。この紋は小笠原家の家紋です。拝殿の脇にいくつもの石碑があります。

こまかい 狛犬【写真3】は、どちらが雄でどちらが雌でしょう？（答えは欄外にあります。）

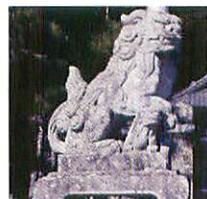
お宮の西側の川にはホタルの棲む川があり、地域の人達が川をきれいにしカワニナの棲めるように取り組んでいます。



【写真1】 正面石垣の年号



【写真2】 三階菱紋



【写真3】 境内の狛犬



新川発電所跡

(本文45頁参照)

竜丘地区では、大正4年（1915）から昭和17年（1942）まで竜丘電気利用組合により発電と配電の事業が行われていました。大正4年に建設され、昭和32年（1957）に廃止された新川発電所の貯水池跡です。この南側下方に発電所がありました。出力は35kwで、工事費は27,482円でした。



▲新川発電所貯水池跡



▲一貫水路中溝井分水槽

竜西一貫水路分水槽

(本文46頁参照)

新川さる橋の北側に竜西一貫水路のトンネル出口があり、駄科寺下・南平を潤している中溝井へ分水しています。

念通寺

(本文14・19・36頁参照)

参道石段両側に、弘法大師【写真1】や観音菩薩【写真2】の石仏がずらりと並んでいます。山門には「寶楼閣」というかわった額や、本堂には豪華な「須臾提淨」という額を見ることができます。山門付近からは、駄科、長野原、桐林遠くは、龍江、上久堅方面まで眺望できます。



【写真1】 弘法大師



【写真2】 観音菩薩

【写真3】の答え…右の宝玉を持っているのがお母で、子犬をかわいがっている左がめすです。

● 竜西一貫水路 大井分水槽

鈴岡公園の真下をずい道で通ってきた一貫水路の分水槽です。大井川に分水し駄科、長野原、時又の大切な水源となっています。



▲大井分水槽

鈴岡城址・鈴岡公園

(本文25、26頁参照)

城址図に沿って掘り跡【写真1】をみると大きな城跡であることがよく理解できます。公園入り口から少し入った右の手の下方に青面金剛【写真2】の石仏があります。庚申様と同じ意味をもっています。公園全体にツツジが植えられており5月には色とりどりのツツジがさきます。また園内に藤棚がありこれも見事な花を見せてくれます。竜丘のギフチョウの生息の北限がこの公園です。公園の北側の遊歩道で松尾城址公園や念通寺断層の露頭の場所に行くことができます。



【写真1】鈴岡城址堀跡



【写真2】公園にある青面金剛像

平塚古墳

(本文11・17頁参照)

鈴岡公園から南側の小道を降りたところがあり、一本の檜と、小さな鳥居があります。近くの壁に一貫水路と書かれた銘板があります。一貫水路の下流が団体営、上流が県営と境となっています。



▲道標

● 道標 (本文37頁参照)

急な坂を下りきった所に、途中から折れている小さな石の道標があります。この坂道は駄科から伊賀良へ通じる重要な道であったので、駄科青年会が建てたものです。

● 旭街道のツツジ (本文64頁参照)

道路に面した田んぼの土手にツツジやサツキが植えられています。地域を明るくしようと地元の皆さんが取り組んでいるものです。



▲旭街道のツツジ

塚越1号古墳

(本文3・11・70頁参照)

県道駄科大瀬木線の信号機の北側に入ったところにあります。馬背塚に並ぶ大規模な石室があり、中に入ることができます。



▲塚越古墳の石室

石仏と妙蓮寺

(本文36頁参照)

塚越古墳の隣に妙蓮寺(元十王堂)があります。その周りには多くの石仏があります。



▲妙蓮寺周辺の甲子の碑



▲妙蓮寺(元十王堂)



▲妙蓮寺周辺の石仏

● 四等三角点

甲子の石仏の南の土手上に四等三角点があります。このほかに桐林、長野原にもあります。



▲四等三角点

● 駄科旧道の秋葉様

(本文29頁参照)

この街道は下条街道で、江戸時代から明治時代に商店や職人の家が並び往来で賑わった道で、秋葉様の石碑があります。街道筋に屋敷の跡の石垣が残っています。



▲秋葉様の石碑

● 駄科薬師堂

(本文13・20・36頁参照)

薬師堂は飯田十二薬師の四番目の札所です。境内には蚕玉様の祠があります。



▲薬師堂の蚕玉観世音菩薩



▲祠の天井にある棟札

● 番匠塚古墳 (本文12・70頁参照)

薬師堂の南西にある円墳で、未発掘の古墳ともいわれています。

● 南原橋

(本文46頁参照)

県道米川駄科停車場線の天竜川に架けられた橋で、今の橋は12代目の橋です。天竜川の上流の眺めと、下流の鷺流峡を眼下に観ることができ、特に紅葉の時期は一段とその景観がひき立って見えます。



▲橋上からの景観

● 水神様 (本文14頁参照)

駄科下平にはあちこちに水神様の石碑があります。水道が引かれる前は、共同井戸を掘って飲み水を汲んでいました。水の大切さを感謝して祀ったものです。



▲水神様の石碑

● 旭松食品株式会社 (本文65頁参照)

JR駄科駅の東側に、凍豆腐の生産で有名な旭松食品の工場と研究所があります。

● 駄科駅

(本文46・96頁参照)

駄科駅は昭和2年に開設された駅で、今は無人に駅になっています。平成11年に駅舎が火災になり新しく建て替えられています。駅前にお稲荷様があります。



▲駄科駅



▲駅前のお稲荷様

● 道標と霊碑

(本文36頁参照)

下条街道の下平と南平の境、関島さん宅角に道標があります。また旧道と大井川の角に天明飢饉の霊碑があります。

● 権現堂1号古墳

(本文12・70頁参照)

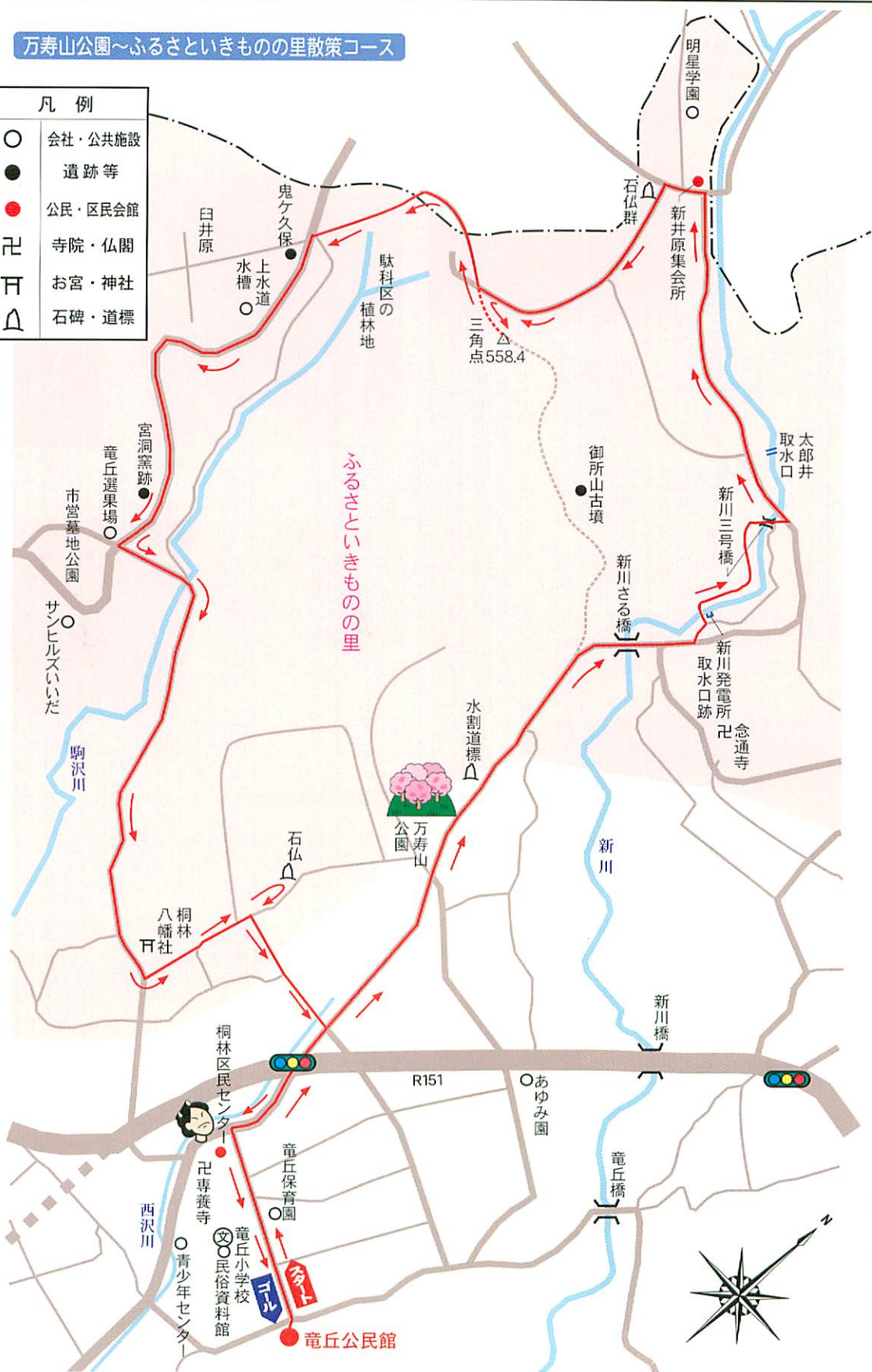
駄科諏訪神社の参道を西に進むと左側に権現堂1号古墳があります。前方後円墳の姿が残っています。



▲権現堂1号古墳

万寿山公園～ふるさといきものの里散策コース

凡 例	
○	会社・公共施設
●	遺跡等
●	公民・区民会館
㍻	寺院・仏閣
㍻	お宮・神社
△	石碑・道標



3. 万寿山公園～ふるさといきものの里コース（距離7.4km）

3コース（7.4km）

竜丘公民館

（1.0km）



万寿山公園

（0.7km）



新川さる橋

（1.3km）



新井原石仏群

（1.0km）



三角点

（0.6km）



鬼ヶ久保

（1.7km）



桐林八幡社

（1.1km）



竜丘公民館

（ゴール）

万寿山の桜はお花見シーズンに、是非訪ねてください

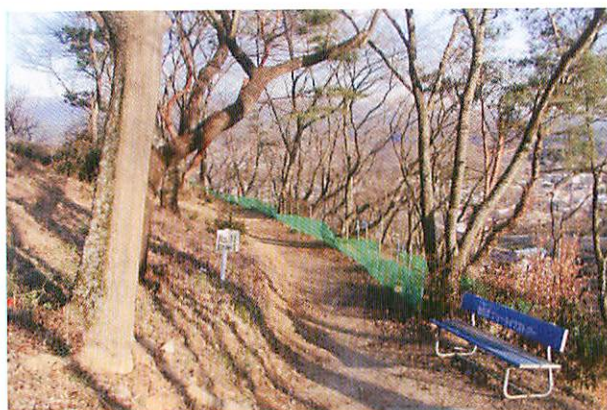
4月初旬の桜の頃に、三角点、白井原からの竜丘の眺望と春の芽吹きを感じながらの散策を楽しめます、秋は紅葉と山の幸にもお目にかかれます。

みどころ

万寿山公園

（本文59頁参照）

万寿山公園は昭和初期に地元の有志の人達が植えた、150本余りの桜の公園です。饅頭の形からその名前をつけられたそうです。4月初旬にはお花見の場所として多くの人達で賑わいます。現在ではマレットゴルフ場も作られスポーツの憩いの場になっています。万寿山には、石仏があります。



▲桜とマレットゴルフコース



▲公園名碑

● 水割の道標と分水槽

（本文39頁参照）

万寿山公園東側駐車場脇の水割には一貫水路の分水槽や道標があります。



▲桐林水割の道標



▲一貫水路の太郎井分水槽

新川さる橋

（本文73頁参照）

平成10年3月に新しく架けられ桐林から新井原に車で通ることができるようになりました。



▲橋の親柱



▲橋のレリーフ

● 元新川発電所取水口跡

新川さる橋から左の小道を降りると新川にでて小さな橋を渡ります。この近くに新川発電所の取水口がありました。

● 新井原集会所の二宮金次郎 (本文35頁参照)



▲二宮金次郎像

集会所には二宮金次郎の石像や、道標があります。

● 明星学園 (本文68頁参照)

新井原集会所の少し上に社会福祉法人明星学園があります。障害者の方々の施設です。

● 太郎井の取水口



▲太郎井の取水口



▲明星学園外観

新井原石仏群

(本文35・36・37・38・39頁参照)

白井原の登り口の道端に観音菩薩などの石仏が数基並んでいます。【写真1・2・3】昔は伊賀良へ通じる重要な道であったことを示しています。



【写真1】新井原の石仏



【写真2】新井原の石仏



【写真3】新井原の石仏

三角点

白井原へ通じる道路の頂上付近にあるギフチョウ棲息の看板【写真1】から左に小道を辿っていくと標高558.4mの三等三角点【写真2】に着きます。

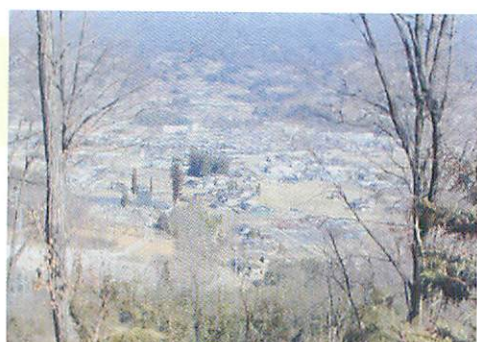


【写真1】棲息の看板



【写真2】三等三角点

竜丘から竜東にかけて眺望できます。周辺は春夏秋冬を通じて自然を満喫できます。【写真3】



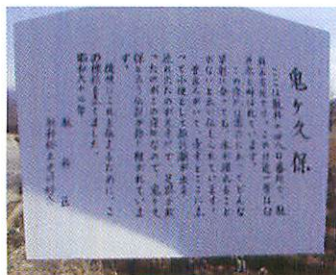
【写真3】三角点より駄科を望む

鬼ヶ久保

鬼ヶ久保は、今は道路改良などにより水溜まりに水がなくなりましたが、数年前まではいつも水が溜まっていて高所で水が枯れないことは珍しいことでした。



▲鬼ヶ久保の水溜まり



▲鬼ヶ久保の由来の看板



【写真1】白井原遠景



【写真2】駄科区有林

臼井原

(本文2・47・48・51・52頁参照)

竜丘の段丘のなかで高く広い平らな耕地【写真1】です。臼井原から道路沿いにはここを源流としている駒沢川が流れています。この周りは駄科区の区有林【写真2】です。植林されていますので何年かすると景観が変わります。途中上水道の水槽【写真3】があり、少しくだと道路山側に古墳時代の宮洞窯跡【写真4】がありました。今は道路工事で消滅しています。



【写真3】上水道の水槽



【写真4】宮洞の窯跡があった場所

● 竜丘選果場 (本文47頁参照)



▲竜丘選果場

桐林八幡社

(本文17・38頁参照)

誉田別尊の座像が御神体です。本殿のかえる股の彫りものは桃山式建築の優れた技法といわれています。境内には神様や神社名を刻んだ石碑が多くあります。直会殿には数多くの絵馬などの額があります。

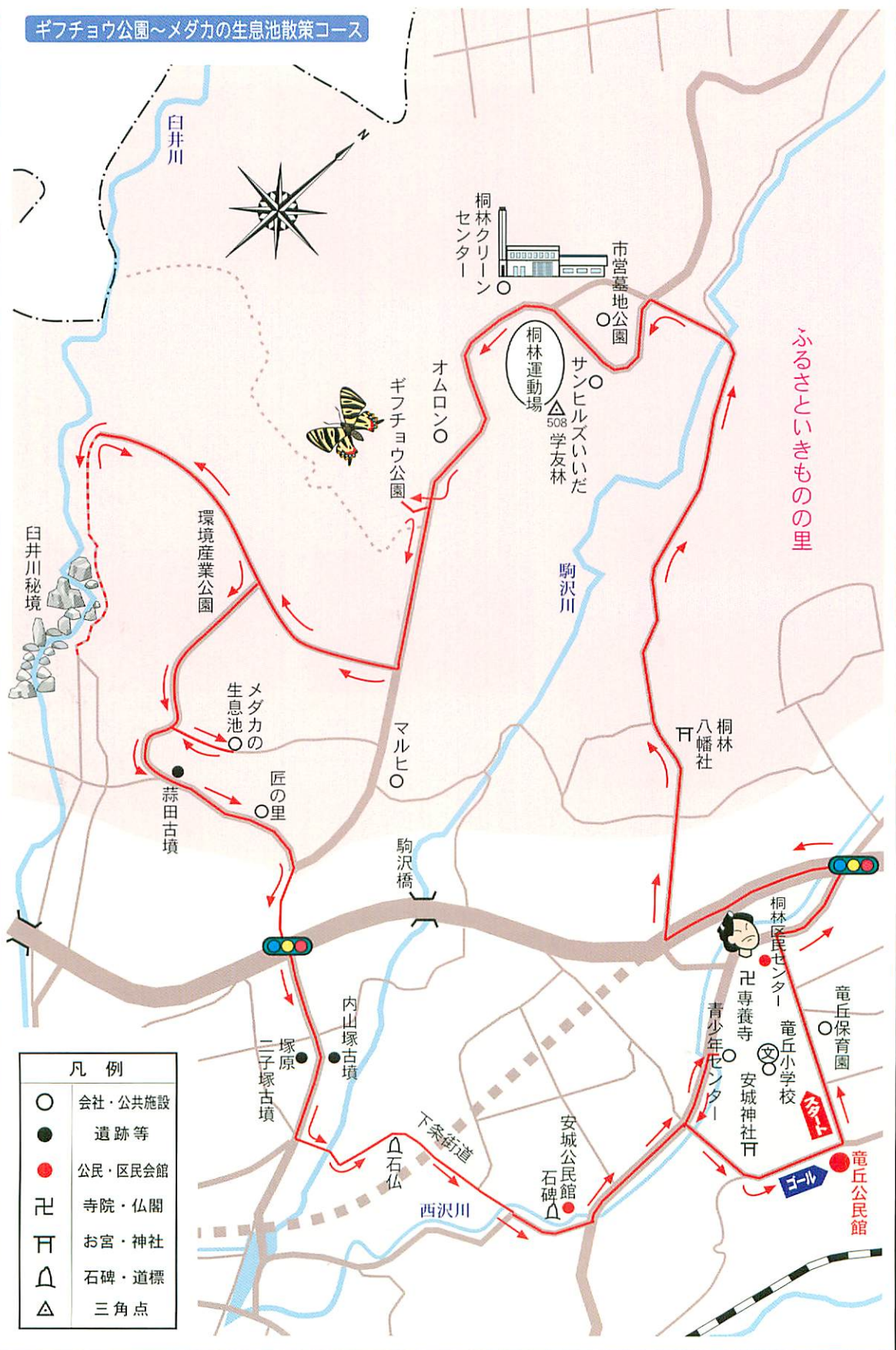


▲境内の石碑



▲誉田別尊座像

ギフチョウ公園～メダカの生息池散策コース



4. ギフチョウ公園～メダカの生息池コース（距離5.1km）

4コース（5.1km）

竜丘公民館
(2.1km)



サンヒルズいいだ
(0.4km)



ギフチョウ公園
(0.5km)



環境産業公園
(0.5km)



メダカ生息池
(0.5km)



塚原二子塚
(1.1km)



竜丘公民館
(ゴール)

自然に棲む生き物を観察しながら人と自然の共生を考えよう

春の女神ギフチョウやカブト虫などの色々な生き物にふれながら自然散策と、環境に配慮した施設をめぐる。

みどころ

● 竜丘小学校（本文31頁参照）

竜丘小学校は、100余年にわたり地域の文化を育む中心となって人々の心のよりどころとなってきました。校舎内の古い土蔵【写真1】は、埋蔵文化財や自由画を収蔵していた大切なものです。学校改築の折も地区民の熱意により、取り壊しをまぬがれました。校舎の周りには卒業生が記念として残している石碑【写真2・3】がいろいろあります。



▲竜丘小学校校舎



【写真1】土蔵



【写真2】海抜碑



【写真3】記念碑

● 竜丘保育園



▲竜丘保育園

● 市営墓地公園（本文60頁参照）

昭和54年に開園され、周囲にはさつき、はぎ、あじさい等25種の樹木が植栽され環境にマッチした墓地公園になっています。



▲市営墓地公園

サンヒルズいいだ・桐林運動場

（本文67頁参照）

平成元年にできた飯田勤労者総合福祉センターは、サンヒルズいいだの愛称で、文化教養、研修、グループ活動の場として活用されています。クリーンセンターの余熱を利用した温水プールや隣接した桐林運動場は、地域の多くのスポーツ愛好の人達に利用されています。



▲サンヒルズいいだと桐林運動場

● 竜丘小学校学友林

竜丘小学校の学友林は桐林運動場の東側の山です。頂上には、四等三角点があります。



▲学友林の頂上



▲学友林の入口

● 桐林クリーンセンター (本文67頁参照)

平成元年から稼働しました。飯伊広域連合の焼却設備です。特に高い煙突は遠方からもその存在が確認できます。現在、公害防止のための最新式焼却炉の建設が進められています。



▲桐林クリーンセンター

● オムロン飯田(株) (本文65頁参照)

クリーンセンターの下にある、大きく明るい建物で、自動車の部品やOA機器などを制作しています。



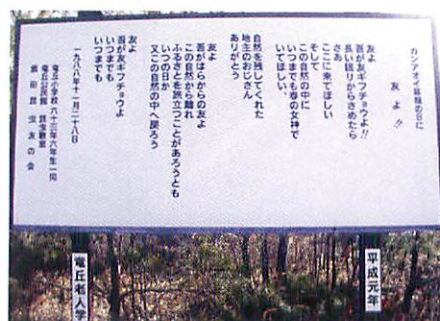
▲オムロン飯田(株)

ギフチョウ公園

(本文2・52・54・76頁参照)

オムロン駐車場の横がギフチョウ公園です。飯田昆虫友の会と竜丘小学校の生徒と老人会の人達が整備し保護活動を今も続けています。

昭和63年6月5日、全国119箇所内の1箇所として、竜丘の上段の自然が環境庁よりふるさといきものの里の指定を受けました。



▲ギフチョウ公園内の看板

環境産業公園

(本文66頁参照)

天竜川治水対策の土取り場跡地の産業公園に、株式会社アース・グリーン・マネジメント(ペットボトルのリサイクル)、エコトピア飯田株式会社(新聞古紙のリサイクル)が平成12年より稼働しました。



▲環境産業公園の工場

● 臼井川秘境 (本文45・76頁参照)

産業公園の奥に入ると臼井川秘境の上流に出ます。下流に下れば臼井川秘境です。



▲秘境に続く臼井川

メダカの生息池

(本文53・56・62・63頁参照)

匠の里KOAの西上に塩沢勘一さんが長年メダカの棲める自然を大切に、唯一竜丘の貴重な固有種として守り続けているメダカの泳ぐ池があります。

● 蒜田古墳 (本文9・70頁参照)

竜丘では最も古い古墳で方墳ではないかと考えられています。



▲蒜田古墳

塚原二子塚

(本文6頁参照)

塚原には多くの古墳があります。塚原二子塚、鏡塚、鍬塚、内山塚、塚原二子塚、黄金塚などです。

● 安城石碑 (本文38頁参照)

安城公民館には秋葉山大権現、金比羅大権現など大きな石塔が並んでいます。



▲安城の石碑

● 飯田市竜丘青少年センター (本文67頁参照)

地域の子どものための課外活動の場として柔道・空手道の練習に、また、地域の青年会の活動の拠点として使われています。



▲飯田市竜丘青少年センター

● 匠の里KOA (本文65頁参照)

工場のまわりに竹木などを植え込んで自然環境に配慮した工場になっています。匠の看板は、ものづくりに精通した匠のような技術者を育てたいという願いで名付けられました。工場敷地内に弥生時代の方形周溝墓がありました。現在は更埴市の県歴史博物館に復元されています。



▲KOAの工場のまわり

● 下条街道 (本文29頁参照)

コースのうち上川路金山から桐林安城までの間は下条街道といわれた道です。道沿いに石仏があります。



▲下条街道の石仏

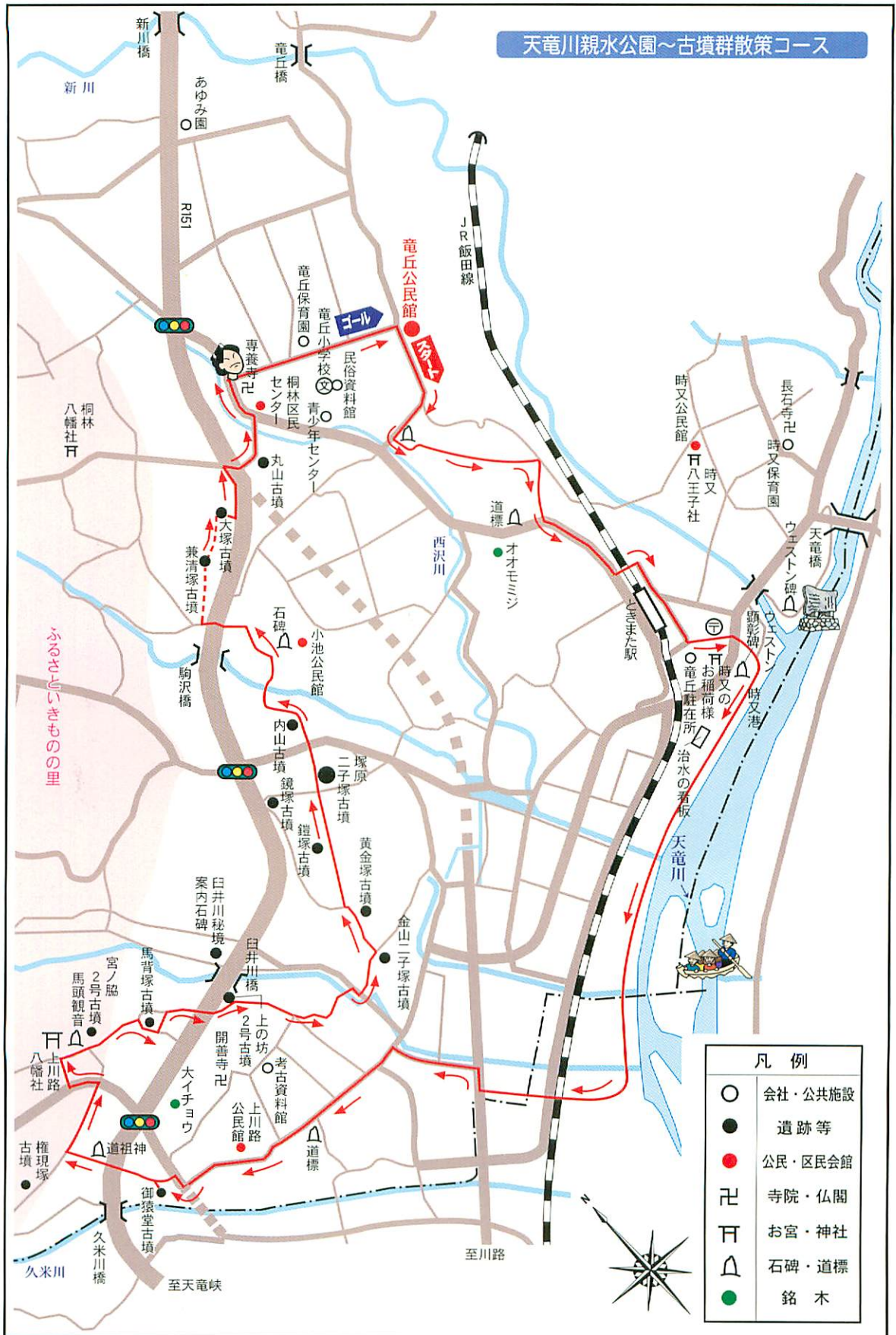
● 桐林の安城神社

坂の途中に安城神社のお稲荷様があります。



▲桐林の安城神社

天竜川親水公園～古墳群散策コース



5. 天竜川親水公園～古墳群散策コース（距離7.3km）

5コース（7.3km）

竜丘公民館
(1.1km)



時又駅
(0.3km)



時又港
(1.0km)



天竜川親水公園
(1.1km)



開善寺
(0.2km)



御猿堂古墳
(0.4km)



権現塚古墳
(0.4km)



上川路八幡社
(0.4km)



馬背塚古墳
(0.7km)



二子塚古墳
(0.4km)



駒沢橋下
(1.0km)



桐林区民センター
(0.3km)



竜丘公民館
(ゴール)

古墳を訪ねて いにしえに思いをはせる、趣きのあるコース

天竜川沿いの親水公園の自然に親しみ、開善寺の古き昔を偲び、上川路古墳群を見学しながら散策します。

みどころ

● 下条街道の道標と石仏群

この細い道は下条街道です。昔の面影を残しています。広い道に出る少し前に道標と年号の古い石仏があります。



▲石仏群



▲道標

● お稲荷様

駐在所を左に曲がるとお稲荷様があります。



▲お稲荷様

● 竜丘駐在所



▲竜丘駐在所

● 道標（本文30頁参照）

開善寺前の小林さん宅横に下条街道の道標があります。



▲小林さん宅横の道標

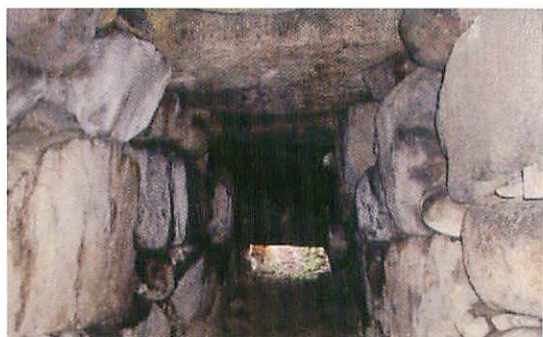
親水公園

竜丘地区治水対策事業で土地区画整理や、既存企業の再配置、環境調和型住宅による町づくり（エコハウジングビレッジ）を進めています。新堤外池は水辺の楽校として整備し、水に親しむ公園づくりを進めています。緑地帯には、桜の並木道や、遊歩道等の計画が進められています。

御猿堂古墳

(本文3・5・70頁参照)

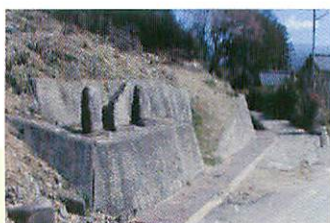
ドライブイン開善路の前の小高い所が県史跡指定の御猿堂古墳です。ここから出土した四仏四獣鏡は国の重要文化財に指定されています。南側中腹に大きな石室があり中に入ることができます。古墳の登り口は民家の裏側です。



▲御猿堂古墳の石室

馬頭観音

この石仏から奥の細い道に入ると宮ノ脇古墳があり、その先に馬背塚古墳があります。



▲馬頭観音

宮ノ脇2号古墳

(本文6頁参照)

前田井の脇の斜面に、小さな横穴式石室の玄室が露出しています。



▲宮ノ脇2号古墳

道祖神

(本文38頁参照)

国道151号線上川路の信号機から西側に道祖神と彫った石碑があります。



▲道祖神

上川路八幡社

(本文16・38頁参照)

宮の前地区の高台にあり、74段の石段を登ります。周りには大きな樅や檜があります。中段の平にある舞台が直会所になっています。本殿の横には石碑があります。



▲直会所



▲八幡社本殿横の石碑

馬背塚古墳

(本文2・3・6・70頁参照)

八幡社前の前田井沿いに下がると、県の史跡指定を受けている横穴式石室をもった古墳があります。一つの古墳に二つの石室があり、自由に入って見学できます



▲馬背塚古墳の西石室

金山二子塚古墳

(本文3・6・70頁参照)

大型の前方後円墳で、横穴石室がりのぞくことができます。



▲金山二子塚古墳の石室入口



▲金山二子塚古墳

塚原古墳群

(本文6頁参照)

塚原の南から黄金塚、鎧塚、塚原二子塚、鏡塚、塚原3号、内山塚等多く古墳を見学することができます。



▲塚原二子塚古墳の後円部から前方を見る



▲塚原二子塚古墳後円部頂上

小池石碑 (本文38頁参照)

小池集会所に秋葉山大権現、金比羅大権現等の大きな石碑が並んでいます。



▲小池の石碑

兼清塚への入口

駅沢橋をくぐって兼清塚に至る上り口。



▲兼清塚入口

桐林の古墳 (本文9・10・70頁参照)

兼清塚古墳、大塚古墳、丸山古墳があります。特に兼清塚は飯伊地区の前方後円墳で最も古いと考えられています。



▲兼清塚古墳

桐林の人形 (本文67頁参照)

桐林人形の「かしら」50点が、桐林区民センターの土蔵造りの部屋に収納されています。



▲桐林区民センター



▲兼清塚古墳にある石仏



▲大塚古墳

専養寺 (本文17頁参照)

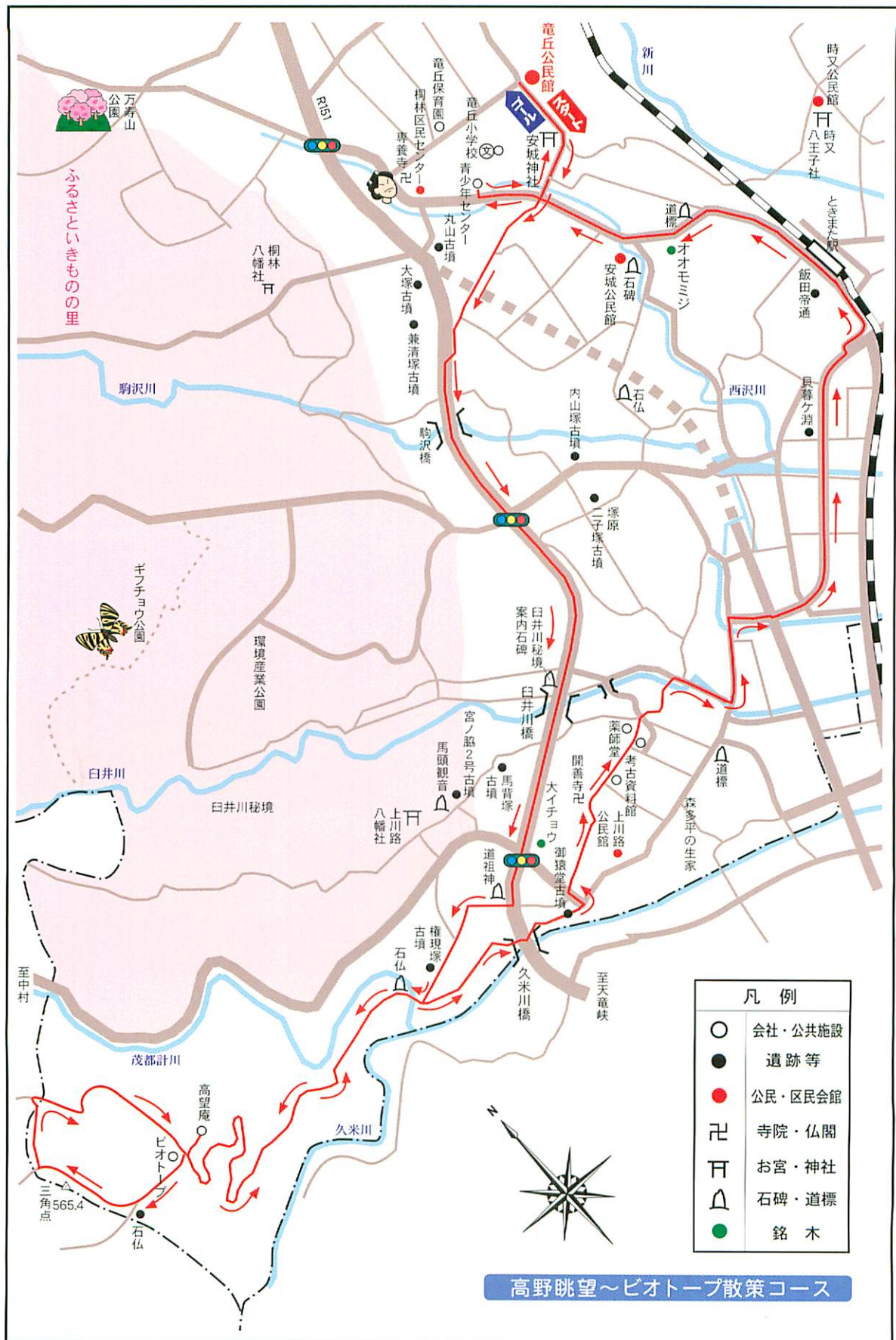
本尊は観世音菩薩ですが、薬師如来もまつられていて、桐林区民の寺として親しまれています。毎年4月には修養会大般若が行われています。石仏もあります。



▲専養寺の名額



▲専養寺東側の石仏



凡 例	
○	会社・公共施設
●	遺跡等
●	公民・区民会館
卍	寺院・仏閣
卍	お宮・神社
△	石碑・道標
●	銘 木

6. 高野眺望～ビオトープ散策コース（距離9.3km）

6コース（9.3km）

竜丘公民館
(2.1km)



上川路信号機
(0.2km)



権現塚古墳
(1.6km)



石仏群(高野弘法)
(0.6km)



三角点
(0.8km)



信夫園(ビオトープ)
(0.3km)



高望庵
(1.6km)



開善寺
(1.0km)



治水対策事業内
(1.1km)



竜丘公民館
(ゴール)

じっくり時間をかけて豊かな自然に寄り添うように歩く

上川路高野の自然豊かな山道の散策と、水棲生物の生息が見られる信夫園を訪れるコースです。

みどころ

● 臼井川秘境入口 (本文15頁参照)

中原団地下に臼井川秘境
と書いた石碑があります。



▲臼井川秘境への入口看板

権現塚古墳

(本文4・6・70頁参照)

上川路国道信号より西側にある小規模な円墳です。昭和24年に表土を掘り取っていたところ、石室が現れ遺物が多く出土しましたが、戻したと言われています。

● 茂都計川の石仏 (本文38頁参照)

権現塚先の茂都計川の傍らに石仏があります。



▲茂都計川の石仏

● 久米川発電所跡 (本文15頁参照)

竜丘電気利用組合により大正11年11月完成した
発電所で、昭和24年5月に休止となりました。
入口に看板があります。



▲久米川発電所跡地入口の看板

弘法様の石仏群

(本文38頁参照)

高野山道の途中に南無観世音菩薩、厄除弘法大師
塔、庚甲塔などの石仏が並んでいます。



▲弘法様の石仏

高野の三角点

(本文75頁参照)

中村との境に標高が竜丘
で一番高い三角点があり
ます。標高565.4m三等
三角点です。



▲三角点をめざして登る

信 夫 園

(本文62頁参照)

三角点から休耕田の中を下ると、井口正三さんが管理しているビオトープ、ネムの木信夫園に着きます。メダカ、タイコウチ等の珍しい水棲生物が多く生棲しています。



▲ビオトープ



▲高望庵

高 望 庵

信夫園から少し下り左側の小道を入ると、高望庵があり、上川路をはじめ天竜川を挟んで龍江方面まで眺望できます。

● 大いちょう (本文60頁参照)

開善寺の西側に推定樹齢400年といわれる大いちょうがあります。小笠原貞宗の墓所といわれています。



▲高望庵からの眺望

開 善 寺

(本文2・53頁参照)

山門右側には、藤棚があります。また鐘楼の前には牡丹苑がありその花の時期には多くの人達で賑わいます。お寺の裏庭には、どうだんを配した飛来峯という庭園があります。山門、鐘楼は貴重な文化財です。



▲開善寺境内のお稲荷様



▲亀を型どった開善寺の庭

● 飯田市考古資料館 (本文39頁参照)

開善寺の東側に並んで、飯田市が調査発掘した遺物などの埋蔵文化財が収蔵展示されています。



▲考古資料館で説明を聞く子どもたち

● 森多平生家 (本文41頁参照)

飯田考古資料館から薬師堂に向かったところに生家があります。

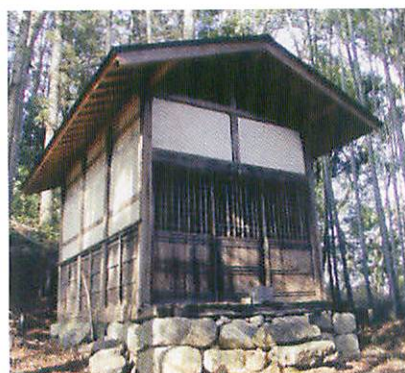


▲森多平生家の門

● 上川路薬師堂

飯田市考古資料館から東に進んだところに薬師堂があります。

観音像、地藏像、青面金剛像、庚申供養塔等があります。



▲上川路薬師堂



▲薬師堂の石仏群



▲薬師堂のそばにある観音像

● 貝暮ヶ淵跡

かいくらがふち

帝通の南側に昔、島の平らに貝暮ヶ淵と名付けられた天竜川の淵があったという伝説があります。

● 飯田帝通と下原古墳 (本文66頁参照)

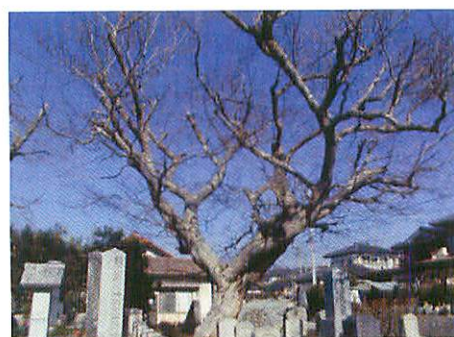
JR飯田線時又駅の西側にあり軽電気機械器具を製造しています。敷地内には、下原1号古墳があります。



▲下原1号古墳

● オオモミジ (本文61頁参照)

時又駅上の墓地に推定樹齢300年ともいわれるオオモミジがあります。



▲オオモミジ

● 元石佛跡の石碑



▲元石佛跡の石碑



▲元石佛跡



▲元石佛跡

文中用語の索引

……………五十音順に掲載されています。複数回登場するものもすべての掲載頁を表記しました。

ア

あい	53
愛染神社	45
アオゲラ	49
アオサギ	50
青大将	53・56
あおのきちよっか	51
アオマツムシ	52
あおろじ	53
あかうお	53
アカゲラ	49
あかとんぼ	56
アカバチ	51
アカモズ	49
秋葉講	29・85
あげはちょう	55
あけび	57
浅井湖	31
朝学	43
旭街道	64・84
旭松食品株式会社	65・85
アジサイ	67
アシナガバチ	51
東屋	19
アブラゼミ	51・56
アマガエル	53・56
甘酒祭	13・28・83
アメンボウ	51・56・62
アユ	53
あゆみ園	83
新井原井	45
新井原集会所	88
阿羅多堂	13
蟻地獄	52
安城石碑	38・93・95

イ

飯田市考古資料館	39・100
飯田市竜丘青少年センター	67・93
飯田市役所竜丘支所	80
飯田帝通	66・100
いかだ	46
伊賀良井	44
イカル	49
イカルチドリ	50
いくち	57
井口正三	62
石井鶴三	32
石舞台	4
イソシギ	50
いたどり	55
市村威人	34
イチョウ	60・76・96
一貫水路	46・83・84
いととんぼ	56
イナゴ	52・57
イヌノヒゲ	62
稲刈	27
イノコズチ	58

いぼがえる	53
イモリ	53・56・62
イラガ	52
イワツバメ	49
印度更紗	14

ウ

ウエストーン碑	81
うきす	53
ウグイ	53
雲珠(うず)	5
臼井川	45
臼井川秘境	45・76・92・99
臼井原	2・47・48・51・52・89
ウスバカゲロウ	52
内山塚古墳	8・70
雨天体操場	31
ウナギ	53
ウマオイ	52・57
ウマノスズクサ科	54

エ

栄徳院	15
益島	53
エコトピア飯田株式会社	66
エゾハルゼミ	51
エダナナフシ	52
エナガ	49
エノキ	59
エノコログサ	57
絵馬	18
遠州街道	30
遠州街道踏切	79
円筒植輪片	12

オ

大井川	44・80
オイチョウ	60・96
おおしんつく	51
おおぜみ	51
オオタカ	48
大塚古墳	4・10・70
大野保造	14・22・42
オオモミジ	61・100
オオヨシキリ	50
オオルリ	49
御神楽太鼓	14
岡村二一	42
岡村隆伯	31
おけら	52・57
お講	29
オサムシ	52
御猿堂古墳	3・5・70・96
お釈迦様	16
おしょうにん	57
おたま	51
オタマジャクシ	53・56
おたまっこ	53
オナガ	49

オナモミ	57
鬼ヶ久保	47・89
おにやんま	56
お日待ち	28
お札開き	29
おみなえし	58
オムロン飯田株式会社	65・92
母屋	26
御柱	13
おん火	27
オンブバッタ	52

カ

貝谷ケ潤跡	101
蚕	26
開善寺	2・53・96・100
開善寺前駅	69
カイツブリ	50
廻文	20
カエル	49
かえる股	17
鏡	3
鏡塚古墳	4・9・70
額絵馬	18
学友林	47・92
カケス	49
カゲロウ	74
籠ロジ	25
がごた	53
首(かしら)	17・32
かじわら	51
梶垣外古墳	70
カタクリ	54
カッコウ	49
かとう	51
門松	27

かなかな	51
金刺街道	30
かなぶん	57
金山二子塚	3・6・70・79
かーにら	53
歌碑	33
(株)アースグリーンマネジメント	66
(株)天竜	65
(株)マルヒ	65
カブトエビ	76
カブトムシ	51・56・76
禾本科植物	52
カマキリ	52・57
カマツカ	53
神送塚古墳	4
上川路八幡社	16・38・96
上川路薬師堂	101
上策一郎	32
紙屋大隅の屋敷跡	81
ガムシ	52
カメムシ	52
カモ	50
粥	28

カラス	49・53
カラスノエンドウ	56
伽藍	15
空手道	68
鷺流峽	2・50・79
カルガモ	50
カルニュー光学工業株式会社	64・80
カワウ	50
カワガラス	50
カワゲラ	74
カワセミ	50
カワニナ	53・63
川の島	50
カワラヒワ	49
環境産業公園	66・92
勧請	15・17
観世音菩薩	35・36・37・38・39・88
幹線道路	29
環頭柄頭	5

キ

生糸	26
キイバチ	51
ききょう	58
キジ	49・53
キジバト	49
北沢武	42
北原阿智之介	25
北原更一	32
北原得道尼	36
祈禱	15
キツツキ	49
きつねばな	58
絹織物	26
記念館	40
きのこ	57
木下紫水	21・23・31・41
木下石治	33
きのしへび	53
ギフチョウ	2・52・54・76・92
杏葉(ぎょうよう)	8
巨石	4
キリギリス	52・57
切子玉	5
キリスト伝道館	32
桐林安城神社	93
桐林運動場	67・91
桐林クリーンセンター	67・92・97
桐林古墳群	9・10・70・97
桐林八幡社	17・38・89
キンモクセイ	63
ギンモクセイ	51

ク

草取り	27
くず	58
くそむし	53
櫛(くつわ)	5
クツワムシ	52

クヌギ	57	駒沢川	45	代田稔博士	75	タカ	48
久保尻の石神	79	駒つなぎの桜	60・80	新川	45・79	タガメ	51
くまかじか	53	五万堂坂	37・80	新川さる橋	73・87	駄科駅	46・69・85
クマゼミ	51	コムクドリ	49	新川探検隊	72	駄科学校	14
クマバチ	51	五輪塔	39	新川橋	76	駄科旧道の秋葉様	85
久米川	45	権現塚古墳	4・6・70・99	新川発電所	45・83・88	駄科諏訪神社	13・21・36・83
久米川発電所	45・99	権現堂1号古墳	12・70・85	新川マップ	74	駄科すい道	46・84
くり	57	サ		親水公園	95	駄科薬師堂	13・20・36・85
くりたけ	57	斉藤保定	22・42	ス		駄科郵便局	69
グリーンベルト	50	斉藤操	35	すいこんぼ	55	竜丘公民館	68
黒瀬ケ淵	46	サギ	50	すいっちゃん	52	竜丘の古墳調べ	69
くろまつ	61・76	サクラ	54・59	水神様	44・85	竜丘児童センター	67
クワガタ	51・56	サンバ	48	すいは	55	竜丘市民運動会	68
桑摘み	25・26	座頭の手	45	すうめのさかおけ	52	竜丘小学校	31・76・91
ケ		さつき	64・67	スガラ	51	竜丘小学校自由画考古室	40
毛賀沢川	44	ざりがに	56	すぎ	60	竜丘青年会	67
猷額	18	さわがに	56	ずこんぼ	53	竜丘遊果場	47・89
ゲンゴロウ	51・56・62	算額	22	すじぐろしろちょう	55	竜丘駐在所	95
玄室	6・7	三角点	75・84・88・99	鈴	7	竜丘橋	47・79
源氏ケ滝	45	三環鈴	7	すすき	58	竜丘変電所	79
兼清塚	2・3・9・70	サンコウチョウ	49	鈴岡公園碑	25	竜丘保育園	91
絹本着色八相涅槃図	16・43	サンショウクイ	49	鈴岡公園下の道標	84	竜丘民俗資料館	27・40
ケラ	52	サンヒルズいいだ	67・91	鈴岡城址	24・51・84	竜丘郵便局	68・81
源流	45	シ		鈴岡城址碑	25	脱穀	27
コ		市営墓地公園	67・91	鈴付鏡板	6	盾(たて)	5
コイ	53・56	シオカラトンボ	56	すずしろ	58	壱穴式石室	3
小池石碑	38・97	塩沢勘	63	すずな	58	立川棟梁	15
楮(こうぞ)	26	シジミ	53・56	スズムシ	52	たてはちよう	55
吼雲楼	16	しじみちょう	55	スズメ	49・53	タニシ	53
庚申塚	38	シジュウカラ	48・53	雀の酒桶	52	たまむし	57
高望庵	100	信夫園	62・99	須摩提淨	19	太郎井	45・88
高野	2・38・51・52・99	信夫村	22	スミレ	54・55	段丘	47
高野弘法様石仏群	99	しびとばな	58	セ		短甲	3・6
弘法山	14	四仏四獣鏡	3・5・43	製糸工場	26	断屑	48
高野の三角点	75・99	シマヘビ	53	関孝和	42	タンボボ	55
高野楨	15	島高麿	21	石仏	35	田んぼ	27
高林山念通寺	14・19・36・83	下井	45	セキレイ	50・53	断熱吸音材	66
御詠歌額	21	下条街道	29・93・95	せきりん	53	チ	
KOA欄	65・93	下原1号古墳	66・70	セグロセキレイ	50	チゴモズ	49
コオイムシ	51	下田直樹	34	せせりちょう	55	チジミザサ	58
コオヤマキ	60	下平諦音上人	43	せり	58	チッチゼミ	51
こおろぎ	57	下平芳太郎	31・41	せんだんグサ	57	乳房岩	45
黄金塚	7・70	じゃのめちょう	55	炭道部(せんだうぶ)	6	ちもぐり	53
黄金の滝	45	自由山画教育	2・31・41・42	せんぶり	57	チョウゲンボウ	48
こがねむし	57	自由教育	41	前方後円墳	2・3	長石寺	15・37・80
コガモ	50	自由民権運動	41	ぜんまい	55	直翅目	52
ごぎょう	58	朱印地	16	専養寺	97	直刀	6
石高	13	シュレーゲルアオガエル	53	ソ		チョロ松	50・81
国道151号	30	しゅんらん	55	宗匠	21	鎮守の森	13
コクワガタ	51	十王堂	36	僧兵	15	ツ	
コゲラ	49	柔道	68	ぞうむし	51	塚越1号古墳	3・11・70・84
古利	16	じゅうばこ	51	ソメイヨシノ	59	塚原古墳群	6・93・97
コサメビタキ	49	性秀山開善寺	15・37・96	タ		塚原3号古墳	4・9・70
小島良造	32	精霊	24	大飢饉	4	塚原二子塚古墳	4・8・70・93
コジュケイ	49	ショウリョウバッタ	52・57	大般若	17	つくし	55
御所山古墳	12・70	城陸井	44	タイコウチ	51・62	つくつくぼうし	56
こぜえみ	51	じょうろぐも	57	大座井のサイホン	95	ツチバチ	51
コナラ	57	シラスゲ	62	大東の松	61・81	ツツジ	55・64
小林八十吉	34	シリクロ	51	田おこし	27	つつじ祭り	19
小林洋吉	32・42	代かき	27	田植え	27	つばな	55
コマ	57	シロサギ	50				

ツバメ	49・53
つば	53
テ	
D・D・T	50
鉄鉄(てつぞく)	9
寺小屋	31
てんじんさま	52・57
てんとうむし	56・57
てんりゅうかじか	53
天明飢饉の霊碑	36・85
天竜奥三河国定公園	48・50
天竜川	46
天竜川親水公園	95
天竜社	66
天竜橋	46・81

ト	
とおくろ	51
胴串	33
刀子(とうす)	8
道祖神	96
桐林山尊養寺	17・97
灯ろう流し	29
トカゲ	49・56
時又駅	47・69・81・95
時又港	81
時又八王子社	15・80
時又保育園	81
徳本上人	36
トジョウ	53・56
戸帳(とちょう)	14
トノサマガエル	53・56
トノサマバッタ	52
トビ	48
どぶろく	13
樋ヶ入井	45
どんぐり	57
飛岩井	45
トンボ	74

ナ	
内行花文鏡	7
直会殿(なおりいでん)	22
中田大三郎	43
中田幸	23・43
長野里瀧次郎	14
長野原金山神社	14・37・80
長野原機器廠	66
長野原団地	80
中溝井	45
長屋	26
なでしこ	58
ナズナ	58
ナマズ	53

ニ	
ニイニイゼミ	51・56
西沢川	45
二神二獣鏡	3・9
日曜学校	14・43
二宮金次郎像	88

ヌ	
ヌスビトハギ	58

ネ	
ネコジャラシ	57
涅槃会(ねはんえ)	16
念通寺断層面	14・48

ノ	
野口雨情	25・34
のこぎり	51
ノコギリクワガタ	51
ノスリ	48
ののひる	55

ハ	
俳句額	19・20・21
はぎ	58・67
馬具	3・5
ハクセキレイ	50
はぐろとんぼ	56
はこべら	58
ハシブトガラス	49
ハシボソガラス	49
はっこめっこ	52
初午はだか祭り	28・76
ばった	57
ハナミズキ	63
埴輪	8
ハヤブサ	48
春蚕	25
ハルゼミ	51
ぼらいちご	57
番匠塚古墳	12・70・85
ハンミョウ	52

ヒ	
ヒガラ	49
ヒガンバナ	58
ひきたがえる	53・56
ヒグラシ	51・56
ヒトト	49・53
ヒノキ	60
ヒバリ	49・53
ヒメカンアオイ	54
ヒヨドリ	49・53
ヒヨドリバナ	62
ひやっかじ	53
平塚古墳	11・70・84
蒜田古墳	9・70・93

フ	
フウセンムシ	51
封土(ふうど)	7・9
風土産業	25
ふきのとう	55・58
武具	5
副葬品	4
フクロウ	49
ふじばかま	58
二ツ塚古墳	12・70・80
筆子	31
フナ	53・56
フナソコバチ	51
ふるさといきものの里	54

ヘ	
へくさむし	52
べぼう	51

ホ	
ホオジロ	49・53・58
奉額	18
ハウシゼミ	51
宝楼閣	19
帆立貝式古墳	4・9
ホテル	56・62・81
ボタン	64
ほっき	79
ほとけのざ	58
ホバリング	51
ボブラ	42
ホリドール	50
梵鐘	15

マ	
前田井	45
前の原	47・68
前の原古墳	70
前林古墳	70
勾玉(まがたま)	5・9
マガモ	50
馬背塚古墳	2・3・6・70・96
松尾山長石寺	15・37・81
松尾城址	19
松ヶ崎	52
まつぜみ	51
マツモムシ	51・62
マムシ	53
鱸	26
丸山古墳	4・10・70
まんじゅしゃげ	58
万寿山	59・87

ミ	
ミズオオバコ	62
ミズカマキリ	51・62
ミズスマシ	51・56・62
水鳥埴輪	10
ミズナラ	57
水引	25・26
水割道標	39・87
ミツカドコロギ	52
ミツバチ	51
三極(みつまた)	26
みちおしえ	52
南山街道	30
南原橋	46・85
宮ノ脇2号古墳	5・6・96
ミヤマクワガタ	51
深山自由新聞	41
明星学園	68・88
妙蓮寺	36・84
ミンミンゼミ	51

ム	
向井	45
むかで	56
ムクドリ	49・58
むすび	28
無石室	12
むつ	53
ムトス賞	54

メ	
盟主(めいしゅ)	8
メジロ	49
メダカ	53・56・62・63・92
メタセコイヤ	60
メナキンミズヒキ	58

モ	
木食寛正	15
モズ	49・53
茂都計川	45
元結	26
モリアオガエル	53
森多平	41・100
モミ	60・76
モロコ	53・56
もんしろうちょう	55

ヤ	
厄除	15
屋号	15
ヤジロベエ	57
ヤマアカガエル	53
山岡鉄舟	16・19
ヤマカガシ	53・56
ヤマガラ	49
ヤマセミ	50
山田耕雲	19
やまっかじ	53
大和王権	4
山の鳥	48
山本鼎	31・41

ユ	
糊(ゆき)	5
湯之瀬の湯	60・80

ヨ	
養蚕	25
養蚕家	26
養蚕業	26
ようぞめ	57
横穴式石室	3・6
四時庵精知	21
よしつね	51
ヨシノボリ	53
ヨタカ	49
よもぎ	55
鍛塚古墳	3・4・8・70

リ	
竜西一貫水路	46・83・84
竜西館	26
鱗翅目	52

ル	
瑠璃閣	16
ルリビタキ	49

レ	
霊明窟	16・19
レンゲ	55

ワ	
和歌額	23
和算家	22
渡し船	46
われもこう	57
わらび	55

丘の語部たち

- ・古老の語る竜丘
- ・続 語りつぐ竜丘の記録
- ・続々 とぼしき道を心豊かに

写真で見る竜丘

竜丘村誌

竜丘小学校百年の歩み

下平芳太郎校長と自由教育

追憶 小林洋吉

信州自由民権運動史

飯田市の古木・名木

下伊那先史及原史時代図版

長野県史

下伊那郡史

伊那谷電気の夜明け

下伊那文化事典

伊那谷の古墳

伊那谷の古墳 II

鈴岡公園今昔ものがたり

伊那谷の馬 科野の馬

下伊那の和算（北沢 武著）

自由画の黎明（久山社 刊）

歴史散歩事典

郷土の寺院

編集を終えて

竜丘全域は、学習エリアとしてとらえ、古墳をはじめとして、さまざまな歴史的遺産や特色ある地形と豊かな自然があります。いずれも貴重な財産で、学ぶものがたくさんあります。

地域の姿を知ることは楽しいことです。地域に親しみを持てることは幸せです。この『丘のみちしるべ』を手にして「竜丘発見！」に出かけて見て下さい。

地域の皆さんに重宝がられる教材となることを願って編集しました。

平成13年 春

飯田市竜丘公民館長

編集に携わった人

座長 下平隆司

原田忠治	塩澤義男	今村文一	松下重雄	岡村 巧
牧内裕幸	伊藤公夫	伊東正直	久保田文男	安東雅行
林 洋一				

小学校

山浦正芳	清水彬夫	福沢 宏	野上俊二	新井好隆
宮澤傳二				

木下陸奥(公民館長) 砂場幹雄(公民館主事)

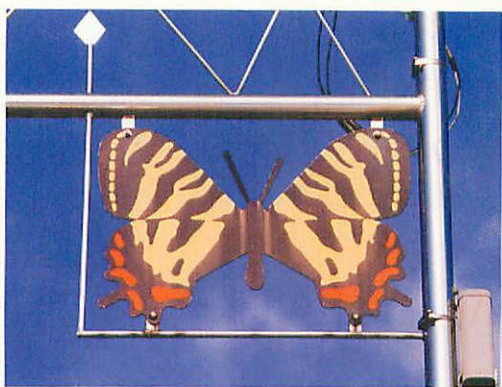
竜丘ふるさと教材 『丘のみちしるべ』

平成13年3月発行

問い合わせ 飯田市竜丘公民館
〒395-2565 長野県飯田市榊林505番地 TEL0265-26-9303

編集・印刷 株式会社ジャステック クリエイティブセンター
〒395-0804 長野県飯田市鼎名古熊2539-1 TEL0265-24-1700

※裏表紙写真：上より
・時叉の灯ろう流し
・地区のシンボル/ギフチョウ
・新竜丘公民館



丘のみちしるべ

飯田市竜丘公民館

住所

氏名

TEL